吉武遺跡群（よしたけ）

XX

－飯盛吉武圃場整備関係調査報告書 14－

総 集 編

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1018集

2008

福 岡 市 教 育 委 員 会

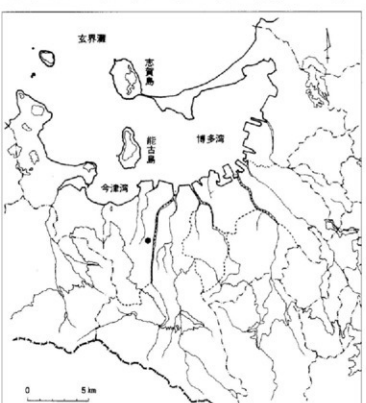
吉武遺跡群

XX

－飯盛吉武圃場整備事業関係調査報告書 14－

総 集 編

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1018集



遺跡略号　YST1・2・4・6・8・9・10・13・14
調査番号　8102，8234，8335，8416，8518，8535，8650，8752，8838

2008

福 岡 市 教 育 委 員 会

遺跡全景（東から 1983年　第４次調査）

吉武高木遺跡全景（南から）

３号木棺墓出土状況
（南から）

吉武高木遺跡副葬遺物

吉武遺跡群調査全景（南西から、L M-16地区、1984年）

吉武遺跡群９次調査出土陶質土器

序

福岡市は、古来より大陸との文化交流の窓口でした。このため市域にはこれをつぶさに物語る数多くの文化財が残されています。

その中で、市の西部に位置する早良平野の西南部には、飯盛山麓を北流して室見川に注ぐ小河川 日向川によって形成された広大な扇状地が広がっています。この扇状地上に遺る遺跡の一つが吉武遺跡群です。

本遺跡は、古くは後期旧石器時代を始まりとして近世まで人々の生活が連綿と営まれており、早良平野の中では特に拠点となる遺跡と考えられています。

さて、本遺跡は、昭和56年度より工事が施行された「飯盛吉武地区土地改良事業」に伴い５ヶ年間、記録保存のための発掘調査が行われました。

調査では、主に弥生時代の大規模な集落・副葬品を多く伴う甕棺墓地や古墳時代のまとまった集落、前方後円墳・方墳を含む古墳群それに古代の寺院あるいは役所と考えられる遺構や数多くの遺物が見つかっています。

これらの調査成果につきましては、これまで各時代を網羅した14冊の調査報告書を刊行して参りました。今年度は最終年度として成果の総集編を刊行いたします。

本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を高められる手助けとなり、また学術研究や生涯教育の分野においても活用して頂けましたら幸甚に存じます。

最後になりましたが、これまで本調査にご協力を頂いた飯盛吉武地区土地改良組合・発掘作業員の方々、報告書刊行の整理作業に熱心に携わって頂いた皆様に対して心からの感謝を申し上げます。

平成20年３月17日

福岡市教育委員会

教育長　　山田 裕嗣

例　言

1．本書は、西区の飯盛吉武地区圃場整備に伴って昭和56年度から同60年度にわたって発掘調査を実施した吉武遺跡群１・２・４・６・８・９・10・13・14次の調査報告書の総集編である。

2．本書で使用した遺構及び出土遺物実測図の作成は、加藤良彦、常松幹雄、井上加代子、石田智子（九州大学大学院生）が行った。

3．本書に使用した遺物類の整理は、加藤良彦、常松幹雄が行った。

4．本書に使用した図面類のトレースは、常松幹雄、井上加代子が行った。

5．本書で使用した遺物写真の撮影は、加藤良彦、常松幹雄が行った。

6．本書の編集は、横山が、執筆は横山・加藤・常松が行った。

7．本書で使用した方位は、磁北である。

8．本書に関わる図面・写真類・出土遺物などの資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵される。

本文目次

第一章　はじめに
1．立地と環境……1
2．調査経過……2

第二章　これまでの調査の総括……5
1．弥生時代のまとめ……8
2．古墳時代のまとめ……49

第三章　調査資料の補遺……58
1．弥生時代……58
① 9次調査出土副葬品など（吉武6次 MN-16地区）……58
② 9次調査出土の弥生土器（大石遺跡青銅器・副葬小壺）……63
2．古墳時代……68
① 9次調査出土の古墳時代の土器……68
② 金武・吉武S－9号墳出土環頭大刀の保存科学的調査……69

第四章　おわりに
1．発見と史跡指定までの道のり……73
2．整備の取り組み……75

挿図目次

Fig. 1　周辺遺跡分布図……2
Fig. 2　調査区位置図(1/2000)……3
Fig. 3　吉武遺跡群弥生墓地・集落遺構変遷図 1……6
Fig. 4　吉武遺跡群弥生墓地・集落遺構変遷図 2……7
Fig. 5　吉武高木遺跡遺構全体図(1/300)……11
Fig. 6　吉武高木遺跡出土甕棺実測図(1/12)(K100・109・110号)……12
Fig. 7　吉武高木遺跡出土甕棺実測図(1/12)(K111・115・116号)……13
Fig. 8　吉武高木・大石遺跡出土甕棺実測図(1/12)(K117・125・51号)……14
Fig. 9　吉武大石遺跡出土甕棺実測図(1/12)(K1・10・45・53号)……15
Fig. 10　吉武大石遺跡出土甕棺実測図(1/12)(K60・67・70・81・140号)……16
Fig. 11　樋渡墳丘墓出土甕棺実測図(1/12)(K 5・61・62・64号)……17
Fig. 12　樋渡墳丘墓出土甕棺実測図(1/12)(K75・77号)……18
Fig. 13　吉武高木遺跡副葬銅剣実測図(1/2)(3・4号木棺墓)……19
Fig. 14　吉武高木遺跡副葬銅矛・銅戈実測図(1/2)(3号木棺墓)……20
Fig. 15　吉武高木遺跡副葬銅剣実測図(1/2)(1・2号木棺墓)……21
Fig. 16　吉武高木遺跡副葬多鈕細文鏡実測図(1/1)(3号木棺墓)……22

Fig. 17　樋渡墳丘墓副葬銅剣実測図(1/2)(K75・77) ……23
Fig. 18　弥生墓地集落全体図(1/3000)(折り込み)
Fig. 19　甕棺の変遷と日常土器の並行関係 ……26
Fig. 20　第９次調査弥生時代遺構全体図(1/600)(折り込み)
Fig. 21　古墳群全体図(1/2000)(折り込み)
Fig. 22　古墳出土須恵器実測図(1/3)(S群17号墳) ……53
Fig. 23　古墳出土須恵器実測図(1/3)(S群27号墳) ……54
Fig. 24　古墳出土須恵器実測図(1/3)(S群28号墳) ……55
Fig. 25　出土須恵器実測図(1/3)(MN－16・17地区試掘) ……56
Fig. 26　古墳出土鉄斧実測図(1/3)(S群9・15・27号) ……57
Fig. 27　K45・51・134甕棺・その他出土遺物実測図(1/1・1/2・1/3) ……58
Fig. 28　吉武大石１号木棺墓出土青銅器(1/2) ……59
Fig. 29　SA-01祭祀土坑出土土器実測図(1/3) ……60
Fig. 30　SA-02祭祀土坑出土土器実測図(1/3) ……60
Fig. 31　SA-03祭祀土坑出土土器実測図(1/3) ……61
Fig. 32　SA-04祭祀土坑出土土器実測図(1/3) ……62
Fig. 33　２号土壙墓出土土器実測図(1/3) ……63
Fig. 34　２号排水路２区SK-01出土土器実測図(1/3) ……63
Fig. 35　２号排水路２区SA-05出土土器実測図(1/3) ……63
Fig. 36　２号排水路２区SK-02出土土器実測図(1/3) ……63
Fig. 37　SK21出土土器実測図(1/3) ……64
Fig. 38　SK125出土土器実測図(1/3) ……64
Fig. 39　SK113出土土器実測図(1/3) ……65
Fig. 40　SK129出土土器実測図(1/3) ……65
Fig. 41　SK150出土土器実測図(1/3) ……65
Fig. 42　SK153出土土器実測図(1/3) ……66
Fig. 43　SK155出土土器実測図(1/3) ……67
Fig. 44　SK180出土土器実測図(1/3) ……67
Fig. 45　SK270出土土器実測図(1/3) ……67
Fig. 46　古墳時代遺物実測図(1/3) ……68
Fig. 47　吉武高木遺跡指定区域図 ……74
Fig. 48　史跡整備計画地の遺構分布図 ……76

表　目　次

Tab. 1　吉武遺跡群調査一覧表 ……4
Tab. 2　吉武遺跡群関連の既刊報告書一覧表 ……24
Tab. 3　甕棺と副葬遺物の対応関係 ……25
Tab. 4　弥生時代墓地一覧表 ……27
Tab. 5　弥生時代生活遺構一覧表 ……41
Tab. 6　古墳一覧表 ……50

第一章　はじめに

1．立地と環境

吉武遺跡群は、福岡市西郊の早良平野に位置する。同平野は、背振山地の裾部から博多湾に向けて開けた小平野である。地勢上、その東縁は背振山地の油山山塊から発し梅林－干隈－別府にいたる低丘陵であり、一方の西縁は同様に背振山地から派生した金武－飯盛－叶ヶ岳－長垂にいたる比較的高度のある丘陵によって形成されている。

平野の西縁近くには、北流して博多湾に注ぐ最大規模の川、室見川がある。これまでにも幾多の氾濫をくり返しており、河道も幾たびか変わっている。このため流域には多くの微高地が形成されており、縄文時代から現代に至るまで集落の場所として活用されてきた。

本遺跡群は、この平野を貫く室見川の中流域左岸に位置し、西側背面には背振山地から北に延びる丘陵上の一孤峰である飯盛山が聳えており、その麓を流れる日向川の自然営力によって形成された広大な扇状地とともに独自の景観を現出している。この扇状地は遺跡群付近で標高25～30mをはかり、南西から北東方向へ緩く傾斜する。本遺跡群ではこの様な地形形状に規制されて縄文～古代にわたる各時代の遺構は展開していると思われる。

ここで早良平野における各時代の遺跡の概要を記す。

後期旧石器時代では、平野内でナイフ形石器・細石器からなる23ヶ所の遺跡が確認されている。また、本遺跡群９次調査や有田遺跡群６・131・178次、野芥遺跡7次調査などでは良好な資料が見つかっている。他には重留村下遺跡などで断片的ではあるが、後代の遺構から遊離した資料が見つかっている。

続く縄文時代では、本遺跡群２次調査でも貯蔵穴が丘陵周縁部で検出されているが、平野最奥部の松木田遺跡や平野中央部の微高地上に立地し、低湿地の泥炭層を伴う四箇遺跡、これのやや北側に位置する田村遺跡、東側に位置し、竪穴住居跡を検出した重留遺跡などの縄文時代中期～後期の集落が知られる。また、室見川右岸の有田丘陵西縁の調査でも同時期の貯蔵穴が確認されている。同時代の資料は、後代の遺構調査の際にも遊離した遺物として出土しており、表面採集資料を含めて各時期のものが広く認められる。

続く弥生時代では、平野内の集落は一気に増加する。縄文晩期～弥生前期の遺跡では、室見川下流域の有田遺跡群や福重稲木遺跡、その支流域にある下山門Ｂ遺跡、拾六町ツイジ遺跡などが主要な遺跡として知られる。特に有田遺跡群の乗る有田丘陵では南側の最高所（標高12m 程度）を中心に前期の環濠集落が営まれ、前期末には細形銅戈を副葬する甕棺墓地が形成される。有田遺跡群は、この後も弥生時代を通じて平野の中で拠点となる集落の一つとして継続する。

弥生時代前期末から中期の初めの時期は、細形銅剣を中心とした青銅器が甕棺墓地に副葬される時期であり、早良平野を含めた玄界灘沿岸の地域における社会的変革が顕著になったものと理解されよう。前期末からの墓地は中期まで継続するものが多いが、竪穴住居を中心とする集落との有機的な関係を十分に説明できる遺跡は多くない。墓地では、東縁の飯倉唐木遺跡で前期末～中期後半の時期の細形銅剣・同銅戈・玉類等の副葬がある。また、平野奥部の東入部遺跡では、中期初頭～中期後半の甕棺・木棺の墓地で細形銅剣・銅鉾・玉類・鉄刀・鉄矛を伴い、特に中期後半には墓地周囲に方形の溝を巡らした「区画墓」が造営される。また、同遺跡では前期末から中期前半期までの単位集落の変遷が明らかとなった。また、本遺跡群のやや上流の金武遺跡では副葬品を持たない甕棺を主体とする

方形墳丘墓（中期後半）が検出されている。また、下流左岸の野方久保遺跡でも前期末から中期後半の甕棺墓地で細形銅剣・翡翠勾玉などの副葬が知られるところであるが、本遺跡群に見られる様に吉武高木・大石遺跡などの特定集団墓からさらに昇華した樋渡墳丘墓への移行を窺える様な遺跡は見ることができない。さらに、後期では下流左岸の野方中原遺跡で後期後半に環濠集落が出現し、やや北方の拾六町遺跡では終末期の小規模の集落とともに大型の墳丘墓が知られるが、大規模の集落は見られない。続く古墳時代では、羽根戸古墳群で木棺を内部主体とする小型の前方後円墳などの前期古墳、拝塚・樋渡古墳・竪穴系横穴をもつ梅林古墳などの中期古墳が知られる。また、後期古墳では西側の丘陵で羽根戸・野方・広石等の古墳群、東側丘陵では荒平・重留・干隈古墳群等の群集墳が知られる。

また、古代では東西の官道や郷倉と想定される建物群・寺院跡、中世には早良が安楽寺の荘園となったことによる関連遺構群が検出されている。

2．調査経過

遺跡群におけるこれまでの調査は、Tab.1の一覧に見るように19次に及ぶが、遺跡として認識されたのは昭和43年の九州大学による分布調査による。また、本格調査は昭和56年の飯盛吉武地区圃場

Fig. 1　周辺遺跡分布図

1．有田遺跡群　2．原遺跡群　3．次郎丸遺跡群　4．野芥遺跡群　5．田村遺跡群　6．四箇遺跡群　7．重留遺跡群　8．重留村下遺跡群　**9．吉武遺跡群**　10．吉武Ｓ古墳群　11．金城古墳群　12．羽根戸古墳群　13．羽根戸原Ｃ遺跡群　14．拾六町平田遺跡　15．飯倉遺跡群　16．干隈古墳群　17．七隈古墳群　18．荒平古墳群

整備事業に始まり、この事業は９次を数える。また、その後野方金武線道路建設や下水道建設に伴う調査が行われ、それまでに約40haと推定される本遺跡群の1/4が調査された。さらに、平成15年度からは、平成５年になった『史跡 吉武高木遺跡』の整備のための確認調査が開始され、甕棺墓・特定集団墓墓域・大型建物などの課題を解明するための調査が行われたところである。

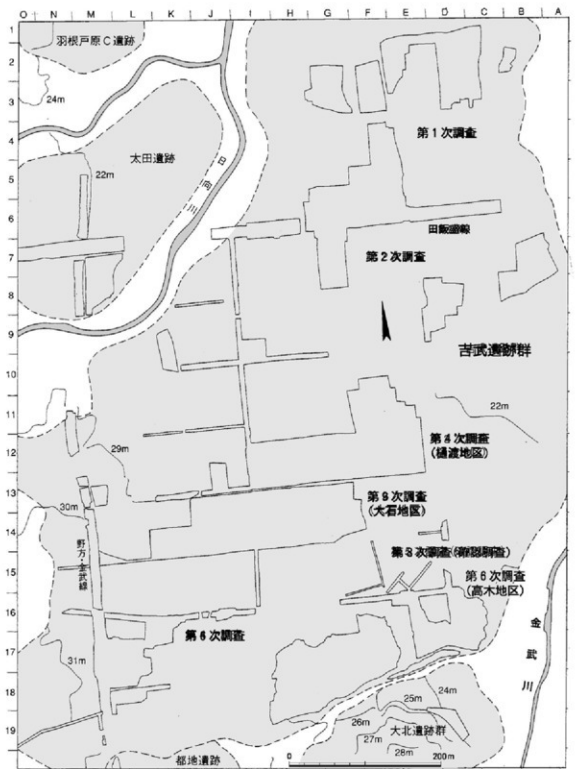


Fig.２　調査区位置図（第１～９次調査）

Tab. 1　吉武遺跡群調査一覧（平成20年３月31日現在）

次数	調査番号	次数名	所在地	調査期間	調査面積(㎡)	担当者	報告書
1	8102	圃場整備 第1次	西区大字飯盛 字本名地内	1981.11.01 1982.03.15	12,000	二宮忠司・小林 義彦・田中寿夫	②⑥⑧～⑫ ⑬
2	8234	圃場整備 第2次	西区大字飯盛 地内	1982.09.01 1983.02.15	21,000	二宮忠司	②⑥⑧～⑫ ⑬
3	8235	田・飯盛線 第1次	西区大字飯盛 字トイ地内他	1982.09.22 1983.02.12	5,200	山崎龍雄	①
4	8335	圃場整備 第3次	西区大字吉武 字桜町110番地内他	1983.09.12 1984.03.24	25,000	横山邦継・下村 智	②・⑧～⑪ ⑮～⑲
5	8415	田・飯盛線 第2次	西区大字飯盛 地内	1984.04.13 1984.05.31	1,600	清石哲也	④
6	8416	圃場整備 第4次	西区大字吉武 字高木194地内他	1984.07.01 1985.03.20	26,000	横山邦継・下村 智・常松幹雄	②⑥⑧～⑪⑬ ⑭～⑲
7	8426	野方・金武線 第2次	西区大字吉武 三十六146番地他	1985.03.26 1985.05.31	2,300	横山邦継・下村 智	③
8	8518	圃場整備 第5次	西区大字吉武 字高木地内	1985.07.02 1985.07.24	470	横山邦継	②⑧～⑪⑬⑭ ⑲
9	8535	圃場整備 第6次	西区大字吉武 字大石地内	1985.08.01 1986.03.31	28,000	力武卓治・下村 加藤良彦・常松	②⑧～⑪⑬ ⑭～⑲
10	8650	圃場整備 第7次	西区大字吉武 字大石36地内他	1986.11.16 1987.02.27	5,000	力武卓治・常松 幹雄	未刊
11	8662	野方・金武線 第6次	西区大字飯盛 地内	1986.03.01 1986.05.10	23,000	二宮忠司・佐藤 一郎	⑤
12	8714	野方・金武線 第7次	西区大字飯盛 字トイ地内	1987.06.01 1987.09.09	2,810	二宮忠司・佐藤 一郎	⑤
13	8752	圃場整備 第8次	西区大字吉武 地内	1988.03.01 1988.03.31	1,000	力武卓治・常松 幹雄	未刊
14	8838	圃場整備 第9次	西区大字吉武 字高木地内	1988.07.25 1988.09.16	724	山崎龍雄	未刊
15	9940	下水道 第1次	西区大字吉武 地内	1999.09.06 1999.09.08	37	大塚紀宣	未刊
16	0311	下水道 第2次	西区大字飯盛 地内	2003.05.09 2003.05.18	62	松浦一之介	未刊
17	0363	史跡整備 第1次	西区大字吉武 地内	2004.01.09 2004.03.26	753	本田浩二郎	未刊
18	0483	史跡整備 第2次	西区大字吉武 地内	2005.01.26 2005.03.09	720	宮井善朗	未刊
19	0534	史跡整備 第3次	西区大字吉武 地内	2005.07.19 2005.09.22	970	長家　伸	未刊

第二章　これまでの調査の総括

これまでの本遺跡群における調査は19次に及ぶ（Tab.１）。特に圃場整備に伴う昭和56～60年度までの５ヶ年間の調査では遺跡の中核となる弥生時代集落・墓地、古墳時代墓地・集落の解明に多大な成果をもたらした。

各時代の主要な遺構は、後期旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世該当のものである。

旧石器時代では、第９次調査で細石刃・細石刃石核・スポール・細石刃スポール・スクレイパー・使用痕のある剥片・石核・剥片・チップ等が分布するブライマリーな生活単位が検出された。使用された石材は細石器類が黒曜石、スクレイパー類がヌヌカイトである。

縄文時代遺構は、第２次調査で見つかった調査区北東部にあたる丘陵縁辺に分布する縄文時代貯蔵穴46基である。平面が円形を呈し、径2.9m、深さ1.7mを測る。時期は後期後半を中心とする。

弥生時代遺構では竪穴住居跡89軒（前期後半～後期前半期、円形・方形）、土坑194基、掘立柱建物143棟（1×2・2×2・2×3・2×4・4×5間規模）、溝状遺構71条、甕棺墓1,282基（前期後半～後期前半）、土壙墓18基、木棺墓14基（中期初頭・後期初め）、石棺墓11基（後期）、祭祀遺構５基（中期）などがみられる。該期の集落は、前期後半期に遺跡群北端部に開始され、以後これを親村として時期を追って南部の全域に展開したと想定される。また、墓地は遺跡群の南半部では集落の東側に位置し、当時の丘陵縁辺を緑取るように塊状に単位墓地が造られ、これらが中期後半期を中心に拡大された結果、全長450mを越える甕棺墓列になったものと考えられる。また、吉武高木、吉武大石遺跡の前期末～中期前半期の甕棺墓・木棺墓には青銅製武器（銅剣・銅矛・銅戈）、多鈕細文鏡、銅鏃それに碧玉製勾玉、多数の碧玉・凝灰岩製管玉を副葬した特定集団の墓地が形成され、これらはやや時間的な空隙はあるものの中期中頃に造営された北側の樋渡墳丘墓へと繋がっており、鉄製武器（太刀・刀子）や前漢鏡の副葬に見られるように幣から漢系への副葬品の変化は当時の大陸との彼我の関係を知る上で重要な成果となっている。

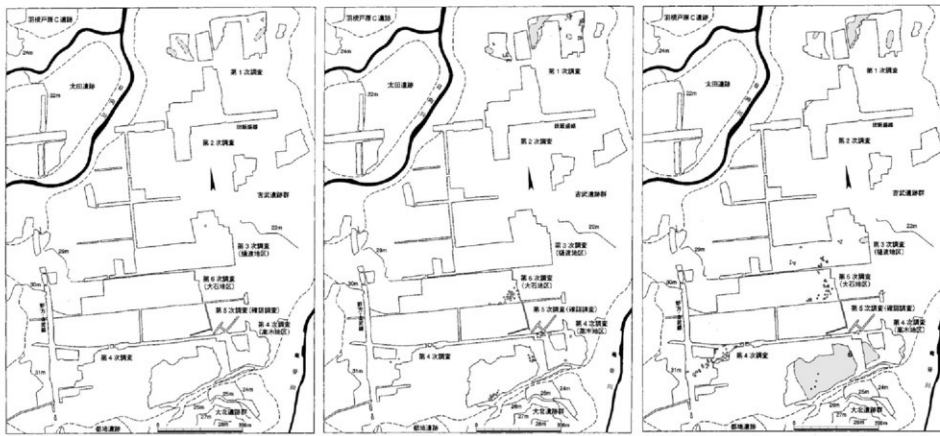
古墳時代では、竪穴住居跡112軒、掘立柱建物225棟（1×2・2×2・3×3間規模）、土坑505基、溝状遺構72条、古墳29基（中期～後期、前方後円墳１基・方墳１基・円墳27基）、土壙墓９基等である。

該期の集落は、扇状地全体に複雑に走る自然流路を避けて形成されている。また、これに伴う古墳群は、主墳とも言うべき樋渡前方後円墳の他は遺跡群の南西部にあたるＭＮ－16地区周辺にほぼ集中しており、中期以降の奥津城はこの周辺と言えよう。この地区の古墳石室は腰石が小さく、ややパチ形を呈しており、副葬遺物にも鋳造鉄斧や透彫りのある環頭太刀、陶質土器を含む点で特徴のあるものとなっている。

また、古代では、掘立柱建物42棟、土坑31基、溝状遺構48条、鍛冶炉13基などである。溝に区画された掘立柱建物は寺院の可能性が高く、海獣葡萄八稜鏡片や越州青磁、瓦当類を多く出土した。また、鍛冶炉に伴う鉄滓が大量に出土することも特徴である。

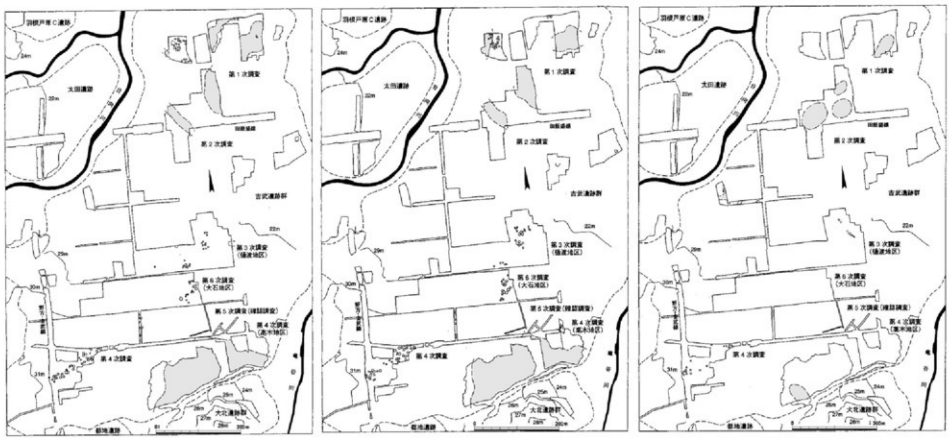
中世では、12世紀後半から14世紀の輸入陶磁器類が多く出土し、本遺跡群を含む周辺集落に博多津経由の文物が数多く移入されたことが明らかとなった。

近世では、樋渡古墳の墳丘上及びその周辺に飯盛山麓の集落墓地が造営されており、合わせて25基が検出された。その墓誌銘からおおよそ宝永年間に始まり安政年間まで継続して造墓がなされたことが判る。



※アミ：生活遺構
その他：墓地

Fig. 3　墓地・集落遺構変遷図1



※アミ：生活遺構
その他：墓地

Fig. 4　墓地・集落遺構変遷図2

1．弥生時代のまとめ

吉武遺跡群の弥生時代調査成果については、昭和60、平成６～11年度の７ヶ年度に亘って建物・墓地など遺構ごとに報告を行ってきた。

昭和60年度（「福岡市埋蔵文化財調査報告書第143集」）では、吉武高木・吉武大石・樋渡墳丘墓などの特徴的な墓地について調査概要を報告した。

また、平成６年度（「福岡市埋蔵文化財調査報告書第437集」）では、弥生時代中期後半期と想定される大型建物を初めとする掘立柱建物群の報告である。

平成７年度（「福岡市埋蔵文化財調査報告書第461」）では、特に副葬品を多く伴って検出された吉武高木・吉武大石それに樋渡墳丘墓の弥生墳墓の報告である。

また、平成８年度（「福岡市埋蔵文化財調査報告書第514集」）では、竪穴住居跡・土壙・溝など、掘立柱建物を除く生活遺構についての報告である。

平成９年度（「福岡市埋蔵文化財調査報告書第580集」）では、弥生時代墓地のうち、前期から中期初頭までの甕棺墓を主とする報告である。対象は、第１次調査及び第６次調査（吉武高木遺跡）・第９次調査（吉武大石遺跡）の副葬品を持たない甕棺墓である。

さらに、平成10年度（「福岡市埋蔵文化財調査報告書第600集」）では、第１～９次調査にかかる中期前半から後期前半までの甕棺墓の報告を行った。特に、対象は、樋渡墳丘墓で検出した副葬品を持たない甕棺墓などについてである。

平成11年度（「福岡市埋蔵文化財調査報告書第650集」）では、樋渡墳丘墓から南西方向に総延長で約450ｍほど墓地が連なる所謂「甕棺ロード」の複数墓地から選択した甕棺墓などについて報告を行った。

ところで、弥生時代の吉武遺跡群についてはこれまでの報告によってその全体像がおぼろげに見えてきたように思われる。しかし、調査区域の偏りもあって、圧倒的な墓地遺構の発見に比較すると生活遺構については不詳な点が多いことも事実である。吉武遺跡群では、現在までに遺跡の約1/4に相当する10ヘクタールが発掘調査された。

以下では、調査成果をもとに、吉武遺跡群における弥生時代遺構の変遷について時期毎に簡単に記す。時期は、前期後半－前期末－中期前半－中期中頃－中期後半－後期前半に区別する。(Fig.３・４)

〈 前期後半 〉（Fig.３）

この時期には、遺跡群北端部に近いＣＤ－１・２地区とこれの西側約100ｍの地点にあたるＧＨ－２・３地区を中心に集落が開始される。この他に、南側のＦ－５地区・Ｆ－10地区などに小規模な生活遺構が確認される。さらに南側の地点でも同時期の遊離した土器が採集されているが、遺構を伴わない。

ＣＤ－１・２地区では、中央東よりに小形の方形～長方形遺構（竪穴住居跡か）が散漫に分布し、これらの北側20～30ｍに２群の甕棺墓地が認められる。

また、ＧＨ－２・３地区でも、長辺が３～５ｍを測る長方形の竪穴住居跡が、ほぼ２群に区別することが出来る。竪穴住居跡は、15～30m程度の緩い間隔で分布しており、西側の一群では切り合いがあり、時間差のある住居もあるが、他については全て建て替えなどは認められない単独の者である。これら２地点の集落は同一のものと考えられ、墓地の規模・貯蔵施設の位置など不明な点も多いが、比較的小規模な集落として出発したものであろう。

〈 前 期 末 〉（Fig. 3）

この時期になると、前時期に開始された遺跡群の北端部域の集落に加え、南端部域では吉武大石、吉武高木それに南辺周辺のＥ－16地区・Ｅ－17地区・Ｇ－16・17地区、西南部端のＭ－16地区には甕棺墓を主とする墓地が出現してくるが、このうち吉武大石・高木の両地点では青銅器の副葬が開始される。

北端部域のＣＤ－１・２地区では、円形竪穴住居跡とこの北側の約40mにまとまった甕棺墓地が２群、東・西側約30mに小規模の甕棺墓地２群が認められる。これらの墓地は前期後半期のそれに継続している。

また、ＧＨ－２・３地区では、西側隅に梁間・桁行きが１×２間規模の高床倉庫と考えられる掘立柱建物群があり、北側と東側に甕棺墓地が形成され、特に東側の１群はまとまった墓地となる。

さらに、この時期には両地区を分けるように北東から南西方向へ自然の流路が形成されており、両地区はムラの単位として分村した可能性もある。

次いで、南端部域に近い吉武大石・高木では、これから中期初頭にかけて、木棺墓・甕棺墓からなる墓地が形成され、青銅製武器、銅鏡、銅釧、翡翠製勾玉・碧玉製管玉・ガラス小玉などの装身具を副葬した厚葬墓が見られるようになる。

また、吉武高木の南側Ｅ－17地区・Ｇ－16・17地区などでは副葬品を持たない10基前後の小規模な墓地が造られる。両地点間は、約200m以上の距離がある。

さらに、後に「甕棺ロード」と呼ぶ甕棺墓群の南西端にあたるＭ－16地区でも金海式甕棺に始まる墓地が開始される。いかしながら、これらの墓地が造られた南端部域には確かな生活遺構は見られない。

〈 中 期 前 半 〉（Fig. 3）

この時期には、前時期からの北端部集落は、竪穴住居跡・自然流路などが継続しているが、墓地は西側のＧＨ－２・３地区に小規模の甕棺墓地が１群のこる。

そして、吉武大石の北側には３群の小規模な甕棺墓地、土壙などの生活遺構が新たに確認できるようになる。

また、南端側の吉武高木及びおの南側周辺の墓地は、中期初頭期まで継続するが、この時期になって掘立柱建物群・土壙・円形竪穴住居跡などの生活遺構が確実に墓地周辺に伴うようになる。吉武高木では、墓地から東側50mの扇状地縁の南東側・南側には１×２間規模の掘立柱建物がまとまって見つかり、倉庫群と考えられる。これらは竪穴住居跡とは混在しない。

そして、「甕棺ロード」西端部では、前期末に始まったＭ－16地区の甕棺墓地がこの時期になって北東・南西方向に長い墓地を形成し、延長130m以上・幅10～20mの規模となった。しかし、この地区でも明らかな生活遺構は見つかっていない。

〈 中 期 中 頃 〉（Fig. 4）

この時期では、前時期からの北端部集落はさらに継続すると共に、やや集落の範囲を拡大したように考えられる。ＣＤ－１～３地区では、大・小型の円形住居跡と掘立柱建物群が顕著となる。これらは一部で平面的に重複するところから時間差があるのは明らかであるが、建物の中には通常タイプの１×２間規模のものや２×３間規模の総柱型のタイプが見られ、住居に近接するまとまった倉庫群と考えられる。また、墓地はこれらの東側と北西側に近接して小規模な２群の甕棺墓地が認められる。

また、西側のＧＨ－２・３地区でも大型の竪穴住居跡に掘立柱建物の倉庫が伴っており、ＣＤ－１～３地区に類似した構成であるが、この地区の墓地は前期末の墓地に重複して営まれており、前時期を通じて最大のものとなっており、２群が確認できる。また、南側のＤＥ－７～９地区、ＥＦ－３～５地区、Ｈ－５・６地区でも自然流路に挟まれた台地上に小形の倉庫群が認められる。

また、中期前半期に吉武大石の北側に形成された３群の甕棺墓地は継続するが、この時期、新たにこれらの北端側に墳丘墓（楯渡墳丘墓）が造営される。規模は、東西が約25m、南北が27m、赤さ約２m程度の長方形墳と推定され、初期に埋葬される甕棺墓は墳丘の中心部の最も良好な場所を占めており、副葬品を伴っている。周辺には同時期の土壙など生活遺構が僅かに確認される。

吉武大石の墓地はさらに継続する。これに伴う生活遺構は、墓地の西側で竪穴住居跡が確認される。

また、「甕棺ロード」の南西端の墓地は、中期前半期の墓地に重複しながら、さら北側・西側に広がり、吉武大石墓地と連なった。

さらに、南端部域の吉武高木墓地及びこの南側に中期前半期まであった甕棺墓地は終焉をつげ、東南側、南側、南西側に倉庫と考えられる掘立柱建物群・土壙などが分布する生活域となった。

〈中期後半〉（Fig. 4）

この時期では、北端部域の集落はさらに継続するが、ＣＤ－１～３地区とＧＨ－２・３地区で中期中頃には顕著であった円形竪穴住居跡と掘立柱建物の組み合わせが無くなり、両地区ともに大・小型の円形竪穴住居跡のみの構成に変わった。また、墓地は西側のＧＨ－２・３地区を主に前時期の墓地に重複するようである。

また、楯渡墳丘墓には墳丘の縁辺部から甕棺の埋納が行われ、副葬品は青銅製武器から鉄製武器・前漢鏡などの漢式遺物へと変化をしている。墳丘墓に隣接するＦＧ－11地区墓地は、この時期に最大規模となる。

吉武大石墓地は、さらに継続し、北端側に密集する傾向が見られる。また、南西側へ連続する「甕棺ロード」は、途絶することはなく、地区によって粗密は見られるものの、西南部付近では全期間を通じて最大の分布を示す墓地となる。特に、ＬＭ－16地区やＮ－16・17地区では非常に密集度が高い。

吉武高木墓地の南側集落は、この時期も継続し、全期間を通じて最大の規模となったと考えられる。高木墓地の西側や東南側で円形・方形竪穴住居跡、梁間・桁行き規模が４×５間の大型建物・１×２間建物・２×５間規模で床中央に棟持ち柱堀方と考えられる小土壙をもつ掘立柱建物が土壙群を伴って分布する。

また、南側のＦＧ－16・17地区でも１×２間規模を主に１×３間規模や梁間の狭い３×３間規模建物・ほぼ方形に近い３×５間規模の側柱建物が不整形な土壙群を伴って分布する。

さらに、南西部隅でも倉庫と考えられる建物群と不整形な土壙が散発的に認められる。

〈後期前半〉（Fig. 4）

この時期には、北端部域の集落は、ＣＤ－１～３地区に数棟の建物群が見られ、これの南西側100m付近（Ｆ～Ｈ－４～６地区）では、まとまった倉庫と考えられる掘立柱建物群が知られるが、墓地は全く認められなくなる。

また、遺跡群中央の西半にあたるＨＬ－８～11地区では、自然流路を含む溝遺構が顕著に見られるが、ここにも墓地の痕跡が見あたらない。

吉武高木墓地の南西部にあたるＩ－18地区では、主柱欠が４本の長方形竪穴住居跡２軒、１×２規

模の掘立柱建物３棟、不定形土壙１基などが見つかっているが、墓地は見られない。

この時期の本格墓地は、「甕棺ロード」の南西端に２群が認められ、その１群は、Ｌ－16地区、他の一群はこれの50m程南西にあたるＮ－17地区のものである。

これまで遺跡群の弥生時代遺構の変遷を六時期に分けて変遷を記してきた。ここで再度略記する。

最も初期の集落は、前期後半期にまず北端部に現れる。竪穴住とその周辺に小規模の墓地群を形成する。この状況は前期末まで変わらないが、南端部には生活遺構を伴わない厚葬墓群である吉武大石・高木墓地が出現する。そして中期前半期になると吉武大石・高木墓地の周辺に小規模の甕棺墓地群が形成されるのと同時に、後の「甕棺ロード」の西端部に帯状にまとまった墓地が形成される。

また、該期の生活遺構が南端部で確実に認められるようになる。

続く中期中頃には新たに遺跡群のほぼ中央に径渡墳丘墓が造営されると共に、大きな変化は、吉武高木墓地が終焉し、南端部域は生活遺構のみとなることである。

また、「甕棺ロード」に接する北東側には新たに墓地が形成され、全体に線として連続するようになる。続く中期後半期は、墓地・生活遺構ともに全期間を通じて最も盛んに展開するもので、安定した集落が形成されていたと考えることができる。

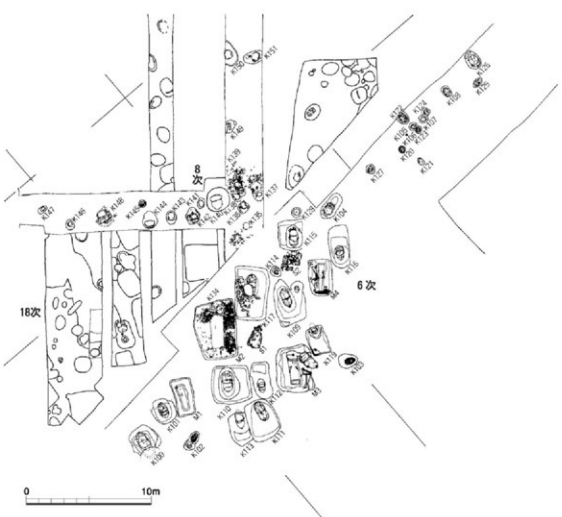


Fig.５　吉武高木遺跡遺構全体図（1/300）

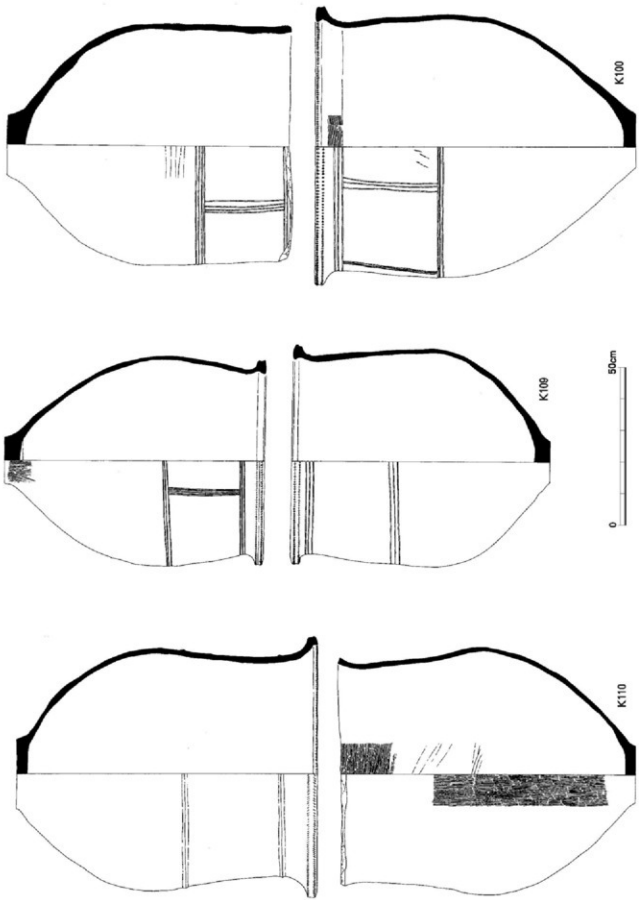


Fig.6　吉武高木遺跡出土甕棺実測図(1/12)(K100・109・110号)

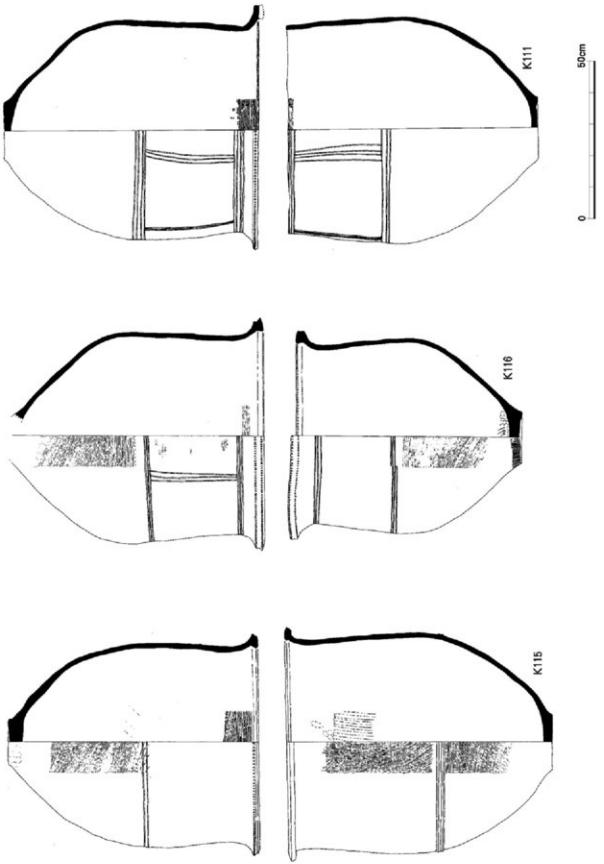


Fig. 7　吉武高木遺跡出土甕棺実測図(1/12)(K111・115・116号)

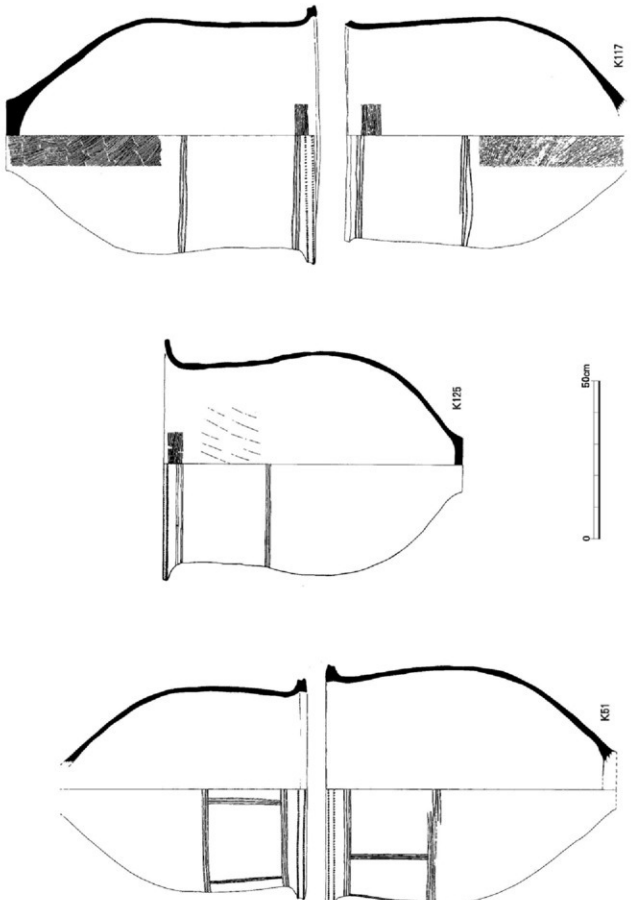


Fig. 8　吉武高木・大石遺跡出土甕棺実測図(1/12)(K117・125・51号)

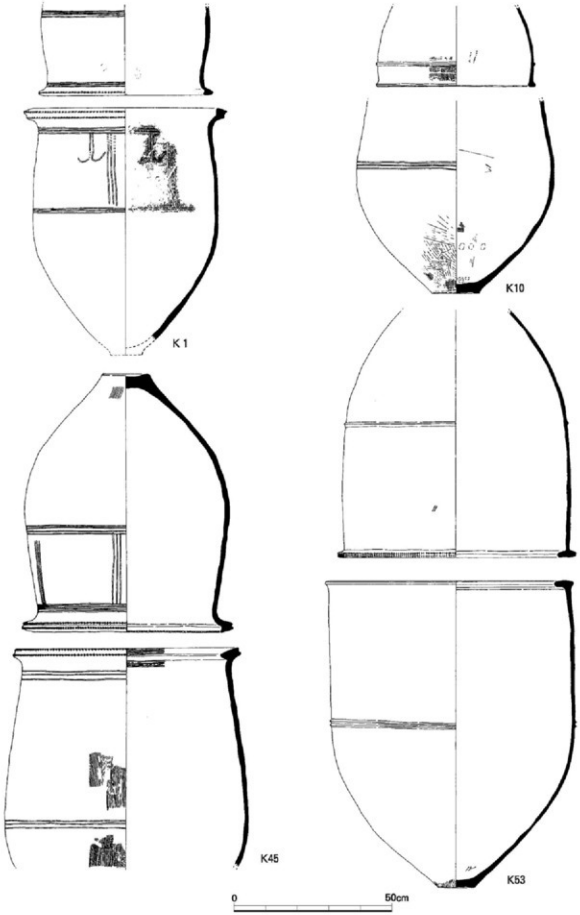


Fig. 9　吉武大石遺跡出土甕棺実測図(1/12)(K 1・10・45・53号)

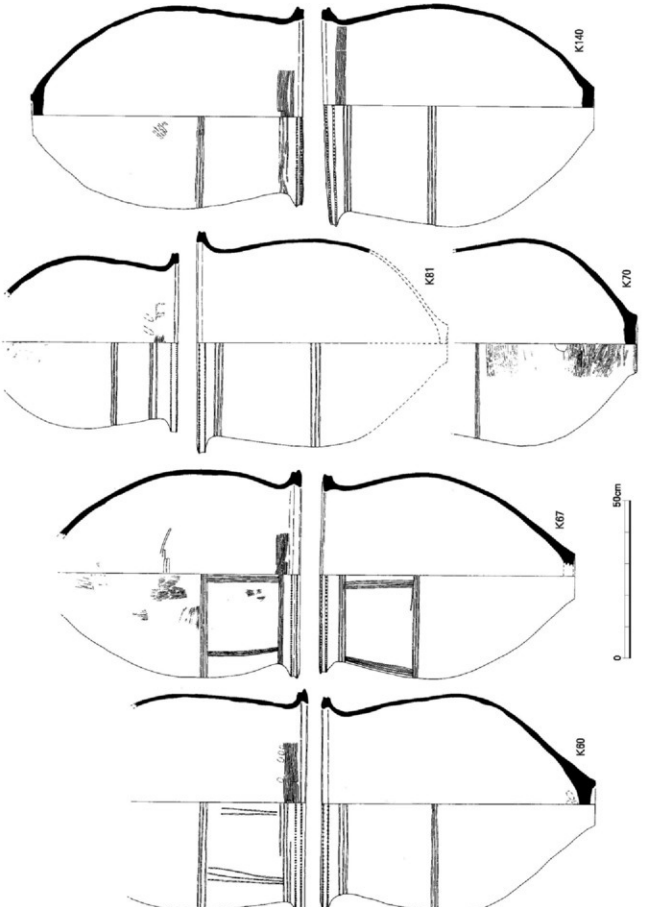


Fig.10　吉武大石遺跡出土甕棺実測図(1/12)(K60・67・70・81・140号)

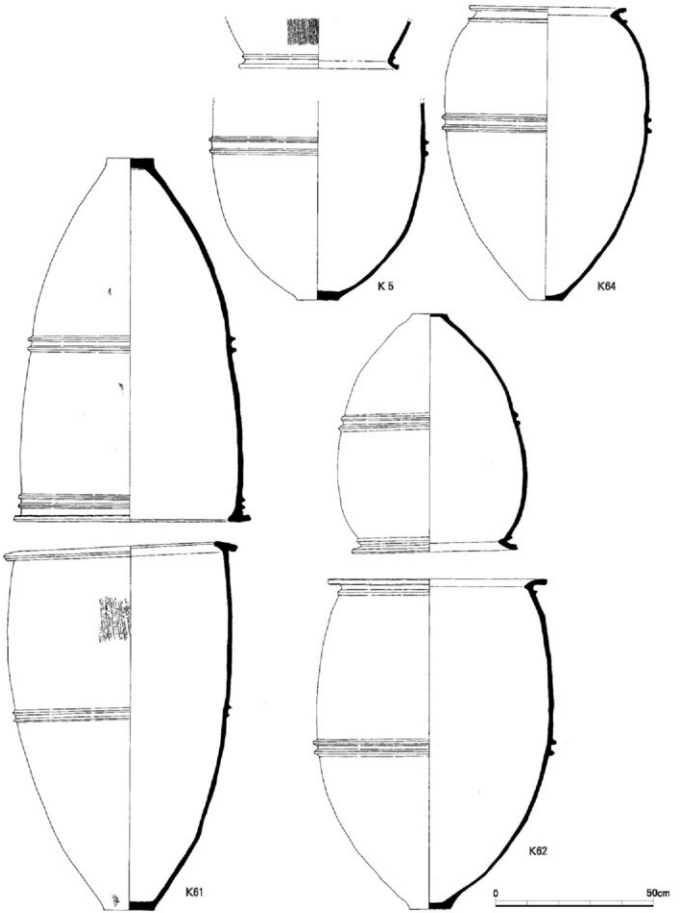


Fig.11　樋渡墳丘墓出土甕棺実測図(1/12)(K5・61・62・64号)

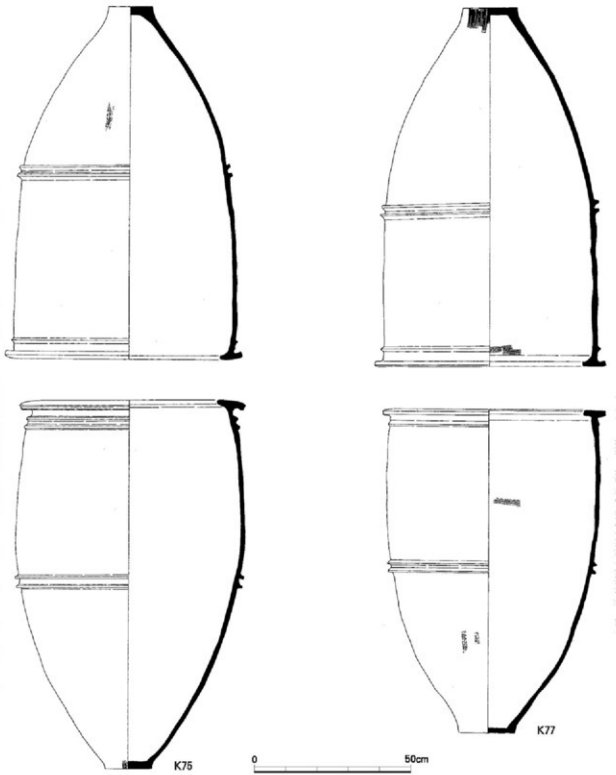


Fig.12　樋渡墳丘墓出土甕棺実測図(1/12)(K75・77号)

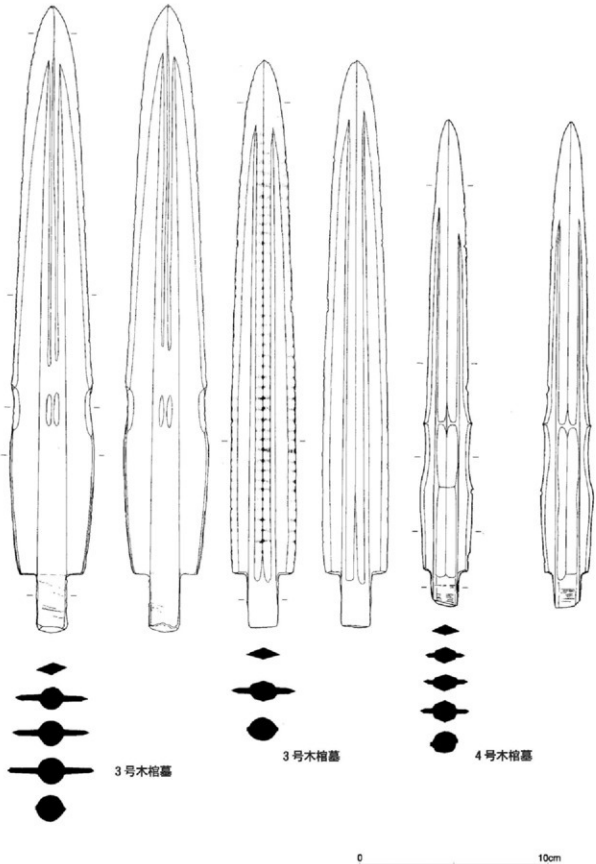


Fig.13　吉武高木遺跡副葬銅剣実測図(1/2)(3・4号木棺墓)

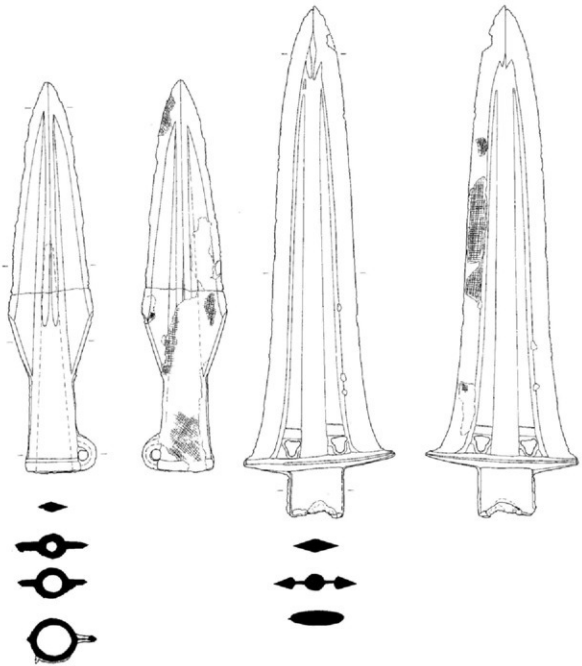


Fig.14　吉武高木遺跡副葬銅矛・銅戈実測図(1/2)(３号木棺墓)

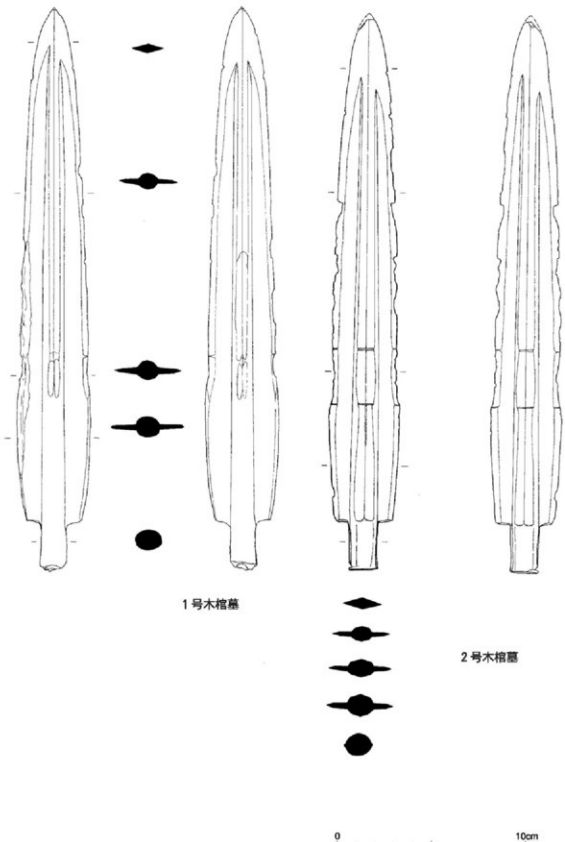


Fig.15　吉武高木遺跡副葬銅剣実測図(1/2)(1・2号木棺墓)

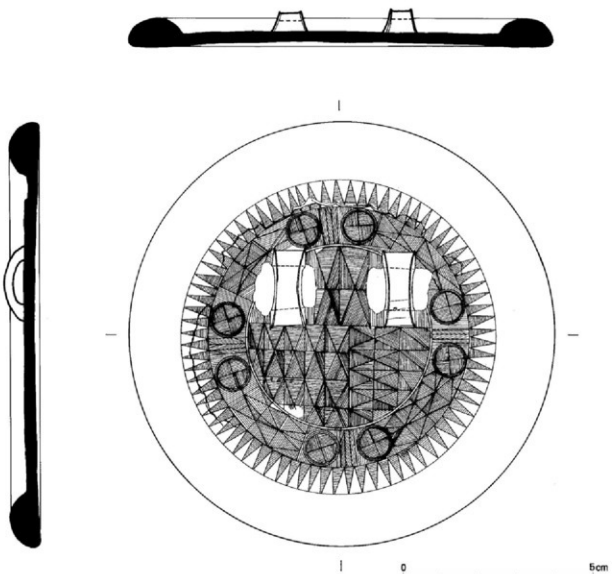


Fig.16　吉武高木遺跡副葬多鈕細文鏡実測図(1/1)(３号木棺墓)

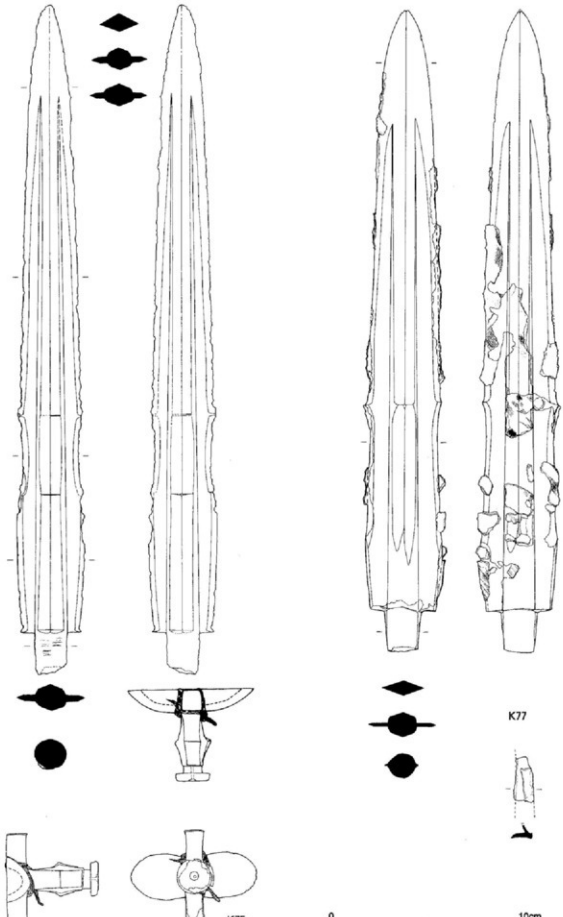


Fig.17　楠渡墳丘墓副葬銅剣実測図(1/2)(K75・77)

Tab.２　吉武遺跡群関連の既刊報告書一覧表

①『吉武遺跡群　Ⅰ－市道田・飯盛線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第127集」　1986
②『吉武高木－弥生時代埋葬遺跡の調査概要－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第143集」　1986
③『吉武遺跡群－市道野方金武線建設に伴う埋蔵文化財の調査－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第187集」　1988
④『吉武遺跡群 Ⅳ－市道田・飯盛線関係埋蔵文化財調査報告Ⅱ－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第194集」　1989
⑤『吉武遺跡群－市道野方金武線建設に伴う埋蔵文化財の調査－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第303集」　1991
⑥『吉武遺跡群 Ⅶ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 1 －弥生時代掘立柱建物の報告－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第437集」　1995
⑦『吉武遺跡群 Ⅷ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 2 －弥生時代墳墓の報告－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第461集」　1996
⑧『吉武遺跡群 Ⅸ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 3 －弥生時代生活遺構の調査報告－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第514集」　1997
⑨『吉武遺跡群 Ⅹ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 4 －弥生時代墓地の調査報告書１－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第580集」　1998
⑩『吉武遺跡群 ⅩⅠ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 5 －弥生時代墓地の調査報告２－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第600集」　1999
⑪『吉武遺跡群 ⅩⅡ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 6 －弥生時代墓地の調査報告３－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第650集」　2000
⑫『吉武遺跡群 ⅩⅢ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 7 －第１・２次縄文・古墳～平安時代の調査報告－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第675集」　2001
⑬『吉武遺跡群 ⅩⅣ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 8 －第４・６・９次旧石器古墳調査報告－』「福岡市埋蔵文化財調査報告書第731集」　2002
⑭『吉武遺跡群 ⅩⅤ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 9 －第４・６・９次古墳調査報告－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第775集」　2003
⑮『吉武遺跡群 ⅩⅥ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 10 －古墳時代生活遺構編１－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第831集」　2004
⑯『吉武遺跡群 ⅩⅦ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 11 －古墳時代生活遺構編２－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第864集」　2005
⑰『吉武遺跡群 ⅩⅧ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 12 －古墳時代生活遺構編３－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第911集」　2006
⑱『吉武遺跡群 ⅩⅨ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 13 －古代～近世編－』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第965集」　2007
⑲『吉武遺跡群 ⅩⅩ 飯盛・吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 14 －総集編』
「福岡市埋蔵文化財調査報告書第1018集」　2008

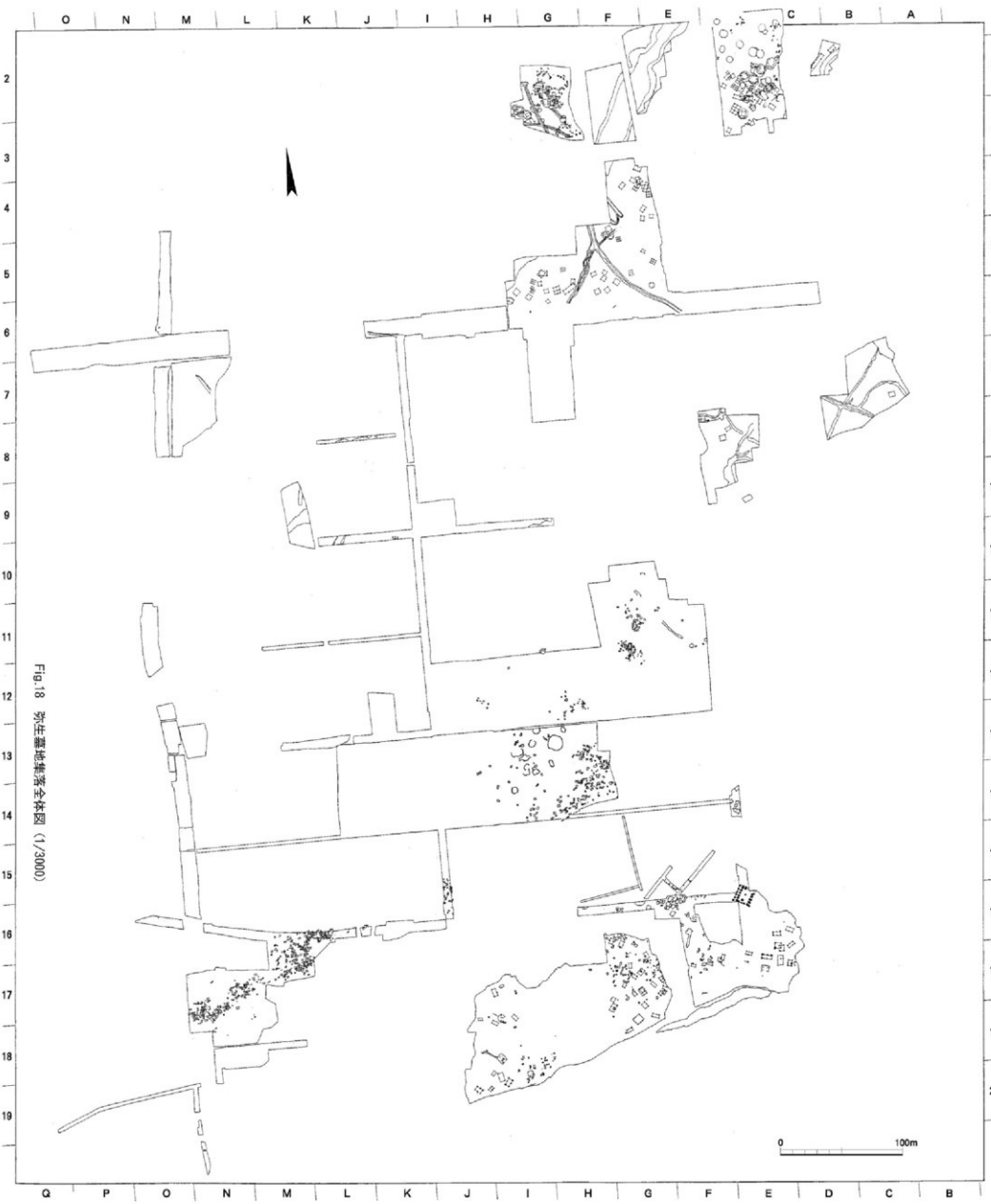


Fig.18 弥生墓地集落全体図 (1/3000)

時期の変遷

ここでは弥生時代の遺構の時期をⅠ～Ⅴ期として捉える。甕棺の形態は、くびれをもつ壷のなごりをとどめるタイプから口縁部の合せ口を容易にした器形へと変化する傾向がある。埋葬専用土器である甕棺は、それ自体、土器編年の尺度としての特性をそなえている。また上下のセット関係や副葬土器や墓壙から検出された土器によって、併行する時期の把握が可能である。以下に、時期区分の基準とする型式をあげる。

Tab.3　甕棺と副葬遺物の対応関係

時期区分		日常土器	甕棺の型式名	副葬遺物		
早期～Ⅰ	前期前半	夜臼式～ 板付Ⅱａ式	（＋）	有柄磨製石剣・磨製石鏃	遼寧青銅器	文化複合
	前期後半	板付Ⅱｂ式	伯玄式	磨製石剣・磨製石鏃		
	前期末	板付Ⅱｃ式	金海式（古段階）	磨製石剣・磨製石鏃		
Ⅱ	中期初頭	城ノ越式（古）	金海式（新段階）	多鈕細文鏡・細形青銅器	朝鮮細形銅剣	
	中期前葉	城ノ越式（新）	城ノ越式	多鈕細文鏡・細形青銅器		
	中期中葉	須玖Ⅰ式	汲田式	多鈕細文鏡・細形＋中細形青銅器		
Ⅲ	中期中葉	須玖Ⅱ式（古）	須玖式	細形＋中細形青銅器・鉄器（小型）	前漢	
Ⅳ	中期後葉	須玖Ⅱ式（中）	立岩式（古段階）	前漢鏡・中細形青銅器・鉄器（大型）		
	中期末葉	須玖Ⅱ式（新）	立岩式（新段階）	前漢鏡・鉄器（大型）		
Ⅴ	後期前葉 後期中葉 後期中頃 後期後葉	高三潴式（古） 高三潴式（新） 下大隈式（古） 下大隈式（新）	（＋） 三津式 （＋） 神在式	後漢鏡・鉄器 後漢鏡・鉄器 後漢鏡・鉄器 後漢鏡・鉄器 ＋巴形銅器・銅鐸など	後漢	

※　鉄器の大小の区別は利器でいえば全長35cm程度を一応の目安とする。

埋葬遺構と副葬遺物との関係をみると、北部九州の埋葬施設に細形青銅器が確実にともなうのは金海式（新段階）以降である。北部九州の初期の青銅器文化に大きな影響をもたらした朝鮮半島、そこでは細形銅剣単独の段階から銅矛、銅戈が加わるのにたいして、わが国では当初から銅剣、銅矛、銅戈の３種が出揃うところに特質がある。

さらに多鈕鏡については、朝鮮半島では粗文鏡から細文鏡への変遷が把握できるのにたいして、日本国内では細文鏡だけに限られている。この点も東西里遺跡や南城里遺跡のような剣把形銅器や防牌形銅器などの有文青銅器をともなう段階と一線が画される。

Ⅲ～Ⅳ期段階、副葬される武器は青銅器から鉄戈や鉄剣などの鉄器へ移行する。吉武樋渡墳丘墓では、鉄製品の副葬がⅢ期で確認され、銅剣の異形化がすすむ過程と重なる。Ⅳ期になると墳丘墓から外れた系列墓のなかにも鉄器を副葬する甕棺墓が点在するようになる。Ⅲ期までの青銅器のネットワークが素環頭大刀や刀子などの鉄製品への交代を示すもので、楽浪郡など四郡設置の影響が東夷の地まで及んだといえよう。「前漢文化複合」の段階になると列墓の多くは、集塊状を呈する系列墓へ移行する。甕棺墓と並行する大型の土壙・木棺墓や木槨墓は減少し、甕棺墓に集約される傾向がみられる。「前漢文化複合」に重なる「新の文化複合」と「後漢文化複合」。王莽による新は、西暦８年から23年ときわめて短期間の政権ではあったが、貨泉や大泉五十などの貨幣や方格規矩鏡を主体とする鏡群は、Ⅴ期の年代の指標となった。金印「漢委奴国王」は、冊封体制への参画が北部九州の首長によって達成されたことを意味する。だがその社会的基盤は揺るぎないものとはいえなかったようで「漢」の文字が効力を失い、「委奴国」の表記に改変が迫られる２世紀代の末頃までに倭人の前から姿を消したようである。

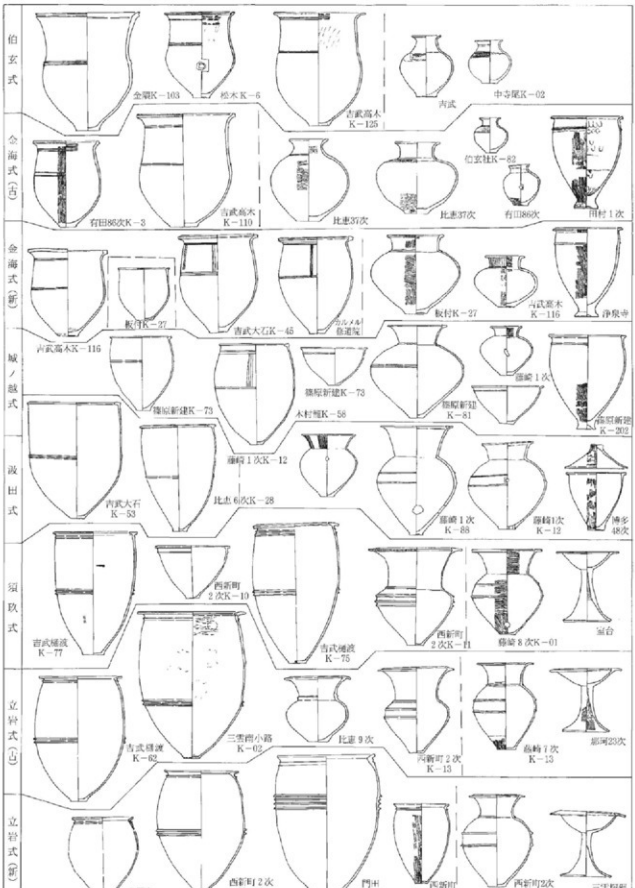


Fig.19　甕棺の変遷と日常土器の並行関係(甕棺1/30　日常土器1/15～1/20)

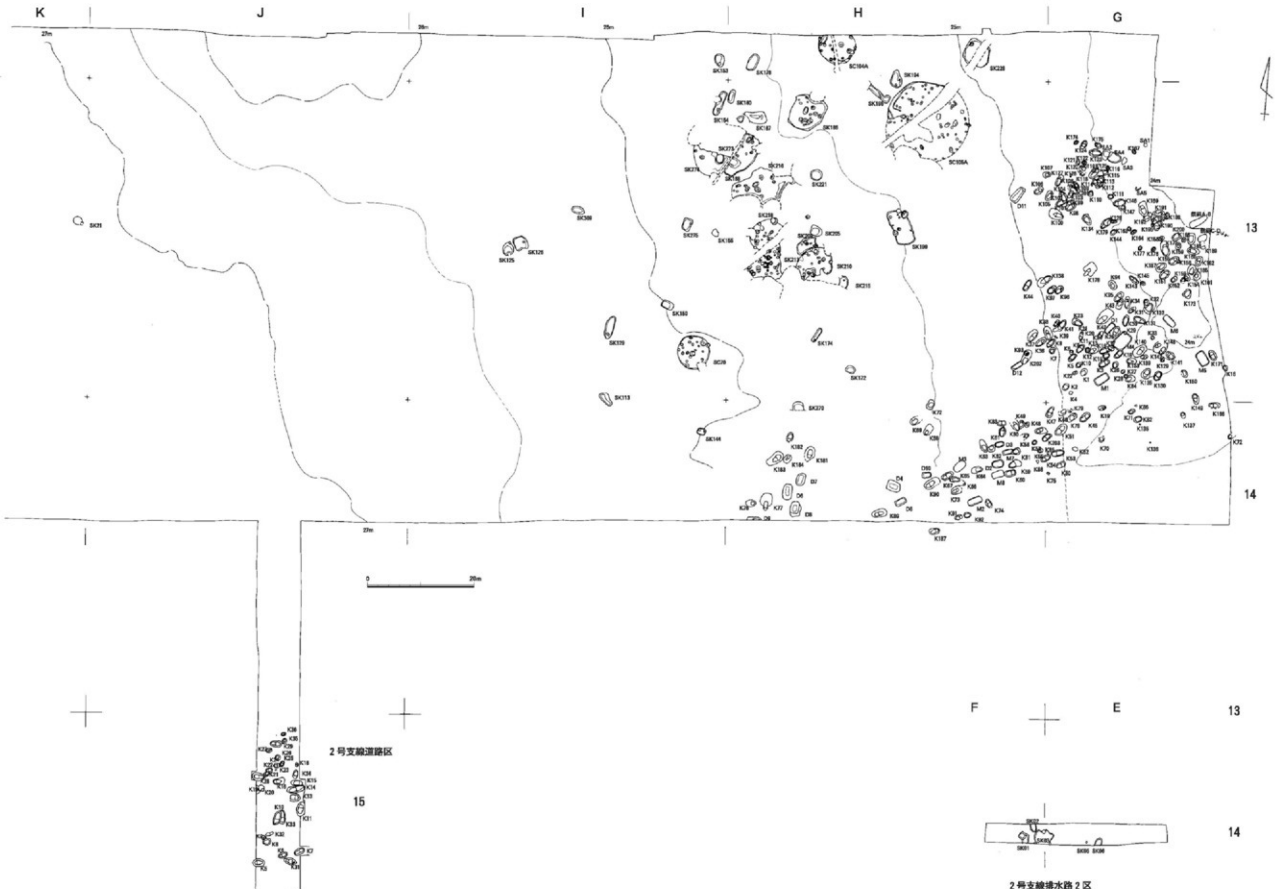


Fig.20　第９次調査弥生時代遺構全体図（1/600）

弥生時代の墓地

吉武遺跡群の１次から９次にかけての墓地について、次数ごとの一覧を以下にしめす。一覧の目的は、これまで刊行された報告書のインデックスとして利用に供するためである。埋葬遺構は甕棺、木棺、石棺他の３分類で、それぞれK、M、Ｉの略号で表記した。甕サイズは、甕棺の器高に応じた分類で59cm以下をＳ、80cm以上をＬ、その間のサイズをMとして規模を知る目安とした。時期はⅠ～Ⅴ期の分類で、Tab. ３に相当する。

Tab. ４　弥生時代墓地一覧表

1次	区	甕 K	登録番号	型	式			甕 サイズ(cm)			組み合せ		埋置方位	埋置角度	時期	報告書	遺構図	遺物図	備考
		木棺 M		単棺	複棺			~59		80~	上棺	下棺			(型式)	集	Fig	Fig	
		石棺他 I			接口	覆口	呑口	S	M	L									
1	2	K	01	○				—	—	—	—	甕	N−21°−W	—	Ⅰ	580	10	15	倒立棺
1	2	K	02						○		壷	甕	N−60°−E	41	Ⅰ	580	10	15	
1	2	K	03		○				○		甕	甕	N−57°−E	29	Ⅰ	580	10	15	
1	2	K	04			○				○	甕	甕	N−48°−E	59	Ⅰ	580	10	15・18	磨製石鏃・副葬小壷
1	2	K	05					—	—	—	—	甕	N−23°−E	—	—	580	10	—	底部のみ
1	2	K	06						○		—	甕	N−25°−E	45	Ⅰ	580	10	16	
1	2	K	07						○		甕	甕	N−3°−W	40	—	580	10	—	
1	2	K	08					○			—	甕	N−22°−E	0	—	580	10	—	
1	2	K	09					○			甕	甕	N−14°−W	43	Ⅰ	580	10	16	
1	2	K	10					○			—	甕	N−11°−W	30	—	580	11	—	
1	2	K	11					○			—	甕	N−28°−E	40	—	580	11	—	
1	2	K	12					—	—	—	—	甕	N−10°−W	30	—	580	11	18	
1	2	K	13						○		—	甕	N−3°−E	70	Ⅰ	580	11	—	
1	2	K	14					—	—	—	—	甕	N−5°−E	—	—	580	11	—	
1	2	K	15					—	—	—	壷	甕	N−87°−W	45	Ⅰ	580	11	18	
1	2	K	16				○			○	甕	甕	N−17°−W	55	Ⅰ	580	11	16	
1	2	K	17						○		—	甕	N−9°−E	40	Ⅰ	580	11	18	
1	2	K	18						○		—	甕	N−9°−W	25	Ⅰ	580	11	—	
1	2	K	19								甕	甕	N−3°−E	—	Ⅰ	580	11	—	
1	2	K	20			○				○	甕	甕	N−16°−E	35	Ⅰ	580	11	16	
1	2	K	21				○			○	甕	甕	N−12°−W	46	Ⅰ	580	11	—	
1	2	K	22					○			—	甕	N−6°−W	30	Ⅰ	580	11	16	
1	2	K	23				○			○	甕	甕	N−14°−W	34	Ⅰ	580	11	18	
1	2	K	24	○				○				甕	N−55°−W	13	Ⅲ	600	7	7	
1	2	K	25	○				○				甕	N−39°−W	—	Ⅲ	600	7	7	
1	2	K	26						○		鉢	甕	N−10°−E	45	Ⅰ	580	12	17	
1	2	K	27								—	壷	N−40°−E	30	Ⅰ	580	12	16	
1	2	K	28					○			甕	壷	N−43°−E	38	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	29					○			—	甕	N−57°−E	30	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	30					○			—	甕	N−88°−E	46	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	31						○		—	甕	N−66°−W	25	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	32					○			—	甕	N−78°−E	56	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	33						○		—	甕	N−18°−E	40	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	34								—	甕	N−42°−E	35	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	35					—	—	—	—	甕	N−49°−E	—	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	36					○			鉢	壷	N−55°−E	51	Ⅰ	580	12	17	
1	2	K	37					○			鉢	壷	N−20°−W	—	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	38					○			—	甕	N−41°−E	59	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	39			○			○		鉢	甕	N−75°−W	48	Ⅰ	580	12	17	
1	2	K	40						○		甕	甕	N−48°−W	50	Ⅰ	580	12	17	
1	2	K	41					○			—	甕	N−57°−W	55	Ⅰ	580	12	—	
1	2	K	42					—	—	—	—	甕	N−55°−E	—	Ⅰ	580	13	—	
1	2	K	43					○			甕	鉢	N−87°−E	30	Ⅰ	580	13	—	
1	2	K	44					○			鉢	壷	N−89°−W	65	Ⅰ	580	13	17	
1	2	K	45					○			—	甕	N−77°−E	90	Ⅰ	580	13	—	
1	2	K	46			○				○	甕	甕	N−37°−E	35	Ⅰ	580	13	17・18	副葬小壷
1	2	M	11										N−45°−E	—	—	580	14	—	木棺墓
1	2	I	12										N−10°−W	—	—	580	14	18	土壙墓・副葬小壷
1	3	K	47																取り上げ不可能
1	3	K	48				○	○			壷	甕	N−61°−W	—	Ⅲ~Ⅳ	600	11	—	
1	3	K	49	○						○		甕	N−50°−W	—	Ⅲ	600	11	—	
1	3	K	50			○				○	鉢	甕	N−32°−W	—	Ⅲ	600	11	—	
1	3	K	51		○			○			鉢	甕	N−12°−W	5	Ⅲ~Ⅳ	600	11	—	
1	3	K	52		○					○	甕	甕	N−88°−W	8	Ⅱ	600	11	—	
1	3	K	53											—	—	—	—	—	遺構図不明
1	3	K	54			○		○			壷	甕	N−35°−W	11	Ⅲ	600	11	13	
1	3	K	55											—	—	—	—	—	遺構図不明
1	3	K	56	○						○	甕		N−5°−E	90	Ⅲ	600	11	13	
1	3	K	57						○		鉢	甕	N−17°−E	90	Ⅲ	600	11	—	
1	3	K	58							○		甕	N−81°−W	7	Ⅱ	600	11	—	
1	3	K	59		○					○	鉢	甕	N−80°−E	90	Ⅲ	600	12	—	
1	3	K	233	○						○			N−57°−W	2	Ⅲ~Ⅳ	600	12	—	
1	4	K	60						○		—	甕	N−27°−E	62	Ⅰ	580	21	27	副葬小壷あり
1	4	K	61						○		甕	甕	N−78°−E	4	—	600	20	—	
1	4	K	62					—	—	—	—	甕	N−84°−W	—	Ⅰ	580	21	27	
1	4	K	63						○		—	甕	N−25°−E	33	Ⅰ	580	21	—	
1	4	K	64						○		—	甕	N−4°−W	42	Ⅰ	580	21	—	
1	4	K	65		○					○	甕	甕	N−16°−E	23	Ⅱ	580	21	25	
1	4	K	66					—	—	—	—	甕	N−46°−E	—	Ⅰ	580	21	27	
1	4	K	67								—	甕	N−50°−E	—	—	600	20	—	
1	4	K	68					○			—	甕	N−8°−W	55	Ⅰ	580	22	—	
1	4	K	69				○			○	壷	甕	N−70°−W	35	Ⅱ	580	22	25	
1	4	K	70		○					○	甕	甕	N−13°−W	35	Ⅱ	600	20	34	
1	4	K	71					—	—	—	—	甕	N−36°−E	—	Ⅲ~Ⅳ	600	20	—	
1	4	K	72		○					○	甕	甕	N−37°−E	5	Ⅱ	600	20	34	
1	4	K	73							○	鉢	甕	N−63°−E	32	Ⅱ	600	20	—	
1	4	K	74		○				○		鉢	甕	N−67°−E	32	Ⅱ	580	22	25	
1	4	K	75	○						○	—	甕	N−1°−E	—		600	20	—	
1	4	K	76							○	—	甕	N−3°−E	39	Ⅱ	580	22	26	
1	4	K	77					○			—	壷	N−65°−E	32	—	600	21	—	
1	4	K	78							○	鉢	甕	N−75°−E	51	Ⅱ	600	21	—	

1次	区	甕 K / 木棺 M / 石棺他 I	登録番号	型式				甕サイズ(cm)			組み合せ		埋置方位	埋置角度	時期(型式)	報告書集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
				単棺	複棺			~59		80~	上棺	下棺							
					接口	覆口	呑口	S	M	L									
1	4	K	79		○					○	鉢	甕	N−27°−E	33	II	580	22	26	
1	4	K	80						○		甕	甕	N−13°−W	59	I~II	580	22	27	
1	4	K	81							○	−	甕	N−29°−E	−	I	580	22	26	
1	4	K	82					−	−	−	−	甕	N−5°−W	−	I	580	23	26	
1	4	K	83							○	−	甕	N−29°−E	−	I	580	23	27	
1	4	K	84						○		−	甕	N−29°−E	56	II	580	23	27	
1	4	K	85						○		甕	甕	N−18°−E	49	I	580	23	26	
1	4	K	86					−	−	−	−	甕	N−4°−E	−	I	580	23	27	
1	4	K	87						○		−	甕	N−6°−E	62	I	580	23	−	
1	4	K	88				○			○	壷	甕	N−10°−E	39	II	580	23	27	銅剣出土
1	4	K	90	○						○	−	甕	N−34°−W	0	III	600	21	−	
1	4	K	91					−	−	−	−	壷	N−57°−W	−	−	600	21	−	
1	4	K	92					−	−	−	甕	甕	N−15°−E	−	−	600	21	−	
1	4	K	93					○			−	甕	N−75°−W	50	−	580	23	−	
1	4	K	94						○		−	甕	N−84°−W	−	IV	600	21	−	
1	4	K	95		○				○		鉢	甕	N−39°−W	40	IV	600	21	−	
1	4	K	96		○				○		甕	甕	N−51°−W	−	IV	600	21	−	
1	4	K	97		○					○	鉢	甕	N−72°−E	0	III	600	21	34	
1	4	K	98		○			○			甕	甕	N−67°−E	−	IV	600	21	−	
1	4	K	99				○	○			甕	甕	N−62°−E	0	III~IV	600	21	−	
1	4	K	100		○			○			甕	甕	N−53°−W	−	IV	600	21	−	
1	4	K	101				○			○	鉢	甕	N−9°−W	−	IV	600	22	−	
1	4	K	102	○					○		−	甕	N−19°−E	−	IV	600	22	−	
1	4	K	103		○			○			甕	甕	N−38°−W	−	IV	600	22	−	
1	4	K	104					−	−	−	壷	甕	N−7°−W	−	III~IV	600	22	−	
1	4	K	105		○					○	鉢	甕	N−61°−W	7	II	600	22	35	
1	4	K	106		○					○	鉢	甕	N−33°−E	12	III	600	22	−	
1	4	K	107		○			○			甕	甕	N−65°−E	−	III	600	22	−	
1	4	K	108				○			○	壷	甕	N−4°−W	0	III~IV	600	22	−	
1	4	K	109			○		○			甕	甕	N−37°−W	25	V	600	22	36	
1	4	K	110						○		壷	甕	N−28°−E	10	III	600	22	35	
1	4	K	111				○			○	甕	甕	N−33°−W	6	III~IV	600	23	−	
1	4	K	112					−	−	−	−	甕	N−43°−E	−	III~IV	600	23	−	
1	4	K	113		○			○			甕	甕	N−63°−E	0	III~IV	600	23	−	
1	4	K	114					○			甕	甕	N−41°−W	−	III~IV	600	23	−	
1	4	K	115		○			○			甕	甕	N−5°−E	−	III~IV	600	23	−	
1	4	K	116					○			甕	甕	N−84°−W	−	III~IV	600	23	−	
1	4	K	117		○					○	甕	甕	N−75°−E	0	II	600	23	−	
1	4	K	118					○			鉢	甕	N−74°−E	7	III~IV	600	23	−	
1	4	K	119		○			○			甕	甕	N−69°−E	−	III	600	23	−	
1	4	K	120	○				○			−	甕	N−23°−E	20	III	600	23	−	
1	4	K	121					−	−	−	−	壷	N−15°−E	−	III~IV	600	23	−	祭祀土坑か
1	4	K	122				○			○	甕	甕	N−43°−E	2	IV	600	23	−	
1	4	K	123					−	−	−	−	甕	N−40°−E	−	III~IV	600	23	−	
1	4	K	124					−	−	−	−	甕	N−13°−E	54	III~IV	600	24	−	
1	4	K	125		○					○	鉢	甕	N−38°−E	2	III	600	24	−	
1	4	K	126		○					○	鉢	甕	N−35°−E	−	III~IV	600	24	−	
1	4	K	127	○						○	−	甕	N−45°−E	0	IV	600	24	−	
1	4	K	128		○			○			甕	甕	N−45°−E	13	III~IV	600	24	−	
1	4	K	129		○			○			壷	甕	N−67°−E	3	III	600	24	36	
1	4	K	130					○			−	甕	N−21°−W	−	III~IV	600	24	−	
1	4	K	131					−	−	−	−	壷	N−34°−W	−	III~IV	600	24	−	祭祀土坑か
1	4	K	132	○						○	−	甕	N−45°−E	10	III	600	24	35	
1	4	K	133		○					○	鉢	甕	N−35°−W	2	III	600	24	−	
1	4	K	134				○		○		甕	甕	N−22°−E	10	IV	600	25	−	
1	4	K	135		○					○	鉢	甕	N−60°−E	−	III	600	25	−	
1	4	K	136						○		甕	甕	N−80°−E	−	III~IV	600	25	−	
1	4	K	137		○					○	鉢	甕	N−65°−E	5	III	600	25	−	
1	4	K	138		○					○	鉢	甕	N−8°−E	7	III	600	25	37	
1	4	K	139					−	−	−	鉢	甕	N−75°−W	−	III~IV	600	25	−	
1	4	K	140		○					○	甕	甕	N−14°−W	9	III	600	26	37	
1	4	K	141							○	鉢	甕	N−36°−E	4	III~IV	600	26	−	
1	4	K	142		○					○	鉢	甕	N−6°−E	10	III	600	26	−	
1	4	K	143		○					○	鉢	甕	N−23°−E	4	III	600	26	37	
1	4	K	144		○					○	甕	甕	N−28°−E	0	III	600	26	−	
1	4	K	145			○		○			壷	壷	N−76°−E	−	II	600	27	36	
1	4	K	146					−	−	−	甕	甕	N−45°−W	−	III~IV	600	27	−	
1	4	K	147							○	−	甕	N−88°−E	−	III	600	27	−	
1	4	K	148		○					○	甕	甕	N−18°−W	0	III~IV	600	27	−	
1	4	K	149				○	○			鉢	甕	N−89°−W	0	III~IV	600	27	−	
1	4	K	150					○			壷		N−82°−E	0	IV	600	27	−	
1	4	K	151		○				○		甕	甕	N−11°−W	3	IV	600	27	−	
1	4	K	152					○			−	甕	N−59°−E	−	III~IV	600	27	−	
1	4	K	153								−	−		−	−	−	−	−	遺構図不明
1	4	K	154					○			鉢	甕	N−36°−W	25	III~IV	600	27	−	
1	4	K	155					○			特殊器台	甕	N−60°−W	−	V	600	27	38	
1	4	K	156	○						○	−	甕	N−9°−W	28	III~IV	600	27	−	
1	4	K	157		○			○			甕	甕	N−17°−E	3	IV	600	28	−	
1	4	K	158		○					○	壷	甕	N−17°−E	6	III	600	28	38	
1	4	K	159		○					○	甕	甕	N−72°−W	0	III	600	28	−	
1	4	K	160					○			−	甕	N−33°−W	0	III~IV	600	28	−	
1	4	K	161		○			○			甕	甕	N−41°−E	2	III~IV	600	28	−	
1	4	K	162				○			○	甕	甕	N−67°−W	−	III~IV	600	28	−	
1	4	K	163		○					○	鉢	甕	N−42°−E	−	III	600	28	−	
1	4	K	164								−	−		−	−	−	−	−	遺構図不明
1	4	K	165	○				○			−	甕	N−51°−W	−	III~IV	600	28	−	
1	4	K	166	○						○	−	甕	N−20°−E	8	III	600	28	−	
1	4	K	167					○			甕	甕	N−48°−E	−	III~IV	600	28	−	
1	4	K	168								−	甕	N−49°−W	−	III~IV	600	29	−	
1	4	K	169		○					○	鉢	甕	N−60°−W	0	III	600	29	−	
1	4	K	170	○						○	−	甕	N−62°−W	−	III~IV	600	29	−	
1	4	K	171		○					○	壷	甕	N−60°−W	12	III~IV	600	29	−	

1次	区	甕 K / 木棺 M / 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	複棺 覆口	複棺 呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	組み合せ 下棺	埋置方位	埋置角度	時期(型式)	報告書集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
1	4	K	172		○				○		壷	甕	N−12°−E	5	II	600	29	—	
1	4	K	173		○			○			甕	甕	N−45°−E	30	IV	600	29	38	
1	4	K	174		○				○		甕	甕	N−80°−W	—	IV	600	29	—	
1	4	K	175		○			○			甕	甕	N−32°−E	15	IV	600	29	—	
1	4	K	176					○			甕	甕	N−66°−E	12	IV	600	29	—	
1	4	K	177				○			○	甕	甕	N−32°−E	0	IV	600	30	—	
1	4	K	178					○			甕	甕	N−1°−E	10	III	600	29	—	
1	4	K	179					○			—	甕	N−30°−W	10	III	600	29	38	
1	4	K	180		○					○	鉢	甕	N−25°−E	3	III	600	30	39	
1	4	K	181		○			○			甕	甕	N−15°−W	10	III	600	30	39	
1	4	K	182		○			○			壷形	甕	N−5°−W	15	III	600	30	39	
1	4	K	183		○					○	鉢	甕	N−41°−W	7	III	600	30	—	
1	4	K	184					○			壷・壷	甕	N−66°−E	9	IV	600	30	40	3連棺
1	4	K	185	○				○			壷	甕	N−89°−E	18	III~IV	600	30	—	
1	4	K	186					○			壷	—	N−31°−E	25	III	600	30	—	
1	4	K	187								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図不明
1	4	K	188					○			甕	甕	N−54°−E	8	III	600	30	40	
1	4	K	189					○				甕	N−65°−W	5	III	600	30	—	
1	4	K	190		○			○			甕	甕	N−13°−W	10	IV	600	30	41	
1	4	K	191		○			○			甕	甕	N−10°−W	18	III~IV	600	30	—	
1	4	K	192								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図不明
1	4	K	193								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図不明
1	4	K	194								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図不明
1	4	K	195								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図不明
1	4	K	196								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図不明
1	4	K	197								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図不明
1	4	K	198								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図不明
1	4	K	199								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図不明
1	4	K	200								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図不明
1	4	K	201		○					○	鉢	甕	N−68°−E	0	III	600	31	—	
1	4	K	202		○			○			甕	甕	N−27°−W	—	III~IV	600	31	—	
1	4	K	203			○		○			鉢	甕	N−6°−W	18	III	600	31	—	
1	4	K	204		○			○			甕・甕	甕	N−67°−W	9	IV	600	31	41	3連棺
1	4	K	205	○				○			—	甕	N−1°−E	7	III~IV	600	31	—	
1	4	K	206	○				○			—	甕	N−78°−E	35	IV	600	31	42	
1	4	K	207		○					○	鉢	甕	N−14°−W	—	III	600	31	—	
1	4	K	208					○			—	甕	N−82°−E	14	III	600	31	40	
1	4	K	209							○	—	甕	N−41°−E	—	III	600	31	—	
1	4	K	210		○			○			甕	甕	N−40°−W	15	IV	600	31	42	
1	4	K	211				○			○	甕	甕	N−54°−W	4	III	600	32	—	
1	4	K	212				○			○	壷	甕	N−66°−E	0	IV	600	32	—	
1	4	K	213	○						○	鉢	甕	N−87°−E	0	III	600	32	43	
1	4	K	214				○			○	甕	甕	N−32°−W	4	III	600	32	43	
1	4	K	215				○	○			甕	甕	N−75°−W	25	IV	600	32	42	
1	4	K	216	○						○	鉢	甕	N−41°−E	5	III	600	32	—	
1	4	K	217					○	○	○	壷	甕	N−45°−E	—	III~IV	600	33	—	
1	4	K	218				○	○			鉢	壷	N−10°−E	10	III~IV	600	33	—	
1	4	K	219	○				○			鉢	甕	N−9°−W	2	III~IV	600	33	—	
1	4	K	220							○	—	甕	N−20°−E	—	III~IV	600	33	—	
1	4	K	221								—	—	—	—	—	—	—	—	図面なし遺物取り上げ
1	4	K	222								—	—	—	—	—	—	—	—	図面なし遺物取り上げ
1	4	K	234								—	—	—	—	—	—	—	—	遺構図行方不明
1	4	I											N−84°−E	—	—	600	33		石蓋土坑

2次	区	甕 K / 木棺 M / 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	複棺 覆口	複棺 呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	組み合せ 下棺	埋置方位	埋置角度	時期(型式)	報告書集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
2	7	K	701								—	—	N−18°−E	—	III	600	45	45	接口部に隔たりあり
2	9	K	901					○			—	甕	N−73°−W	40	I	580	31	31	

4次	区	甕 K / 木棺 M / 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	複棺 覆口	複棺 呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	組み合せ 下棺	埋置方位	埋置角度	時期(型式)	報告書集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
4	GF10・11	K	01		○					○	甕	甕	N−58°−E	—	IV	600	52	53	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	02	○						○	—	甕	N−22°−W	—	III	600	52	53	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	03		○			○			甕	甕	N−11°−W	—	II	600	50	51	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	04	○				○			—	甕	N−17°−W	—	IV	600	50	51	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	05		○		○			○	甕	甕	N−66°−W	—	IV	461	5	6	樋渡墳丘墓
4	G12	K	06		○					○	鉢	甕	N−42°−W	0	III	650	12	—	
4	G12	K	07		○					○	鉢	甕	N−73°−E	7	III	650	12	—	
4	G12	K	08	○						○	—	甕	N−74°−E	14	III~IV	650	12	—	
4	G12	K	09						○		—	甕	N−6°−W	10	III~IV	650	12	—	
4	G12	K	10		○				○		鉢?	甕	N−44°−E	19	III~IV	650	12	—	
4	G12	K	11	○				—	—	—	—	甕	N−10°−W	—	III~IV	650	12	—	
4	G12	K	12			○			○		壷	甕	N−48°−E	21	III~IV	650	12	—	
4	G12	K	13			○				○	甕	甕	N−3°−W	25	IV	650	12	13	
4	G12	K	14			○				○	甕	甕	N−32°−E	−18	IV	650	12	—	
4	G12	K	15					○			壷	甕	N−6°−W	3	III~IV	650	12	—	
4	G12	K	16	○			○			○	—	甕	N−62°−E	0	III~IV	650	12	—	
4	G12	K	17		○					○	鉢	甕	N−55°−E	10	III~IV	650	12	—	
4	G12	K	18		○					○	鉢	甕	N−67°−E	13	III~IV	650	14	—	
4	G12	K	19		○					○	鉢	甕	N−57°−W	0	III~IV	650	14	—	
4	G12	K	20		○					○	壷	甕	N−84°−E	10	III~IV	650	14	—	
4	G12	K	21		○			○			甕	甕	N−84°−W	—	III~IV	650	14	—	
4	G12	K	22		○					○	鉢	甕	N−70°−W	15	III~IV	650	14	—	
4	G12	K	23			○		○			壷壷	壷	N−75°−E	—	III~IV	650	14	—	3連棺
4	G12	K	24			○		○			甕	甕	N−19°−E	20	III~IV	650	14	—	
4	G12	K	25		○				○		甕	甕	N−74°−W	12	IV	650	14	—	
4	G12	K	26		○					○	甕	甕	N−8°−E	7	III	650	14	—	
4	G12	K	27		○					○	甕	甕	N−20°−W	0	IV	650	14	—	
4	G12	K	28	○				—	—	—	—	甕	N−17°−E	—	III~IV	650	14	—	
4	G12	K	29		○					○	甕	甕	N−62°−E	13	III~IV	650	14	—	

4次	区	甕 K / 木棺 M / 石棺他 I	登録番号	型式				甕サイズ(cm)			組み合せ		埋置方位	埋置角度	時期(型式)	報告書集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
				単棺	複棺			~59		80~	上棺	下棺							
					接口	覆口	呑口	S	M	L									
4	G12	K	30				○			○	甕	甕	N−29°−E	2	III	650	14	—	
4	G12	K	31	○						○	—	甕	N−81°−W	35	III~IV	650	15	—	
4	G12	K	32		○				○		高杯	甕	N−84°−E	5	III~IV	650	15	—	
4	G12	K	33			○		○			?	壷	N−79°−E	24	III~IV	650	15	—	
4	G12	K	34								—	甕	N−75°−E	—	III~IV	650	15	—	
4	G12	K	35		○					○	甕	甕	N−79°−E	9	III~IV	650	15	—	
4	G12	K	36				○	○			甕	甕	N−37°−W	8	III~IV	650	15	—	
4	G12	K	37				○			○	甕	甕	N−40°−E	6	IV	650	15	13	
4	G12	K	38		○					○	甕	甕	N−10°−E	4	III~IV	650	15	—	
4	G12	K	39		○				○		甕	甕	N−43°−E	—	III~IV	650	15	—	
4	G12	K	40				○			○	甕	甕	N−70°−E	0	III	650	15	—	
4	G12	K	41		○			○			甕	壷	N−3°−E	—	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	42	○				○			—	壷	N−48°−W	7	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	43			○		○			甕	甕	N−71°−E	10	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	44	○				○			—	甕	N−74°−E	8	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	45					—	—	—	—	甕?	N−20°−E	—	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	46					—	—	—	甕?	甕	N−18°−E	—	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	47		○			○			壷	甕	N−66°−W	—	III~IV	650	16	—	
4		K	48																欠番
4	G12	K	49	○						○	—	甕	N−61°−E	25	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	50			○			○		甕甕	甕	N−11°−E	13	III~IV	650	16	—	3連棺
4	G12	K	51				○			○	甕	甕	N−32°−E	−3	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	52				○			○	甕	甕	N−69°−E	—	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	53		○			○			甕	甕	N−10°−W	17	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	54				○		○		甕	甕	N−77°−W	28	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	55		○					○	鉢	甕	N−22°−E	10	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	56		○			○			壷	甕	N−60°−E	7	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	57		○					○	甕	甕	N−38°−E	14	III~IV	650	16	—	
4	G12	K	58		○				○		鉢	甕	N−15°−E	26	IV	650	17	—	
4	G12	K	59	○				○			—	甕	N−3°−W	—	III~IV	650	17	—	
4	G12	K	60	○						○	—	甕	N−63°−W	37	III~IV	650	17	—	
4	GF10・11	K	61		○					○	甕	甕	N−23°−W	—	III	461	8	10	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	62		○					○	甕	甕	N−110°−W	—	IV	461	11	12	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	63		○			○			甕	甕	N−78°−W	—	IV	600	50	51	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	64		○					○	甕	甕	N−27°−W	—	IV	461	14	16	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	65		○					○	甕	甕	N−23°−W	9	IV	600	59	60	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	66		○			○			甕	甕	N−35°−W	5	IV	600	50	51	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	67		○					○	鉢	甕	N−20°−W	10	III	600	61	62	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	68		○			○			甕	甕	N−72°−E	1	IV	600	50	51	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	69	○					○		—	甕	N−82°−W	—	IV	600	50	51	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	70		○					○	甕	甕	N−25°−W	37	IV	600	52	53	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	71		○					○	甕	甕	N−92°−E	10	III	600	61	62	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	72	○						○	—	甕	N−18°−W	7	III	600	57	58	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	73		○					○	壷	甕	N−13°−W	29	V	600	52	53	樋渡墳丘墓
4	G12	K	74			○		○			壷	壷	N−78°−E	8	III~IV	650	17	—	
4	GF10・11	K	75		○					○	甕	甕	N−17°−W	0	III	461	17	18	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	76		○					○	甕	甕	N−23°−W	3	III	600	57	58	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	77		○					○	甕	甕	N−14°−W	0	III	461	20	21	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	78				○			○	甕	甕	N−10°−W	—	III	600	59	60	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	79		○			○			甕	甕	N−2°−W	—	IV	600	55	56	樋渡墳丘墓
4	G12	K	80				○		○		壷	甕	N−22°−E	29	IV	650	17	—	
4	G12	K	81				○			○	壷	甕	N−30°−E	—	IV	650	17	—	
4	G12	K	82		○			○			鉢	甕	N−29°−E	54	IV	650	17	—	
4	G12	K	83		○					○	甕	甕	N−87°−W	5	IV	650	17	—	
4	G12	K	84		○					○	甕	甕	N−21°−E	0	IV	650	17	—	
4	G12	K	85		○			○			甕?	甕	N−32°−E	38	III~IV	650	17	—	
4	GF10・11	K	86		○					○	鉢	甕	N−83°−E	19	IV	600	57	58	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	87		○			○			壷	甕	N−23°−W	—	IV	600	50	51	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	88		○					○	鉢	甕	N−22°−W	23	III	600	61	62	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	89		○					○	鉢	甕	N−13°−W	—	III	600	57	58	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	90		○			○			甕	甕	—	15	IV	600	54	58	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	91	○						○	—	甕	N−21°−E	10	IV	600	59	60	樋渡墳丘墓
4	GF10・11	K	92		○			○			甕	甕	N−61°−E	—	IV	600	55	58	樋渡墳丘墓
4	HI	K	100			○		○			甕	甕	N−31°−W	—	III~IV	650	5	—	
4	HI	K	101			○		○			甕	甕	N−50°−E	24	III~IV	650	5	—	
4	HI	K	102	○							—	甕	N−68°−E	—	III~IV	650	5	—	
4	HI	K	103		○			○			甕	甕	N−50°−W	21	III~IV	650	5	—	
4	HI	K	104		○			○			甕	甕	N−15°−E	42	III~IV	650	5	6	
4	HI	K	105		○			○			鉢	甕	N−50°−W	18	III	650	5	—	
4	HI	K	106		○			○			甕	甕	N−46°−E	13	III~IV	650	5	—	
4	HI	K	107		○				○		甕	甕	N−60°−E	−10	III	650	5	6	
4	HI	K	108		○					○	鉢	甕	N−17°−E	3	III	650	5	—	
4	GH12	K	109		○			○			甕	甕	N−2°−W	10	III~IV	650	7	—	
4	GH12	K	110		○			○			甕	甕	N−4°−E	—	III~IV	650	7	—	
4	GH12	K	111	○				○			—	壷	N−22°−E	26	III~IV	650	7	—	
4	GH12	K	112		○			○			甕	甕	N−62°−E	30	III~IV	650	7	—	
4	GH12	K	113								鉢	甕	N−38°−E	—	III~IV	650	7	—	
4	GH12	K	114		○					○	甕	甕	N−5°−W	−7	III	650	7	—	
4	GH12	K	115																欠番
4	GH12	K	116		○			○			甕	甕	N−18°−E	—	III~IV	650	7	—	
4	GH12	K	117		○					○	鉢	甕	N−5°−E	26	III~IV	650	7	—	
4	GH12	K	118		○					○	壷	甕	N−10°−W	6	III	650	7	—	
4	GH12	K	119		○			○			甕	甕	N−10°−W	—	III~IV	650	7	—	
4	GH12	K	120		○				○		甕	甕	N−40°−E	5	III	650	7	—	
4	GH12	K	121		○					○	壷	甕	N−32°−W	6	III	650	8	9	
4	GH12	K	122		○				○		甕	甕	N−69°−W	15	III~IV	650	8	—	
4	GH12	K	123																欠番
4	GH12	K	124		○					○	甕	甕	N−89°−W	—	III	650	8	—	
4	GH12	K	125								鉢	壷	N−87°−E	—	III~IV	650	8	—	
4	GH12	K	126	○						○	—	甕	N−69°−W	—	III	650	8	—	
4	GH12	K	127	○						○	—	甕	N−20°−W	0	III	650	8	—	
4	GH12	K	128		○					○	甕	甕	N−60°−E	17	III	650	8	—	

4次	区	甕 K 木棺 M 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	覆口	呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	下棺	埋置方位	埋置角度	時期 (型式)	報告書 集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
4	GH12	K	129		○					○	壷	甕	N−40°−W	0	III	650	8	9	
4	GH12	K	130		○					○	壷	甕	N−69°−E	—	III	650	8	—	
4	GH12	K	131								—	甕	N−54°−E	—	III~IV	650	8	—	
4	GH12	K	132		○					○	鉢	甕	N−35°−E	18	III	650	8	10	
4	GH12	K	133		○					○	鉢	甕	N−46°−E	10	III	650	8	—	
4	GH12	K	134	○				○			—	壷	N−30°−W	—	III~IV	650	11	—	
4	GH12	K	135																欠番
4	GH12	K	136	○						○	—	甕	N−79°−E	4	III	650	11	—	
4	GH12	K	137		○			○			鉢	甕	N−6°−E	16	III~IV	650	11	—	
4	GH12	K	138	○						○	—	甕	N−12°−E	—	III	650	11	—	
4	GH12	K	139								壷?	甕	N−74°−E	—	III~IV	650	11	—	
4	GH12	K	140	○				○			—	甕	N−5°−E	29	III~IV	650	11	—	
4	GH12	K	141				○			○	甕	甕	N−10°−E	11	III	650	11	—	
4	GH12	K	142								—	甕	—		—	650	7	—	
4	GH12	K	143		○					○	鉢	甕	N−31°−W	—	III	650	11	—	
4	GH12	K	144																欠番
4	GH12	K	145		○			○			壷	甕	N−57°−E	—	III~IV	650	11	—	
4	GH12	K	146			○		○			壷	甕	N−46°−E	6	III	650	11	—	
4	GF10・11	M	1										N−11°−W	—	V	461	23	—	木棺墓・樋渡墳丘墓
4	GF10・11	I	01										—	—	—	600	—	—	箱式石棺墓・樋渡墳丘墓
4	GF10・11	I	93										N−47°−W	—	V	600	63	64	土坑・生活遺構か
4	G12	I	01										N−87°−E	—	V	650	18	—	石棺墓
4	G12	I	01										N−2°−E	—	V	650	18	—	石蓋土坑墓

6次	区	甕 K 木棺 M 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	覆口	呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	下棺	埋置方位	埋置角度	時期 (型式)	報告書 集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
6	1	K	100			○			○		甕	甕	N-17°-E	26	II	461	31	32・33	吉武高木区画墓
6	1	K	101		○			○			甕	甕	N-22°-E	36	II	580	34	35	吉武高木区画墓
6	1	K	102		○					○	壷	甕	N-76°-E	3	II	580	43	44	吉武高木区画墓
6	1	K	103		○					○	鉢	甕	N-58°-W	16	II	580	43	44	吉武高木区画墓
6	1	K	104	○					○		—	甕	N-80°-E	40	II	580	34	35・36	吉武高木区画墓
6	1	K	105	○							—	壷?	—	—	—	580	43	44	
6	1	K	106	○				○			—	壷	N-16°-E	47	II	580	43	44	
6	1	K	107			○				○	鉢	—	N-67°-W	22	II	580	43	44	
6	1	K	108				○			○	壷	壷	N-10°-E	36	II	580	43	44	
6	1	K	109		○				○		甕	甕	N-24°-E	20	II	461	34	35・36	吉武高木区画墓
6	1	K	110		○				○		甕	甕	N-40°-E	28	II	461	37・38	39~41	吉武高木区画墓
6	1	K	111		○				○		甕	甕	N-15°-E	19	II	461	42・43	44・45	吉武高木区画墓
6	1	K	112			○		○			甕	甕	N-32°-E	31	II	580	37	38	吉武高木区画墓
6	1	K	113		○				○		甕	甕	N-30°-E	25	II	580	37	38	吉武高木区画墓
6	1	K	114			○				○	壷	壷	N-17°-E	36	II	580	43	45	吉武高木区画墓
6	1	K	115	○					○		甕	甕	N-44°-E	35	II	461	46	47.48	吉武高木区画墓
6	1	K	116		○				○		甕	甕	N-37°-E	45	II	461	49	50~52	吉武高木区画墓
6	1	K	117		○				○		甕	甕	N-51°-E	18	II	461	53・54	55~58	吉武高木区画墓
6	1	K	118			○				○	鉢	甕	N-61°-E	25	II	580	43	45	吉武高木区画墓
6	1	K	119			○		○			壷	壷	N-20°-E	17	I	580	39	40・41	吉武高木区画墓
6	1	K	120	○						○	—	壷	N-14°-E	43	I	580	43	45	
6	1	K	121	○						○	—	壷	N-14°-E	—	I	580	46	47	
6	1	K	122		○			○			鉢	甕	N-1°-E	46	I	580	39	40	
6	1	K	123	○						○	—	甕	N-87°-E	—	I	580	46	47	
6	1	K	124			○				○	壷	壷	N-16°-W	40	I	580	46	47	
6	1	K	125						○		—	壷	N-7°-E	38	I	461	59	60・61	磨製石鏃
6	1	K	126		○					○	壷	壷	N-70°-E	25	I	580	46	47	
6	1	K	127			○				○	鉢	壷	N-6°-W	62	I	580	46	47	
6	1	K	128	○						○	—	鉢	N-14°-E	0	—	580	46	—	吉武高木区画墓
6	1	K	129																欠番
6	1	K	130																欠番
6	1	K	131	○							—	壷	—	—	—	580	—	42	
6	1	K	132																欠番
6	1	K	133			○													欠番
6	1	K	134							○	壷	壷	N-22°-E	36	I	580	46	47	
6	1 北	K	135																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	136																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	137																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	138			○		○			鉢	甕	N-1°-W	—	I	580	48	—	吉武高木範囲確認
6	1 北	K	139																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	140																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	141																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	142																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	143																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	144	○					○		—	甕	N-40°-E	—	I	580	48	—	吉武高木範囲確認
6	1 北	K	145																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	146																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	147																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	148																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	149																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	150																吉武高木範囲確認
6	1 北	K	151																吉武高木範囲確認
6	1	M	1										N-30°-E	—	II	461	62・63	64~66	木棺墓
6	1	M	2										N-44°-E	—	II	461	67・68	69~71	木棺墓
6	1	M	3										N-35°-E	—	II	461	72・73	74~78	木棺墓
6	1	M	4										N-46°-E	—	II	461	81	82・83	木棺墓
6	D・E区	K	01			○				○	壷	壷	N-18°-E	33	II	580	49	—	
6	D・E区	K	02			○				○	壷	壷	N-S	11	II	580	49	—	
6	D・E区	K	03			○				○	壷	壷	N-39°-E	57	II	580	49	—	
6	D・E区	K	04				○	○			壷	甕	N-81°-W	7	I	580	49	—	
6	D・E区	K	05					○			—	壷?	N-3°-E	48	I	580	49	—	
6	2 東	K	01				○		○		甕	甕	N-23°-E	38	I	580	52	—	
6	2 東	K	02			○		○			甕	甕	N-65°-E	41	I	580	52	—	
6	2 東	K	03			○				○	壷	壷	N-66°-E	57	I	580	52	—	
6	2 東	K	04				○	○			甕	甕	N-57°-E	40	I	580	52	54・56	磨製石剣先端

6次	区	甕 K / 木棺 M / 石棺他 I	登録番号	型式: 単棺	複棺: 接口	複棺: 覆口	複棺: 呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ: 上棺	下棺	埋置方位	埋置角度	時期(型式)	報告書集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
6	2 東	K	05				○	○			甕	甕	N-88°-E	39	Ⅰ	580	52	—	
6	2 東	K	06	○				○			—	甕	N-48°-E	37	Ⅰ	580	52	54・56	磨製石鏃
6	2 東		07																欠番
6	2 東	K	08			○				○	鉢	壷	N-46°-E	33	Ⅰ	580	53	—	
6	2 東	K	09			○			○		甕	甕	N-76°-W	52	Ⅰ	580	52	—	
6	2 東	K	10			○		○			甕	甕	N-25°-E	53	Ⅱ	580	53	—	
6	2 東	K	11	○				○			—	甕	N-50°-E	50	Ⅰ	580	52	—	
6	2 東	K	12			○		○			鉢	甕	N-58°-W	42	Ⅱ	580	53	—	
6	2 東	K	13	○				○	○	○	—	甕	N-35°-W	—	Ⅱ	580	53	—	
6	2 東	K	14		○			○			甕	甕	N-32°-E	10	Ⅱ	580	53	—	
6	2 東	K	15	○?						○	—	壷?	N-56°-W	56	Ⅱ	580	53	—	
6	2 東		16																欠番
6	2 東	K	17			○		?			甕	甕	N-21°-E	44	Ⅰ	580	52	—	
6	2 東	K	18								甕	甕							
6	2 東	K	19	○						○	—	壷	N-78°-E	47	Ⅱ	580	53	—	
6	2 東	K	20			○			○		鉢	甕	N-72°-E	50	Ⅱ	580	53	—	
6	2 東	SX	01										—	—	—	—	—	—	副葬小壷
6	2 西	K	01			○			○		甕	甕	N-56°-E	17	Ⅰ	580	59	—	
6	2 西	K	02		○			○			甕	甕	N-52°-E	35	Ⅰ	580	61	—	
6	2 西	K	03	○?				—	—	—	—	壷?	N-85°-E	—	Ⅰ?	580	58	—	
6	2 西	K	04	○				—	—	—	—	壷	N-53°-E	—	Ⅰ?	580	58	—	
6	2 西	K	05	○					○		—	甕	—	—	Ⅰ	580	59	—	
6	2 西	K	06	○				○			—	甕	N-48°-E	50	Ⅰ	580	61	—	
6	2 西	K	07			○		○			鉢	甕	N-55°-E	47	Ⅰ	580	61	—	
6	2 西	K	08																欠番
6	2 西	K	09				○		○		甕	甕	N-48°-E	26	Ⅰ	580	59	—	
6	2 西	K	10			○				○	甕	壷	N-41°-E	23	Ⅱ	580	63	—	
6	2 西	K	11			○		○			甕	甕	N-18°-E	30	Ⅰ	580	59	—	
6	2 西	K	12			○		○			壷	甕	N-25°-E	44	Ⅰ	580	61	—	
6	2 西	K	13			○		○			甕	甕	N-62°-E	24	Ⅰ	580	59	—	
6	2 西	K	14				○	○			甕	甕	N-65°-E	29	Ⅰ	580	61	—	
6	2 西	K	15		○			○			甕	甕	N-49°-E	50	Ⅰ	580	62	—	
6	2 西	K	16	○					○		—	甕	N-54°-E	—	Ⅰ	580	59	60	鋸状文あり
6	2 西	K	17				○	○			甕	甕	N-31°-E	31	Ⅰ	580	61	—	
6	2 西	K	18		○			○			甕	甕	N-47°-E	26	Ⅰ	580	59	—	
6	2 西	K	19	○				○			—	甕	N-60°-E	27	Ⅰ	580	62	—	
6	2 西	K	20	○				—	—	—	—	甕	N-50°-E	—	Ⅰ?	580	—	—	
6	2 西	K	21			○		○			甕	甕	N-61°-E	32	Ⅰ	580	61	—	
6	2 西	K	22	○				—	—	—	—	甕	N-47°-E	—	Ⅰ	580	62	—	
6	2 西	K	23	○				○			—	甕	N-81°-E	39	Ⅰ	580	61	—	
6	2 西	K	24		○			○			甕	甕	N-86°-W	26	Ⅰ	580	62	—	
6	2 西	K	25	○				—	—	—	—	甕	N-54°-E	—	Ⅰ?	580	—	—	
6	2 西	K	26		○			○			甕	甕	N-44°-W	28	Ⅰ	580	62	—	
6	2 西	K	27	○				○			—	甕	N-47°-E	—	Ⅰ	580	61	—	
6	2 西	K	28	○				—	—	—	—	壷	N-77°-W	52	Ⅰ	580	62	—	
6	2 西	K	29	○				—	—	—	—	甕	—	—	Ⅰ	580	62	—	
6	2 西	K	30	○						○	—	甕	N-37°-E	—	Ⅱ	580	63	—	
6	2 西	K	31		○					○	?	甕	N-79°-E	9	Ⅱ	580	63	—	
6	2 西	K	32	○						○	—	甕	N-43°-W	—	Ⅱ	580	63	—	
6	2 西	K	33																欠番
6	2 西	K	34			○				○	甕	甕	N-36°-E	60	Ⅰ	580	62	—	
6	2 西	K	35			○		○			甕	甕	N-33°-E	12	Ⅰ	580	62	—	
6	1号幹線道路2区	K	01		○				○		壷	甕	N-69°-E	—	Ⅲ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	02				○		○		甕	甕	N-50°-E	8	Ⅳ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	03		○					○	鉢	壷	N-1°-E	42	Ⅲ~Ⅳ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	04	○?					○		—	甕	N-61°-W	15	Ⅲ~Ⅳ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	05	○				—	—	—	—	壷	N-80°-E	64	Ⅲ~Ⅳ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	06			○				○	壷	壷	N-44°-W	51	Ⅲ~Ⅳ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	07		○					○	甕	甕	N-66°-E	—	Ⅲ~Ⅳ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	08		○				○		甕	甕	N-36°-W	27	Ⅲ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	09	○					○		—	甕	N-66°-W	33	Ⅳ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	10		○				○		甕	甕	N-24°-E	15	Ⅳ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	11		○				○		壷	甕	N-42°-E	0	Ⅳ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	12	○					○		—	甕	N-32°-E	0 ?	Ⅲ	650	22	—	
6	1号幹線道路2区	K	13		?			—	—	—					—	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	14		○				○		壷	甕	N-1°-W	0	Ⅲ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	15		○				○		甕	甕	N-6°-W	4	Ⅲ	650	23	24	
6	1号幹線道路2区	K	16		○			○			鉢	甕	N-6°-E	0	Ⅲ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	17	○						○	—	壷	N-37°-E	—	Ⅲ~Ⅳ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	18		○					○	甕	甕	N-55°-W	4	Ⅲ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	19	○				○			—	甕	N-28°-E	—	Ⅲ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	20		○				○		甕	甕	N-28°-E	0	Ⅲ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	21		○					○	甕	甕	N-72°-W	0	Ⅲ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	22		○?			—	—	—	甕?	甕?	N-61°-E	—	—	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	23		○					○	甕	甕?	N-85°-E	—	Ⅲ~Ⅳ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	24	○						○	—	甕	N-25°-E	6	Ⅲ~Ⅳ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	25	○				○			—	甕	N-80°-E	5	Ⅲ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	26		○					○	甕	甕	N-17°-E	0	Ⅲ~Ⅳ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	27	○				○			—	甕	N-78°-E	—	Ⅲ~Ⅳ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	28		○					○	甕	甕	N-14°-E	13	Ⅲ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	29			○		○			甕	甕	N-24°-E	11	Ⅲ~Ⅳ	650	23	—	
6	1号幹線道路2区	K	30		○					○	甕	甕	N-62°-E	30	Ⅲ~Ⅳ	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	31	○				○			—	甕	N-87°-W	—	Ⅲ	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	32		○					○	甕	甕	N-31°-E	8	Ⅲ	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	33		○					○	鉢	甕	N-50°-E	6	Ⅲ	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	34				○		○		甕	甕	N-29°-E	26	Ⅲ	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	35				○		○		鉢	甕	N-65°-E	8	Ⅲ	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	36	○				○			—	壷	N-10°-E	—	Ⅳ	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	37		○					○	壷	壷	N-60°-E	—	Ⅲ~Ⅳ	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	38	○					○		—	甕	N-50°-E	—	Ⅲ	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	39		○					○	鉢	甕	N-72°-E	—	Ⅲ~Ⅳ	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	40			○?				○	甕?	壷	N-60°-E	86	Ⅲ~Ⅳ	650	25	—	

6次	区	甕 K / 木棺 M / 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	複棺 挿口	複棺 呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	下棺	埋置方位	埋置角度	時期(型式)	報告書集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
6	1号幹線道路2区	K	41	○					○		—	甕	N-29°-E	25	III~IV	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	42		○			○			鉢	甕	N-50°-E	19	III~IV	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	43	○						○	—	甕	N-74°-W	10	III~IV	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	44	○						○	—	甕	N-82°-E	4	IV	650	25	—	
6	1号幹線道路2区	K	45		○				○		鉢	甕	N-31°-E	1	III	650	26	—	
6	1号幹線道路2区	K	46		○				○		鉢	甕	N-10°-W	0	III	650	26	—	
6	1号幹線道路2区	K	47			○			○		甕	甕	N-66°-W	16	IV	650	26	—	
6	1号幹線道路2区	K	48			○				○	甕	甕	N-89°-W	—	IV	650	26	—	
6	1号幹線道路2区	K	49	○						○	—	甕	N-84°-E	47	—	650	26	—	
6	1号幹線道路2区	K	50	○?				○			—	甕	N-38°-E	—	—	650	26	—	
6	1号幹線道路2区	K	51		○					○	甕	甕	N-84°-E	−10	III~IV	650	26	—	
6	1号幹線道路2区	K	52		○				○		甕	甕	N-7°-W	3	III	650	26	—	
6	1号幹線道路2区	K	53	○?					○		—	甕	N-23°-E	—	III~IV	650	26	—	
6	1号幹線道路2区	K	54	○?						○	—	甕	N-68°-E	—	III~IV	650	26	—	
6	1号幹線道路2区	K	55		○				○		鉢	甕	N-54°-E	0	III	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	56		○				○		鉢	甕	N-71°-W	—	III	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	57		○			○			甕	甕	N-39°-E	−10	IV	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	58	○					○		—	甕	N-40°-E	34	IV	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	59		○				○		鉢	甕	N-43°-E	3	III	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	60	○				—	—	—	—	甕	N-15°-E	26	III~IV	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	61	○				—	—	—	—	壺	N-23°-W	—	III~IV	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	62	○					○		—	甕	N-33°-E	−8	III	650	27	24	
6	1号幹線道路2区	K	63		○				○		甕	甕	N-30°-E	23	IV	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	64		○				○		鉢	甕	N-39°-E	—	III	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	65	○					○		—	甕	N-50°-E	54	IV	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	66		○				○		鉢	甕	N-22°-E	15	III~IV	650	28	—	
6	1号幹線道路2区	K	67		○						甕	甕	N-80°-W	9	IV	580	66	67・68	素環頭大刀を副葬
6	1号幹線道路2区	K	68				○		○		甕	甕	N-54°-W	27	IV	650	27	—	
6	1号幹線道路2区	K	69			○				○	甕	甕	N-77°-W	37	IV	650	28	—	
6	1号幹線道路2区	K	70		○			—	—	—	甕	甕	N-66°-W	—	III~IV	650	28	—	
6	1号幹線道路2区	K	71	—	—	—	—	—	—	—	—	—	N-13°-E	—	—	650	28	—	破片
6	1号幹線道路2区	K	72	○					○		—	甕	N-27°-W	3	III	650	28	—	
6	1号幹線道路2区	K	73		○				○		甕	甕	N-4°-W	5	II	650	28	—	
6	1号幹線道路2区	K	74				○		○		甕	甕	N-25°-W	4	III	650	28	—	
6	1号幹線道路2区	K	75	○?						○	—	甕	—		—	650	28	—	破片
6	1号幹線道路2区	K	76		○				○		甕	甕	N-78°-E	9	II	650	28	—	
6	1号幹線道路2区	K	77		○					○	甕	甕	N-49°-E	17	III	650	28	—	
6	1号幹線道路2区	K	78	○					○		—	甕	N-53°-E	2	III	650	29	—	
6	1号幹線道路2区	K	79		○				○		鉢	甕	N-S	2	III	650	29	—	
6	1号幹線道路2区	K	80		○				○		鉢	甕	N-85°-W	1	III	650	29	—	
6	1号幹線道路2区	K	81	○				○			—	甕	N-76°-W	32	IV	650	29	—	
6	1号幹線道路2区	K	82	○					○		—	甕	N-52°-E	37	IV	650	29	—	
6	1号幹線道路2区	K	83		○					○	甕	甕	N-67°-W	—	IV	650	29	—	
6	1号幹線道路2区	K	84		○				○		甕	甕	N-68°-W	6	IV	650	29	—	
6	1号幹線道路2区	K	85		○				○		甕	甕	N-70°-W	21	IV	650	30	—	
6	1号幹線道路2区	K	86			○			○		甕	甕	N-89°-W	32	IV	650	30	—	
6	1号幹線道路2区	K	87	○				—	—	—	—	甕	N-30°-E	—	IV	650	30	—	
6	1号幹線道路2区	K	88		○				○		鉢	甕	N-66°-W	2	III	650	30	—	
6	1号幹線道路2区	K	89		○			○			甕	甕	N-53°-E	17	IV	650	30	—	
6	1号幹線道路2区	K	90		○			○			甕	甕	N-34°-E	32	V	650	30	—	
6	1号幹線道路2区	K	91		○			○			甕	甕	N-78°-W	35	IV	650	30	—	
6	1号幹線道路2区	K	92		○					○	甕	甕	N-72°-W	13	IV	650	30	—	
6	1号幹線道路2区	K	93		○					○	甕	甕	N-73°-W	22	IV	650	30	—	
6	1号幹線道路2区	K	94	○					○		—	甕	N-20°-E	2	IV	650	31	—	
6	1号幹線道路2区	K	95	○					○		—	甕	N-29°-E	26	IV	650	31	—	
6	1号幹線道路2区	K	96		○			○			甕甕	甕	N-81°-E	13	IV	650	31	—	3連棺
6	1号幹線道路2区	K	97		○?				○		甕	甕	N-81°-E	—	IV	650	31	—	
6	1号幹線道路2区	K	98	○?				—	—	—	—	甕	N-30°-W	—	IV	650	31	—	
6	1号幹線道路2区	K	99		○			○			甕甕	甕	N-46°-E	32	IV	650	31	—	3連棺
6	1号幹線道路2区	K	100		○					○	甕	甕	N-75°-E	12	IV	650	31	—	
6	1号幹線道路2区	I	01										N-26°-E	—	V	650	32	—	石棺墓
6	1号幹線道路2区	I	02										N-9°-E	—	V	650	32	—	石棺墓
6	LM地区	K	101		○			○			甕	甕	N-75°-E	—	IV	650	35	—	
6	LM地区	K	102	○							—	壺	N-83°-E	—	II	650	35	—	
6	LM地区	K	103		○					○	壺	甕	N-63°-E	20	III	650	35	—	
6	LM地区	K	104		○					○	高杯	壺	N-22°-W	39	III	650	35	38	
6	LM地区	K	105		○				○		甕	甕	N-75°-E	4	IV	650	35	—	
6	LM地区	K	106																欠番
6	LM地区	K	107																欠番
6	LM地区	K	108		○				○		鉢	甕	N-68°-E	10	IV	650	35	—	
6	LM地区	K	109		○				○		鉢	甕	N-85°-W	2	IV	650	35	—	
6	LM地区	K	110	○						○	—	甕	N-24°-W	24	III	650	35	—	
6	LM地区	K	111		○				○		鉢	甕	N-28°-E	0	IV	650	35	—	
6	LM地区	K	112		○				○		鉢	甕	N-4°-W	−6	III	650	37	—	
6	LM地区	K	113																欠番
6	LM地区	K	114				○		○		甕	甕	—		II	650	37	—	
6	LM地区	K	115																欠番
6	LM地区	K	116		○					○	甕	甕	N-74°-E	46	III~IV	650	37	—	
6	LM地区	K	117	○						○	—	甕	N-34°-E	42	III~IV	650	37	—	
6	LM地区	K	118																欠番
6	LM地区	K	119		○					○	壺	壺	N-57°-W	35	III	650	37	—	
6	LM地区	K	120		○				○		甕	甕	N-27°-E	8	IV	650	37	—	
6	LM地区	K	121	○					○		—	甕	N-47°-E	1	IV	650	37	—	
6	LM地区	K	122		○				○		鉢	甕	N-28°-E	0	IV	650	37	—	
6	LM地区	K	123		○				○		甕	甕	N-70°-E	—	II	650	37	—	
6	LM地区	K	124		○				○		甕甕	甕	N-46°-E	2	IV	650	38	—	3連
6	LM地区	K	125	○				—	—	—	—	甕	N-13°-E	—	IV	650	38	—	
6	LM地区	K	126				○	○			甕	甕	N-32°-E	6	IV	650	38	—	
6	LM地区	K	127		○					○	甕	甕	N-77°-W	—	III~IV	650	38	—	
6	LM地区	K	128				○	○			甕	甕	N-89°-W	9	IV	650	38	—	
6	LM地区	K	129		○					○	甕	甕	N-21°-E	8	IV	650	38	—	
6	LM地区	K	130		○					○	甕	壺	N-60°-W	0	IV	650	38	—	

6次	区	甕 K	登録番号	型式				甕サイズ(cm)			組み合せ		埋置方位	埋置角度	時期	報告書	遺構図	遺物図	備考
		木棺 M		単棺	複棺			~59		80~	上棺	下棺			(型式)	集	Fig	Fig	
		石棺他 I			接口	覆口	呑口	S	M	L									
6	LM地区	K	131		○			○			甕	甕	N-40°-E	4	IV	650	38	—	
6	LM地区	K	132		○			○			甕	甕	N-26°-E	3	IV	650	38	—	
6	LM地区	K	133		○				○		甕	甕	N-31°-E	0	IV	650	40	—	
6	LM地区	K	134			○			○		甕	甕	N-60°-E	4	II	650	40	39	
6	LM地区	K	135		○					○	鉢	甕	N-75°-E	7	III	650	38	—	
6	LM地区	K	136	○						○	—	壺	N-50°-E	—	—	650	38	—	
6	LM地区	K	137		○					○	鉢	甕	N-88°-W	—	III	650	38	—	
6	LM地区	K	138		○				○		甕	甕	N-85°-W	0	II	650	40	—	
6	LM地区	K	139		○			—	—	—	甕	甕	N-S	—	II	650	40	—	
6	LM地区	K	140		○			○			甕	甕	N-13°-E	—	II	650	40	—	
6	LM地区	K	141	○				—	—	—	—	甕	N-85°-E	—	—	650	40	—	
6	LM地区	K	142		○				○		壺	甕	N-74°-E	6	III	650	40	—	
6	LM地区	K	143	○						○	—	壺	N-60°-W	40	III	650	40	—	
6	LM地区	K	144	○				○			—	壺	N-43°-E	53	IV	650	40	—	
6	LM地区	K	145		○				○		鉢	甕	N-58°-E	39	II	650	41	—	
6	LM地区	K	146	○					○		—	甕	N-77°-E	—	II	650	41	—	
6	LM地区	K	147		○					○	甕	壺	N-33°-E	0	III	650	40	—	
6	LM地区	K	148		○				○		壺	甕	N-74°-E	14	IV	650	41	—	
6	LM地区	K	149		○				○		甕	甕	N-28°-W	−6	IV	650	41	—	
6	LM地区	K	150		○				○		壺	甕	N-59°-E	11	IV	650	42	—	
6	LM地区	K	151		○				○		甕	甕	N-76°-W	7	II	650	41	—	
6	LM地区	K	152		○				○		壺	甕	N-60°-E	4	IV	650	42	—	
6	LM地区	K	153		○				○		鉢	甕	N-85°-W	−3	III	650	41	—	
6	LM地区	K	154		○				○		甕	甕	N-46°-W	0	II	650	42	—	
6	LM地区	K	155	○						○	—	甕	N-69°-E	14	II	650	42	—	
6	LM地区	K	156	○						○	—	甕	N-70°-E	33	II	650	42	—	
6	LM地区	K	157		○				○		甕	甕	N-69°-E	16	IV	650	43	—	
6	LM地区	K	158		○				○		甕	甕	N-84°-W	5	III	650	43	39	
6	LM地区	K	159					—	—	—	—	—	N-86°-W	—	—	650	42	—	
6	LM地区	K	160					—	—	—	—	壺	N-46°-E	—	—	650	42	—	
6	LM地区	K	161					—	—	—	—	壺	N-76°-E	—	—	650	43	—	
6	LM地区	K	162		○				○		鉢	甕	N-17°-W	14	IV	650	43	—	
6	LM地区	K	163		○			○			甕	甕	N-44°-E	3	IV	650	43	44	
6	LM地区	K	164	○					○		—	甕	N-18°-W	14	III	650	43	44	
6	LM地区	K	165		○			○			甕	甕	N-88°-W	15	IV	650	43	—	
6	LM地区	K	166		○				○		鉢	甕	N-73°-E	5	IV	650	45	—	
6	LM地区	K	167		○				○		甕	甕	N-13°-E	2	IV	650	45	—	
6	LM地区	K	168				○		○		壺	甕	N-60°-E	4	IV	650	45	—	
6	LM地区	K	169	○					○		—	甕	N-28°-E	37	IV	650	45	—	
6	LM地区	K	170		○			○			甕	甕	N-63°-E	33	IV	650	45	—	
6	LM地区	K	171		○			—	—	—	甕	甕	N-67°-E	—	IV	650	45	—	
6	LM地区	K	172	○				○			—	壺	N-7°-E	42	IV	650	46	—	
6	LM地区	K	173		○				○		鉢	甕	N-76°-E	—	III	650	46	—	
6	LM地区	K	174	○					○		—	甕	N-65°-E	14	II	650	46	—	
6	LM地区	K	175				○	○			壺	甕	N-42°-E	7	II	650	45	—	
6	LM地区	K	176		○					○	甕	壺	N-18°-E	3	III	650	46	—	
6	LM地区	K	177	○					○		—	甕	N-54°-E	13	IV	650	46	—	
6	LM地区	K	178		○					○	鉢	甕	N-47°-E	41	II	650	46	—	
6	LM地区	K	179		○					○	鉢	甕	N-43°-E	15	III	650	46	—	
6	LM地区	K	180		○					○	甕	甕	N-55°-E	—	III	650	46	—	
6	LM地区	K	181			○		○			甕	甕	N-47°-E	30	II	650	47	—	
6	LM地区	K	182		○				○		鉢	甕	N-50°-E	8	III	650	47	—	
6	LM地区	K	183	○				—	—	—	—	甕	N-72°-E	—	III	650	46	—	
6	LM地区	K	184	○				○			—	甕	N-70°-E	—	—	650	46	—	
6	LM地区	K	185		○					○	甕	甕	N-68°-E	—	II	650	46	—	
6	LM地区	K	186				○			○	壺	甕	N-8°-E	37	III	650	46	—	
6	LM地区	K	187			○		○			壺	甕	N-40°-E	—	III	650	46	—	
6	LM地区	K	188		○				○		鉢	甕	N-44°-E	3	IV	650	47	—	
6	LM地区	K	189		○				○		甕	甕	N-15°-E	16	III	650	47	—	
6	LM地区	K	190	○				—	—	—	—	壺	—	—	—	650	47	—	
6	LM地区	K	191	○					○		—	甕	N-7°-W	10	III	650	47	—	
6	LM地区	K	192	○				—	—	—	—	甕	—	—	—	650	47	—	
6	LM地区	K	193		○				○		甕	甕	N-32°-W	11	III	650	48	—	
6	LM地区	K	194		○					○	甕	甕	N-32°-W	—	II	650	47	—	
6	LM地区	K	195	○					○		—	甕	N-37°-E	—	IV	650	48	—	
6	LM地区	K	196		○				○		壺	甕	N-67°-E	6	III	650	48	—	
6	LM地区	K	197		○				○		甕	甕	N-11°-E	—	IV	650	48	—	
6	LM地区	K	198		○				○		甕	甕	N-55°-E	—	IV	650	48	—	
6	LM地区	K	199		○					○	甕	甕	N-63°-W	16	IV	650	48	—	
6	LM地区	K	200	○				—	—	—	—	甕	—	—	IV	650	48	—	
6	LM地区	K	201																土師器
6	LM地区	K	202	○					○		—	甕	—	—	IV	650	49	—	
6	LM地区	K	203	○						○	—	甕	N-4°-E	—	—	650	47	—	
6	LM地区	K	204	○						○	—	壺	N-62°-E	39	II	650	49	—	
6	LM地区	K	205		○				○		鉢	甕	N-58°-E	27	II	650	49	—	
6	LM地区	K	206		○					○	甕	甕	N-61°-E	4	II	650	49	—	
6	LM地区	K	207				○		○		甕	甕	N-34°-W	22	II	650	49	—	
6	LM地区	K	208	○					○		—	甕	N-69°-E	7	III	650	49	—	
6	LM地区	K	209		○				○		甕	甕	N-3°-E	1	IV	650	50	—	
6	LM地区	K	210		○				○		鉢	甕	N-38°-E	—	IV	650	50	—	
6	LM地区	K	211		○					○	甕	甕	N-44°-E	16	IV	650	50	—	
6	LM地区	K	212		○				○		壺	甕	N-74°-W	−3	III	650	50	—	
6	LM地区	K	213				○		○		鉢	甕	N-81°-E	0	IV	650	51	—	
6	LM地区	K	214		○				○		甕	甕	N-38°-E	7	IV	650	50	—	
6	LM地区	K	215	○					○		—	甕	N-65°-E	3	II	650	50	—	
6	LM地区	K	216		○					○	鉢	甕	N-43°-E	−5	II	650	51	—	
6	LM地区	K	217		○				○		鉢	甕	N-14°-W	4	III	650	51	—	
6	LM地区	K	218		○				○		鉢	甕	N-37°-E	5	IV	650	51	—	
6	LM地区	K	219		○				○		壺	甕	N-4°-W	7	IV	650	51	—	
6	LM地区	K	220		○				○		甕	甕	N-10°-W	6	III	650	52	—	
6	LM地区	K	221	○					○		—	甕	N-73°-E	15	II	650	51	—	
6	LM地区	K	222				○			○	壺	甕	N-18°-E	7	IV	650	52	—	

6次	区	甕 K / 木棺 M / 石棺他 I	登録番号	単棺	複棺 接口	覆口	呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	下棺	埋置方位	埋置角度	時期(型式)	報告書集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
6	LM地区	K	223		○			○			甕	甕	N-29°-E	4	IV	650	52	—	
6	LM地区	K	224	○					○		—	甕	N-43°-E	14	IV	650	52	—	
6	LM地区	K	225		○				○		鉢	甕	N-88°-W	7	III	650	52	—	
6	LM地区	K	226		○				○		甕	甕	N-42°-E	2	III	650	53	—	
6	LM地区	K	227		○					○	鉢	甕	N-45°-W	9	II	650	52	—	
6	LM地区	K	228		○				○		甕	甕	N-25°-W	7	III	650	53	—	
6	LM地区	K	229																欠番
6	LM地区	K	230		○				○		鉢	甕	N-69°-E	8	IV	650	53	—	
6	LM地区	K	231		○				○		鉢	甕	N-88°-W	2	III	650	53	—	
6	LM地区	K	232		○				○		鉢	甕	N-8°-E	1	III	650	54	—	
6	LM地区	K	233		○				○		甕	甕	N-7°-E	0	III	650	54	—	
6	LM地区	K	234					○			甕	甕	N-40°-W	6	III	650	53	—	
6	LM地区	K	235		○					○	甕	甕	N-30°-E	8	II	650	52	—	
6	LM地区	K	236			○				○	甕	甕	N-70°-E	28	III	650	53	—	
6	LM地区	K	237		○				○		甕	甕	N-18°-W	2	II	650	54	—	
6	LM地区	K	238		○				○		蓋	甕	N-35°-E	4	III	650	55	—	
6	LM地区	K	239		○				○		鉢	甕	N-15°-E	22	III	650	54	—	
6	LM地区	K	240		○				○		鉢	甕	N-89°-W	12	III	650	55	—	
6	LM地区	K	241																欠番
6	LM地区	K	242		○			—	—	—	鉢	甕	N-S	—	II	650	54	—	
6	LM地区	K	243		○			○			甕甕	甕	N-66°-E	—	IV	650	54	—	3連棺
6	LM地区	K	244				○	○			甕	甕	N-62°-E	2	II	650	55	—	
6	LM地区	K	245		○				○		鉢	甕	N-47°-E	2	III	650	55	—	
6	LM地区	K	246		○				○		甕	甕	N-27°-E	5	III	650	56	—	
6	LM地区	K	247		○				○		鉢	甕	N-53°-E	2	II	650	55	—	
6	LM地区	K	248				○			○	鉢	蓋	N-63°-E	32	III	650	55	—	
6	LM地区	K	249	○					○		—	甕	N-75°-E	−3	II	650	56	—	
6	LM地区	K	250				○		○		甕	甕	N-62°-E	0	II	650	56	—	
6	LM地区	K	251	○					○		—	甕	N-16°-E	—	IV	650	56	—	
6	LM地区	K	252		○				○		蓋	甕	N-36°-W	17	IV	650	56	—	
6	LM地区	K	253	○					○		—	甕	N-25°-E	17	IV	650	56	—	
6	LM地区	K	254			○				○	蓋	蓋	N-60°-E	−1	II	650	57	—	
6	LM地区	K	255	○						○	—	甕	N-70°-E	26	IV	650	54	—	
6	LM地区	K	256		○				○		甕	甕	N-17°-E	3	III	650	57	—	
6	LM地区	K	257		○				○		鉢	甕	N-29°-W	1	IV	650	57	—	
6	LM地区	K	258		○			—	—	—	甕	甕	N-7°-W	—	—	650	57	—	
6	LM地区	K	259		○				○		鉢	甕	N-7°-W	—	IV	650	57	—	
6	LM地区	K	260	○					○		—	甕	N-28°-E	—	III	650	57	—	
6	LM地区	K	261	○				—	—	—	—	甕	N-38°-E	—	III	650	57	—	
6	LM地区	K	262		○			○			甕	甕	N-63°-E	3	II	650	58	—	
6	LM地区	K	263																欠番
6	LM地区	K	264																欠番
6	LM地区	K	265																欠番
6	LM地区	K	266			○				○	甕	甕	N-76°-E	17	II	650	54	—	
6	LM地区	K	267			○		—	—	—	蓋	甕	N-65°-E	−9	III	650	—	—	
6	LM地区	K	268	○				—	—	—	—	蓋	N-68°-W	—	II	650	54	—	
6	LM地区	K	269					—	—	—	—	甕	-	45	—	650	54	—	土師器
6	LM地区	K	270	○				—	—	—	—	甕	N-24°-W	—	III	650	35	—	
6	LM地区	I	03		○			—	—	—	甕	蓋	N-3°-E	—	IV	650	60	—	土坑墓
6	LM地区	I	03										—	—	V	650	59	—	石棺墓
6	LM地区	I	04										—	—	V	650	59	—	石棺墓
6	LM地区	I	05										—	—	V	650	59	—	石棺墓
6	LM地区	I	06										—	—	V	650	59	—	石棺墓
6	LM地区	I	07										—	—	V	650	60	—	石棺墓
6	LM地区	I	08										—	—	V	650	60	—	石棺墓
6	LM地区	I	09																欠番
6	LM地区	I	10										—	—	V	650	60	—	石棺墓
6	MN地区	K	03		○					○	蓋	甕		41	II	650	65	—	
6	MN地区	K	04		○					○	鉢	甕	N-75°-E	—	IV	650	65	—	
6	MN地区	K	05				○	—	—	—	鉢	甕	N-64°-E	—	II	580	73	74	
6	MN地区	K	06	○?						○	—	蓋	N-48°-E	62	II	650	65	—	
6	MN地区	K	07					—	—	—	—	—	N-90°-W	—	—	650	65	—	
6	MN地区	K	08	○				—	—	—	鉢	甕	N-70°-E	—	II	580	73	74	
6	MN地区	K	09	—	—	—	—	—	—	—	—	蓋?	N-58°-W	—	—	650	—	—	
6	MN地区	K	10		○					○	蓋	甕	N-66°-E	15	II	650	65	—	
6	MN地区	K	11	—	—	—	—	—	—	—	—	甕	N-3°-E	—	—	650	65	—	
6	MN地区	K	12	—	—	—	—	—	—	—	—	甕	N-80°-E	—	II	650	65	—	
6	MN地区	K	13		○					○	甕	甕	N-84°-E	—	II	650	65	—	
6	MN地区	K	14				○			○	甕	甕	N-75°-E	10	IV	650	65	—	
6	MN地区	K	15		○			—	—	—	甕	甕	N-48°-E	—	II	650	65	—	
6	MN地区	K	16		○					○	甕	甕	N-76°-W	—	II	650	65	—	
6	MN地区	K	17		○					○	甕	甕	N-74°-E	—	II	650	65	—	
6	MN地区	K	18	○						○	—	甕	N-67°-E	—	II	650	65	—	
6	MN地区	K	19	○						○	—	甕	N-62°-E	—	II	650	65	—	
6	MN地区	K	20		○				○		甕	甕	N-83°-E	—	II	650	65	—	
6	MN地区	K	21		○				○		甕	甕	N-66°-E	—	III	650	65	—	
6	MN地区	K	22		○				○		鉢	甕	N-18°-E	17	III	650	66	—	
6	MN地区	K	23	○				○			—	甕	N-65°-E	—	II	650	66	—	
6	MN地区	K	24	—	—	—	—		○		甕甕	甕	N-69°-W	8	III	650	66	—	3連棺
6	MN地区	K	25		○		○	—	—	—	甕	甕	N-69°-E	—	III	650	66	—	
6	MN地区	K	26	○					○		—	甕	N-69°-E	9	III	650	66	—	
6	MN地区	K	27		○				○		甕	甕	N-66°-E	18	III	650	66	—	
6	MN地区	K	28	○?				—	—	—	—	甕	N-60°-E	—	II	650	66	—	
6	MN地区	K	29		○				○		鉢	甕	N-74°-E	—	II	650	66	—	
6	MN地区	K	30		○					○	鉢	甕	N-61°-W	—	II	650	66	—	
6	MN地区	K	31		○					○	甕	甕	N-69°-E	15	II	650	66	—	
6	MN地区	K	32	○						○	—	甕	N-71°-E	—	II	650	66	—	
6	MN地区	K	33		○			○			鉢	甕	N-65°-E	—	II	650	66	—	
6	MN地区	K	34	○						○	—	甕	N-89°-E	0	II	650	66	—	
6	MN地区	K	35	○?				—	—	—	—	蓋	N-63°-E	—	—	650	67	—	
6	MN地区	K	36																欠番
6	MN地区	K	37		○					○	甕	蓋	N-80°-E	4	II	650	67	—	

6次	区	甕 K / 木棺 M / 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	複棺 覆口	複棺 呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	組み合せ 下棺	埋置方位	埋置角度	時期(型式)	報告書集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
6	MN地区	K	38																欠番
6	MN地区	K	39		○					○	甕	甕	N-21°-W	13	II	650	67	—	
6	MN地区	K	40		○					○	甕	甕	N-87°-E	4	II	650	67	—	
6	MN地区	K	41	○?				—	—	—	—	甕	N-64°-E	—	III	650	67	—	
6	MN地区	K	42		○					○	甕	甕	N-76°-E	10	II	650	67	—	
6	MN地区	K	43				○	—	—	—	甕	甕	N-67°-E	—	III	650	67	—	
6	MN地区	K	44		○			○			甕	甕	N-56°-E	—	III	650	67	—	
6	MN地区	K	45	○						○	—	甕	N-22°-E	2	II	650	67	—	
6	MN地区	K	46		○				○		甕甕	甕	N-58°-E	—	III	650	67	—	3連棺
6	MN地区	K	47	○				—	—	—	—	甕	N-85°-E	—	III	650	67	—	
6	MN地区	K	48	○?						○	—	甕	N-83°-E	—	III	650	67	—	
6	MN地区	K	51																欠番
6	MN地区	K	52			○				○	[illegible]	甕	N-77°-E	—	IV	650	68	—	
6	MN地区	K	53		○					○	甕	甕	N-90°-E	—	IV	650	68	—	
6	MN地区	K	54	○				—	—	—	—	甕	N-62°-E	—	II	650	68	—	
6	MN地区	K	55				○			○	甕	甕	N-12°-W	25	II	650	68	—	
6	MN地区	K	56		○				○		鉢	甕	N-73°-E	4	III	650	68	69	
6	MN地区	K	57		○			○			鉢	甕	N-76°-E	—	II	650	68	—	
6	MN地区	K	58		○					○	壷	甕	N-43°-E	—	IV	650	68	—	
6	MN地区	K	59		○					○	甕	甕	N-55°-W	6	IV	650	68	—	
6	MN地区	K	60								—	甕							欠番
6	MN地区	K	61								—	甕							欠番
6	MN地区	K	62								—	甕							欠番
6	MN地区	K	63		○					○	鉢	甕	N-50°-E	—	III	650	68	—	
6	MN地区	K	64		○				○		鉢	甕	N-80°-E	0	III	650	68	—	
6	MN地区	K	65		○					○	甕	甕	N-54°-E	14	III	650	68	—	
6	MN地区	K	66	○				—	—	—	—	甕	N-62°-E	—	II	650	68	—	
6	MN地区	K	67				○	○			壷	甕	N-54°-E	13	II	650	68	—	
6	MN地区	K	68		○					○	甕	甕	N-51°-E	12	II	650	70	—	
6	MN地区	K	69		○				○		鉢	甕	N-62°-E	3	II	650	70	—	
6	MN地区	K	70		○					○	甕	甕	N-70°-E	—	II	650	70	—	
6	MN地区	K	71	○					○		—	甕	N-55°-E	2	III	650	70	—	
6	MN地区	K	72		○				○		甕	甕	N-57°-E	0	III	650	70	69	
6	MN地区	K	73		○					○	高杯	甕	N-71°-W	—	II	650	70	—	
6	MN地区	K	74		○				○		甕	甕	N-70°-E	7	II	650	70	—	
6	MN地区	K	75	○?				—	—	—	—	甕	N-70°-E	—	II	650	70	—	
6	MN地区	K	76		○					○	鉢	甕	N-18°-E	7	II	650	70	—	
6	MN地区	K	77		○			—	—	—	鉢	甕	N-72°-E	—	II	650	70	—	
6	MN地区	K	78	○?				—	—	—	—	壷?	N-18°-E	—	II	650	70	—	
6	MN地区	K	79		○				○		鉢	甕	N-90°-E	6	—	650	70	—	
6	MN地区	K	80		○				○		甕	甕	N-70°-E	5	III	650	71	—	
6	MN地区	K	81		○				○		鉢	甕	N-78°-E	2	III	650	71	—	
6	MN地区	K	82		○					○	甕	甕	N-36°-E	2	III	650	71	—	
6	MN地区	K	83	○?				—	—	—	—	?	N-59°-E	—	II	650	71	—	
6	MN地区	K	84																欠番
6	MN地区	K	85	○						○	—	甕	N-59°-E	22	IV	650	71	—	
6	MN地区	K	86			○		—	—	—	壷	壷	N-82°-E	46	II	650	71	—	
6	MN地区	K	87		○					○	甕	甕	N-82°-E	−3	II	650	71	—	
6	MN地区	K	88		○					○	甕	甕	N-83°-E	7	II	650	71	—	
6	MN地区	K	89		○					○	鉢	甕	N-43°-E	−7	II	650	71	—	
6	MN地区	K	90				○			○	甕	甕	N-55°-E	30	II	650	71	—	
6	MN地区	K	91		○			○			甕	甕	N-76°-E	9	II	650	71	—	
6	MN地区	K	92		○					○	甕	甕	N-67°-E	—	II	650	71	—	
6	MN地区	K	93		○					○	鉢	甕	N-66°-E	18	II	650	71	—	
6	MN地区	K	94		○				○		鉢	甕	N-19°-W	—	III	650	71	—	
6	MN地区	K	95				○		○		甕	甕	N-35°-E	−2	IV	650	72	—	
6	MN地区	K	96		○				○		鉢	甕	N-59°-E	0	III	650	72	—	
6	MN地区	K	97	○?				—	—	—	—	—	N-73°-W	—	—	650	72	—	
6	MN地区	K	98	○?				—	—	—	—	甕	N-38°-W	—	III	650	72	—	
6	MN地区	K	99	○?				—	—	—	—	甕?	N-69°-W	—	—	650	72	—	祭祀土坑か
6	MN地区	K	100		○				○		鉢	甕	N-66°-E	5	III	650	72	—	
6	MN地区	K	101		○					○	甕	甕	N-57°-W	−5	II	650	72	—	
6	MN地区	K	102			○		○			甕	甕	N-61°-E	1	II	650	72	—	
6	MN地区	K	103		○					○	甕	甕	N-56°-E	5	II	650	72	—	
6	MN地区	K	104	○				—	—	—	—	甕	N-80°-W	0	IV	650	72	73・74	供献土器あり
6	MN地区	K	105		○				○		鉢	甕	N-19°-E	7	III	650	75	—	
6	MN地区	K	106	○?				—	—	—	—	壷	N-79°-E	—	IV	650	75	—	祭祀土器
6	MN地区	K	107		○					○	甕	甕	N-53°-W	6	III	650	75	—	
6	MN地区	K	108				○		○		甕	甕	N-61°-E	14	III	650	75	—	
6	MN地区	K	109			○				○	甕	甕	N-50°-E	7	II	650	75	—	
6	MN地区	K	110		○					○	甕	甕	N-2°-W	3	III	650	75	—	
6	MN地区	K	111		○				○		鉢	甕	N-65°-W	—	IV	650	75	—	
6	MN地区	K	112		○			○			甕	甕	N-56°-W	—	III	650	75	—	
6	MN地区	K	113		○				○		鉢	甕	N-80°-E	12	III	650	75	—	
6	MN地区	K	114		○				○		鉢	甕	N-70°-W	0	III	650	75	—	
6	MN地区	K	115		○				○		鉢	甕	N-66°-W	25	IV	650	76	—	
6	MN地区	K	116		○					○	鉢	甕	N-75°-E	—	II	650	76	—	
6	MN地区	K	117				○	○			甕	甕	N-73°-W	5	II	650	76	—	
6	MN地区	K	118		○				○		鉢	甕	N-60°-E	—	III	650	76	—	
6	MN地区	K	119	○						○	—	甕	N-33°-W	7	III	650	76	—	
6	MN地区	K	120	○?					○		—	甕	N-62°-E	—	III	650	76	—	
6	MN地区	K	121		○				○		鉢	甕	N-70°-E	—	III	650	76	—	
6	MN地区	K	122		○				○		鉢	甕	N-7°-W	4	III	650	76	—	
6	MN地区	K	123		○					○	甕	甕	N-64°-E	3	III	650	76	—	
6	MN地区	K	124				○?				甕	甕	N-38°-E	—	III	650	76	—	
6	MN地区	K	125		○				○		鉢	甕	N-61°-W	4	III	650	76	—	
6	MN地区	K	126	○					○		—	甕	N-50°-W	20	IV	650	77	—	
6	MN地区	K	127		○					○	甕	甕	N-78°-E	—	III	650	77	—	
6	MN地区	K	128	○						○	—	甕	N-38°-W	—	II	650	77	—	
6	MN地区	K	129		○					○	甕	甕	N-7°-W	—	III	650	77	—	
6	MN地区	K	130		○				○		—	甕	N-84°-E	14	III	650	77	—	
6	MN地区	K	131	○				—	—	—	—	甕	N-49°-E	—	—	650	77	78	祭祀土坑

6次	区	甕 K 木棺 M 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	履口	呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	下棺	埋置方位	埋置角度	時期 (型式)	報告書 集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
6	MN地区	K	132	○					○		—	甕	N-84°-E	0	Ⅳ	650	77	—	
6	MN地区	K	133	○							—	甕	N-43°-W	—	Ⅳ	650	77	—	
6	MN地区	K	134	○					○		—	甕	N-46°-E	—	Ⅳ	650	77	—	
6	MN地区	K	135	—	—	—	—	—	—	—	—	甕				650	—	—	土師器
6	MN地区	K	136	—	—	—	—	—	—	—	—	甕				650	—	—	土師器
6	MN地区	K	137	○						○	—	甕	N-60°-W	—	—	650	77	—	
6	MN地区	K	138	—	—	—	—	—	—	—	—	甕				650	—	—	土師器
6	MN地区	K	139	—	—	—	—	—	—	—	—	甕				650	—	—	土師器
6	MN地区	K	140		○				○		甕	甕	N-73°-E	—	Ⅱ	650	79	80	
6	MN地区	K	141	○				—	—	—	—	甕	N-73°-E	0	—	650	79	—	
6	MN地区	K	142	○						○	—	甕	N-48°-E	—	Ⅱ	650	79	—	
6	MN地区	K	143		○					○	甕	甕	—	—	Ⅳ	650	79	—	
6	MN地区	K	144				○		○		甕	甕	N-85°-W	2	Ⅲ	650	79	—	
6	MN地区	K	145		○				○		—	甕	N-23°-W	23	Ⅳ	650	79	—	
6	MN地区	K	146		○					○	甕	甕	N-72°-E	3	Ⅴ	650	79	80	
6	MN地区	K	147		○				○		甕	甕	N-59°-E	0	Ⅲ	650	79	—	
6	MN地区	K	148	○						○	—	甕	N-40°-E	—	Ⅱ	650	79	—	
6	MN地区	K	149		○					○	甕	甕	N-86°-E	−5	Ⅱ	650	79	—	丹塗研磨

7次	甕 K 木棺 M 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	履口	呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	下棺	埋置方位	埋置角度	時期 (型式)	報告書 集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
7	K	01		○					○	壷	甕	N-8°-W	0	Ⅲ	187	6	7	
7	K	02		○					○	鉢	甕	N-62°-E	2	Ⅲ	187	6	7	
7	K	03				○	○			甕	壷	S-79°-W	—	Ⅳ	187	55	56	
7	K	04	—	—	—	—	○			—	甕	N-8°-W	35	—	187	55	—	
7	K	05				○			○	甕	甕	N-59°-E	32	Ⅳ	187	8	9	
7	K	06			○			○		甕甕	甕	S-58°-E	5	Ⅳ	187	8	9	3連棺
7	K	07			○		○			甕	甕	N-47°-W	5	Ⅳ	187	55	56	
7	K	08		○					○	鉢	甕	S-26°-E	0	Ⅳ	187	10	11	
7	K	09				○	○			甕	甕	S-60°-W	10	Ⅳ	187	57	58	
7	K	10	—	—	—	—	—	—	—	—	甕	N-9°-W	—	Ⅳ	187	55	56	
7	K	11		○?			○			壷	甕	S-14°-W	3	Ⅳ	187	57	58	
7	K	12	○						○	—	甕	N-75°-E	5	Ⅳ	187	10	11	
7	K	13		○				○		甕	甕?	S-63°-E	7	Ⅳ	187	12	13	
7	K	14	—	—	—	—	—	—	—	甕	甕	N-9°-E	—	Ⅲ	187	57	58	
7	K	15	○						○	—	甕	S-87°-E	4	Ⅲ	187	12	13	
7	K	16		○					○	鉢	甕	N-4°-W	0	Ⅲ	187	14	15	
7	K	17	—	—	—	—			○	鉢	甕	N-89°-E	4	Ⅲ	187	14	15	
7	K	18	○						○	—	甕	N-77°-E	0	Ⅲ	187	16	17	
7	K	19		○					○	鉢	甕	N-63°-E	0	Ⅲ	187	16	17	
7	K	20	—	—	—	—			○	—	甕	S-33°-E	37	Ⅲ	187	16	18	
7	K	21		○				○		—	甕	N-75°-E	2	Ⅲ	187	16	18	
7	K	22					○			—	甕	N-77°-E	2	Ⅲ	187	59	60	
7	K	23		○					○	—	甕	N-35°-E	15	Ⅳ	187	19	20	
7	K	24					○			—	壷	N-67°-E	−2	Ⅳ	187	59	60	
7	K	25		○					○	甕	甕	N-62°-E	9	Ⅳ	187	19	20	
7	K	26		○					○	甕	甕	N-82°-E	7	Ⅳ	187	21	22	
7	K	27			○		○			壷	壷	N-72°-E	24	Ⅲ	187	61	62	
7	K	28	○						○	—	甕	N-53°-E	15	Ⅳ	187	21	22	
7	K	29	○						○	—	甕	S-81°-E	5	Ⅳ	187	23	24	
7	K	30	○						○	—	甕	N-59°-E	12	Ⅳ	187	23	24	
7	K	31	—	—	—	—	—	—	—	—	壷	S-87°-W	—	Ⅳ	187	61	62	
7	K	32	○						○	—	甕	S-11°-W	—	Ⅳ	187	25	26	
7	K	33	○						○	—	甕	S-59°-W	5	Ⅳ	187	25	27	
7	K	34	○?						○	—	甕	N-35°-W	—	—	187	25	—	
7	K	35		○					○	甕甕	甕	N-65°-W	14	Ⅳ	187	25	27	3連棺
7	K	36	—	—	—	—		○		—	甕	S-63°-E	−9	Ⅳ	187	28	29	
7	K	37		○				○		甕	甕	S-62°-E	12	Ⅳ	187	28	29	
7	K	38			○		○			壷	壷	E-W	0	Ⅳ	187	61	62	
7	K	39				○	○			壷	甕	N-78°-W	13	Ⅳ	187	61	62	
7	K	40	○?						○	—	甕	S-11°-E	−10	Ⅲ	187	30	31	
7	K	41	○?					○		—	甕	S-36°-E	42	Ⅳ	187	30	31	
7	K	42		○					○	甕	甕	N-39°-E	7	Ⅳ	187	32	33	
7	K	43		○				○		甕	甕	N-25°-E	37	Ⅳ	187	32	33	
7	K	44		○					○	鉢	甕	N-70°-E	9	Ⅲ	187	34	35	
7	K	45	—	—	—	—	—	—	—	壷?	甕	S-36°-E	—	—	187	63	—	
7	K	46				○			○	壷	甕	S-25°-E	4	Ⅲ	187	34	35	
7	K	47		○					○	壷	甕	S-9°-E	2	Ⅲ	187	36	37	
7	K	48		○					○	壷	甕	S-65°-W	7	Ⅲ	187	36	37	
7	K	49		○					○	壷	甕	S-45°-W	4	Ⅲ	187	38	39	
7	K	50		○?			○			壷	甕	N-22°-E	—	Ⅲ	187	63	64	
7	K	51	○						○	—	甕	N-23°-W	9	Ⅲ	187	38	39	
7	K	52		○			○			甕	甕	N-44°-E	6	Ⅲ	187	63	64	
7	K	53		○					○	甕	甕	N-5°-W	4	Ⅳ	187	40	41	
7	K	54		○					○	鉢	甕	S-38°-W	4	Ⅲ	187	40	41	
7	K	55		○			—	—	—	甕	甕	N-76°-E	—	Ⅳ	187	42	43	
7	K	56		○					○	鉢	甕	S-87°-E	3	Ⅲ	187	42	44	
7	K	57				○			○	鉢	甕	S-53°-W	5	Ⅲ	187	42	43	
7	K	58	○						○	—	甕	N-73°-W	3	Ⅳ	187	45	46	
7	K	59					○			—	甕	N-13°-W	33	Ⅳ	187	65	66	
7	K	60		○					○	甕	甕	N-48°-E	2	Ⅲ	187	45	46	
7	K	61		○			○			甕	甕	N-6°-W	7	Ⅳ	187	65	66	
7	K	62		○				○		甕	甕	N-44°-E	−4	Ⅳ	187	47	48	
7	K	63	○						○	—	甕	N-74°-W	27	Ⅳ	187	47	48	
7	K	64		○				○		壷壷	甕	N-11°-W	19	Ⅳ	187	49	50	3連棺
7	K	65	—	—	—	—	○			—	壷	N-61°-E	39	Ⅳ	187	65	66	
7	K	66	—	—	—	—	○			—	甕	S-52°-E	16	Ⅳ	187	65	66	
7	K	67	—	—	—	—	○			—	甕	S-83°-W	25	Ⅲ	187	65	66	
7	K	68				○			○	甕	甕	S-74°-E	4	Ⅳ	187	49	50	
7	K	69		○			○			甕	甕	N-81°-E	5	Ⅳ	187	67	68	
7	K	70	○						○	—	甕	N-47°-E	12	Ⅳ	187	51	52	

7次	区	甕 K 木棺 M 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	複棺 覆口	複棺 呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	組み合せ 下棺	埋置方位	埋置角度	時期 (型式)	報告書 集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
	7	K	71		○?			○			甕	甕	N-43°-E	—	IV	187	67	—	
	7	K	72																欠番
	7	K	73		○				○		壷甕	甕	S-87°-W	1	IV	187	51	52	3連棺
	7	K	74		○			—	—	—	鉢	甕	N-35°-W	0	IV	187	53	54	
	7	K	75	○?				○			—	壷	N-88°-W	0	IV	187	67	68	
	7	K	76	○						○	—	甕	S-69°-W	30	IV	187	53	54	
	7	K	77				○	○			壷	甕	N-50°-E	11	IV	187	67	68	

9次	区	甕 K 木棺 M 石棺他 I	登録番号	型式 単棺	複棺 接口	複棺 覆口	複棺 呑口	甕サイズ(cm) ~59 S	M	80~ L	組み合せ 上棺	組み合せ 下棺	埋置方位	埋置角度	時期 (型式)	報告書 集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
9	大石地区	K	01				○			○	甕	甕	N-32°-E	28	II	461	115・116	117~119	青銅武器
9	大石地区	K	02			○			○		甕	甕	N-43°-E	40	I	580	81	—	
9	大石地区	K	03		○					○	甕	甕	N-58°-E	25	II	650	122	—	
9	大石地区	K	04					—	—	—	—	甕	N-66°-E	—	I	580	81	—	
9	大石地区	K	05		○					○	鉢	甕	N-42°-E	0	II	650	122	—	
9	大石地区	K	06	○				○			—	甕	N-44°-E	54	I	580	81	—	
9	大石地区	K	07		○			—	—	—	鉢	甕	N-25°-E	0	—	650	122	—	
9	大石地区	K	08		○					○	鉢	甕	N-44°-E	0	III	650	123	—	
9	大石地区	K	09		○					○	甕	甕	N-40°-E	20	II	650	123	—	
9	大石地区	K	10	○						○	—	甕	N-45°-E	30	II	461	120・121	122~125	磨製石器
9	大石地区	K	11		○			—	—	—	壷	甕	N-18°-E	0	III	650	123	—	
9	大石地区	K	12	○				—	—	—	—	甕	N-16°-E	0	—	650	123	—	
9	大石地区	K	13	○				○			—	壷	N-87°-E	?	—	650	123	—	
9	大石地区	K	14				○		○		甕	甕	N-53°-E	30	I	580	81	—	
9	大石地区	K	15	○					○		—	甕	N-55°-E	45	I	580	81	—	
9	大石地区	K	16	○						○	鉢	甕	N-65°-E	0	III	650	124	—	
9	大石地区	K	17				○		○		甕	甕	N-66°-W	—	I	580	81	—	
9	大石地区	K	18		○				○		甕	甕	N-49°-E	—	II	580	82	83	
9	大石地区	K	19		○				○		甕	甕	N-67°-E	0	—	650	124	—	
9	大石地区	K	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	N-20°-E	—	—	650	124	—	
9	大石地区	K	21	○						○	—	甕	N-73°-E	0	III	650	124	—	
9	大石地区	K	22	○				—	—	—	甕	—	N-41°-E	0	—	650	124	—	
9	大石地区	K	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	N-43°-E	—	—	650	124	—	
9	大石地区	K	24				○		○		壷	甕	N-30°-E	—	III~IV	650	125	—	
9	大石地区	K	25		○				○		甕	甕	N-28°-E	30	I	580	82	—	
9	大石地区	K	26			○			○		鉢	甕	N-24°-E	60	I	580	82	—	
9	大石地区	K	27	○				○			—	甕	N-61°-E	50	I	580	82	—	
9	大石地区	K	28				○	○			鉢	壷	N-46°-E	0	IV	650	125	—	
9	大石地区	K	29	○				○			—	壷	N-54°-E	0	III~IV	650	125	—	
9	大石地区	K	30	○						○	—	甕	N-15°-E	0	III	650	125	—	
9	大石地区	K	31		○			○			壷	甕	N-48°-E	0	IV	650	125	—	
9	大石地区	K	32		○			○			甕	甕	N-2°-W	—	III~IV	650	125	—	
9	大石地区	K	33	○				○			—	壷	N-81°-E	—	III~IV	650	126	—	
9	大石地区	K	34		○					○	甕	甕	N-6°-E	0	IV	650	126	—	
9	大石地区	K	35		○					○	甕	甕	N-30°-E	45	II	580	84	85	
9	大石地区	K	36				○			○	甕	甕	N-49°-E	—	III	650	126	—	
9	大石地区	K	37		○					○	甕	甕	N-42°-E	0	IV	600	69	70	
9	大石地区	K	38				○			○	甕	甕	N-19°-W	—	IV	600	71	73	
9	大石地区	K	39		○			○			甕	甕	N-50°-W	—	III~IV	650	126	—	
9	大石地区	K	40		○			○			甕	甕	N-46°-E	—	III~IV	650	126	—	
9	大石地区	K	41		○					○	鉢	甕	N-39°-E	0	III	600	74	75	
9	大石地区	K	42		○					○	甕	甕	N-52°-W	0	II	600	76	77	
9	大石地区	K	43		○				○		甕	甕	N-30°-E	38	I	580	84	—	
9	大石地区	K	44		○					○	甕	甕	N-30°-E	10	II	650	127	—	
9	大石地区	K	45		○					○	甕	甕	N-56°-E	0	II	461	126~129	130~135	青銅武器
9	大石地区	K	46		○					○	甕	甕	N-50°-E	—	I	580	86	—	
9	大石地区	K	47			○			○		甕	甕	N-32°-E	30	I	580	86	—	
9	大石地区	K	48	—	—	—	—		○		—	甕	N-10°-E	—	—	650	127	—	
9	大石地区	K	49		○				○		鉢	甕	N-15°-E	0	III	650	127	—	
9	大石地区	K	50		○				○		甕	甕	N-68°-E	35	II	580	86	87	
9	大石地区	K	51		○					○	甕	甕	N-47°-E	20	I	461	136~138	139~144	青銅武器・管玉
9	大石地区	K	52	○					○		—	甕	N-77°-E	—	I	580	88	—	
9	大石地区	K	53		○					○	甕	甕	N-78°-E	12	II	461	145~148	149~154	青銅武器・石剣切先
9	大石地区	K	54		○				○		甕	甕	N-59°-E	0	II	650	127	—	
9	大石地区	K	55	—	—	—	—	○			—	—	N-60°-E	—	II?	650	127	—	
9	大石地区	K	56		○				○		甕	甕	N-67°-E	40	II	580	88	89	
9	大石地区	K	57	○					○		—	甕	N-37°-E	—	—	650	128	—	
9	大石地区	K	58			○		○			甕	甕	N-71°-E	—	IV	650	128	—	
9	大石地区	K	59	○						○	—	甕	N-61°-E	0	II	600	78	79	
9	大石地区	K	60		○					○	甕	甕	N-73°-E	20	I	461	155・156	157~160	石剣切先
9	大石地区	K	61		○					○	鉢	甕	N-10°-E	0	III	650	128	—	
9	大石地区	K	62				○		○		甕	甕	N-49°-E	35	I	580	90	—	
9	大石地区	K	63	○						○	—	甕	N-25°-W	—	—	650	128	—	
9	大石地区	K	64	○					○		—	甕	N-80°-E	30	I	580	90	—	
9	大石地区	K	65				○		○		甕	甕	N-82°-E	25	I	580	90	—	
9	大石地区	K	66	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	650	128	—	
9	大石地区	K	67		○					○	甕	甕	N-58°-E	25	I	461	161~163	164~168	青銅武器
9	大石地区	K	68	○					○		—	甕	N-40°-E	35	I	580	90	—	
9	大石地区	K	69		○					○	甕	甕	N-60°-E	—	II	650	129	—	
9	大石地区	K	70	○						○	—	甕	N-71°-E	30	I	461	169・170	171~175	青銅武器
9	大石地区	K	71	○						○	—	甕	N-74°-E	—	II	461	176・177	178~181	把頭飾
9	大石地区	K	72		○					○	甕	甕	N-45°-E	—	II	650	129	—	
9	大石地区	K	73				○		○		壷	甕	N-62°-E	15	II	580	91	92	
9	大石地区	K	74			○			○		甕	甕	N-25°-W	25	I	580	91	—	
9	大石地区	K	75	—	—	—	—	—	—	—	—	—	N-56°-E	—	—	650	129	—	
9	大石地区	K	76	?				○			—	甕	N-83°-E	30	I	580	91	—	
9	大石地区	K	77		○					○	甕	甕	N-7°-E	25	II	580	93	94	
9	大石地区	K	78		○?					○	甕	甕	N-40°-E	—	II	650	129	—	
9	大石地区	K	79	—	—	—	—	—	—	—	—	—	N-29°-E	—	—	650	129	—	
9	大石地区	K	80				○			○	甕	甕	N-28°-W	0	III	650	130	131	上甕に無文土器の影響あり
9	大石地区	K	81				○			○	甕	甕	N-65°-E	25	II	461	182・183	184~188	

9次	区	甕 K 木棺 M 石棺他 I	登録番号	型式				甕サイズ(cm)			組み合せ		埋置方位	埋置角度	時期 (型式)	報告書 集	遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
				単棺	複棺 接口	複棺 覆口	複棺 呑口	~59 S	M	80~ L	上棺	下棺							
9	大石地区	K	82		○?					○	—	甕	N-65°-E	35	II	580	93	—	
9	大石地区	K	83		○					○	鉢	甕	N-85°-W	—	III	650	132	—	
9	大石地区	K	84		○?					○	甕	甕	N-66°-E	30	II	580	95	—	
9	大石地区	K	85	—	—	—	—	○			—	—	N-54°-W	—	II	650	132	—	
9	大石地区	K	86	?				—	—	—	—	甕?	N-68°-E	—	II	580	95	—	
9	大石地区	K	87	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				未実測
9	大石地区	K	88	—	—	—	—	○			—	—	N-55°-E	—	—	650	132	—	
9	大石地区	K	89		○				○		甕	甕	N-74°-E	20	II	580	95	—	
9	大石地区	K	90		○					○	甕	甕	N-54°-E	39	II	580	95	—	
9	大石地区	K	91		○						蓋	甕	N-71°-E	0	II	580	96	—	
9	大石地区	K	92	○					○		—	甕	N-72°-E	35	II	580	96	—	
9	大石地区	K	93				○	○			蓋	甕	N-64°-E	0	III~IV	650	132	—	
9	大石地区	K	94		○				○		甕	甕	N-36°-W	35	II	650	132	—	
9	大石地区	K	95				○		○		甕	甕	N-35°-E	0	II	650	132	—	
9	大石地区	K	96		○?					○	?	甕	N-46°-E	0	III	650	133	—	
9	大石地区	K	97		○					○	鉢	甕	N-57°-E	20	II	650	133	—	
9	大石地区	K	98		○					○	鉢	甕	N-60°-E	0	III	650	133	—	
9	大石地区	K	99		○			○			甕	甕	N-57°-E	0	III	650	133	—	
9	大石地区	K	100		○					○	鉢	甕	N-68°-E	0	III	650	134	—	
9	大石地区	K	101	○						○	—	甕	N-58°-E	0	II	650	134	—	
9	大石地区	K	102		○					○	鉢	甕	N-25°-W	0	III	650	134	—	
9	大石地区	K	103					○			—	甕	N-30°-E	20	III	650	135	—	
9	大石地区	K	104					○			—	甕	N-21°-W	0	III~IV	650	135	—	
9	大石地区	K	105		○					○	鉢	甕	N-29°-E	0	III	650	135	—	
9	大石地区	K	106		○				○		甕	甕	N-60°-E	0	III~IV	650	135	—	
9	大石地区	K	107		○			○			甕	甕	N-57°-E	6	III~IV	650	135	—	
9	大石地区	K	108		○?			○			甕?	甕	N-60°-W	0	III~IV	650	136	—	
9	大石地区	K	109		○			○			甕	甕	N-34°-W	0	III~IV	650	136	—	
9	大石地区	K	110	○?				○			—	甕	N-4°-E	29	III	650	136	—	
9	大石地区	K	111	○?					○		—	甕	N-82°-W	0	III	650	136	—	
9	大石地区	K	112		○			○			鉢?	甕	N-62°-E	14	III	650	136	—	
9	大石地区	K	113		○					○	鉢	甕	N-29°-E	5	III	600	81	82	
9	大石地区	K	114	○				○			—	甕	N-26°-W	16	IV	650	136	—	
9	大石地区	K	115		○					○	蓋	甕	N-76°-E	—	III	600	83	84	
9	大石地区	K	116		○			○			甕	甕	N-7°-E	—	III	650	137	—	
9	大石地区	K	117	○				○			—	甕	N-50°-E	0	—	650	137	—	
9	大石地区	K	118		○			○			甕	甕	N-45°-E	20	IV	650	137	—	
9	大石地区	K	119			○				○	鉢	甕	N-61°-W	17	III	600	85	86	
9	大石地区	K	120	○					○		—	甕	N-65°-W	—	III~IV	650	137	—	
9	大石地区	K	121	○				○			—	甕	N-10°-E	20	III	650	137	—	
9	大石地区	K	122		○			○			甕	甕	N-90°-W	0	III	650	137	—	
9	大石地区	K	123		○					○	鉢	甕	N-65°-W	7	III	650	138	—	
9	大石地区	K	124				○		○		甕	甕	N-20°-E	0	IV	650	138	—	
9	大石地区	K	125		○					○	鉢	甕	N-41°-E	0	III	600	87	88	
9	大石地区	K	126		○			○			甕	甕	N-9°-E	0	III~IV	650	138	—	上甕は2個体あり
9	大石地区	K	127		○					○	鉢	甕	N-23°-E	7	III	650	138	—	
9	大石地区	K	128		○			○			甕	甕	N-82°-E	2	III~IV	650	139	—	
9	大石地区	K	129			○		○			蓋	蓋	N-48°-W	59	III~IV	650	139	—	
9	大石地区	K	130		○				○		甕	甕	N-30°-E	40	II	580	96	97	
9	大石地区	K	131		○					○	甕	甕	N-65°-W	5	IV	650	139	—	
9	大石地区	K	132	○						○	—	甕	N-37°-E	0	IV	600	89	90	
9	大石地区	K	133				○	○			甕	甕	N-81°-E	30	II	580	98	—	
9	大石地区	K	134		○					○	鉢	甕	N-38°-W	0	III	600	92	93	
9	大石地区	K	135	—	—	—	—	—	—	—	—	甕?	N-72°-W	-	II	580	98	—	
9	大石地区	K	136	—	—	—	—	—	—	—	—	甕?	N-39°-E	-	II	580	98	—	
9	大石地区	K	137	—	—	—	—	○			—	甕	N-6°-W	15	II	580	98	—	
9	大石地区	K	138		○					○	甕	甕	—	0	II	650	139	—	
9	大石地区	K	139	—	—	—	—	—	—	—	—	甕	N-75°-E	—	—	650	140	—	
9	大石地区	K	140		○					○	甕	甕	N-37°-E	25	II	461	188~190	191~194	青銅武器
9	大石地区	K	141			○			○		甕	甕	N-50°-E	40	II	580	98	99	
9	大石地区	K	142				○			○	甕	甕	N-41°-E	35	II	580	100	101	
9	大石地区	K	143		○					○	甕	甕	N-51°-W	0	IV	650	140	—	
9	大石地区	K	144		○			○			甕	甕	N-37°-E	10	IV	650	140	—	
9	大石地区	K	145			○		○			甕	蓋	N-65°-W	18	III	650	140	—	
9	大石地区	K	146		○					○	鉢	甕	N-75°-E	0	III	600	94	95	
9	大石地区	K	147				○		○		鉢	甕	N-73°-W	10	III~IV	650	140	—	
9	大石地区	K	148				○		○		甕	甕	N-56°-E	30	II	600	96	97	
9	大石地区	K	149				○		○		甕	甕	N-14°-W	25	II	580	100	—	
9	大石地区	K	150		○				○		甕	甕	N-32°-W	25	II	580	102	—	
9	大石地区	K	151		○					○	鉢	甕	N-45°-E	14	III	600	98	99	
9	大石地区	K	152	○					○		—	甕	N-41°-E	0	IV	650	141	—	
9	大石地区	K	153	○				○			甕	—	N-20°-E	—	—	650	141	—	
9	大石地区	K	154		○				○		鉢	甕	N-24°-W	25	IV	600	100	101	
9	大石地区	K	155				○			○	甕	甕	N-58°-E	0	IV	650	141	—	
9	大石地区	K	156	○				—	—	—	—	甕	N-74°-E	—	—	650	141	—	
9	大石地区	K	157		○					○	鉢	甕	N-62°-E	18	IV	650	141	—	
9	大石地区	K	158		○			○			甕	甕	N-64°-E	0	IV	650	142	—	
9	大石地区	K	159			○		○			甕	蓋	N-19°-E	15	IV	650	142	—	
9	大石地区	K	160		○					○	甕	甕	N-81°-E	30	IV	650	142	—	3連棺か
9	大石地区	K	161	—	—	—	—		○		—	甕	N-32°-E	39	IV	650	142	—	
9	大石地区	K	162		○				○		甕	甕	N-15°-E	35	IV	600	103	104	
9	大石地区	K	163			○		○			甕?	蓋	N-52°-W	21	IV	650	142	—	
9	大石地区	K	164		○			○			甕	甕	N-52°-E	0	III~IV	650	142	—	
9	大石地区	K	165																欠番
9	大石地区	K	166		○				○		甕	甕	N-88°-E	25	II	580	102	—	
9	大石地区	K	167		○			○			甕	甕	N-45°-W	20	IV	650	143	—	
9	大石地区	K	168			○		○			甕	甕	N-23°-W	50	II	580	102	—	
9	大石地区	K	169				○			○	甕	甕	N-20°-W	0	IV	650	143	—	
9	大石地区	K	170		○					○	鉢	甕	N-10°-W	0	III	650	143	—	
9	大石地区	K	171		○				○		甕	甕	N-46°-W	30	II	580	104	103	
9	大石地区	K	172	—	—	—	—	○			—	甕	N-43°-E	50	I	580	104	105	
9	大石地区	K	173	○						○	—	甕	N-35°-E	15	IV	650	144	—	

9次	区	甕 K	登録番号	型式				甕サイズ(cm)			組み合せ		埋置方位	埋置角度	時期	報告書	遺構図	遺物図	備考
		木棺 M		単棺	複棺			~59		80~	上棺	下棺			(型式)	集	Fig	Fig	
		石棺他 I			接口	覆口	呑口	S	M	L									
9	大石地区	K	174		○			○			甕	壷	N-35°-E	0	III~IV	650	144	—	
9	大石地区	K	175		○				○		壷	甕	N-58°-W	12	IV	650	144	—	
9	大石地区	K	176			○		○			甕	甕	N-39°-E	11	IV	650	144	—	
9	大石地区	K	177	—	—	—	—	○			—	甕	N-15°-E	29	—	650	144	—	
9	大石地区	K	178			○				○	甕	甕	N-42°-E	26	IV	650	145	—	
9	大石地区	K	179		○					○	壷	甕	N-45°-E	0	III	650	145	—	
9	大石地区	K	180		○					○	壷	壷	N-10°-E	0	IV	600	105	106	
9	大石地区	K	181		○					○	甕	甕	N-10°-E	0	II	600	107	108	
9	大石地区	K	182		○					○	甕	甕	N-21°-E	30	II	650	145	—	
9	大石地区	K	183		○					○	甕	甕	N-60°-E	0	II	650	146	—	
9	大石地区	K	184		○			○			甕	壷	N-43°-E	0	III	650	146		
9	大石地区	K	186		○				○		甕	壷	N-56°-E	24	IV	600	112	113	
9	大石地区	K	187		○				○		甕	甕	N-70°-E	27	I	580	104	—	
9	大石地区	K	188	○						○	—	甕	N-5°-E	14	IV	600	114	115	
9	大石地区	K	189	○				○			—	甕	N-66°-E	0	IV	650	146	—	
9	大石地区	K	190			○				○	甕	甕	N-28°-E	0	III	650	146	—	
9	大石地区	K	191			○				○	鉢	甕	N-90°-E	24	III	650	147	—	
9	大石地区	K	192	○						○	—	甕	N-58°-E	0	IV	650	147	—	
9	大石地区	K	193		○			○			甕	甕	N-20°-W	0	III	650	147	—	
9	大石地区	K	194		○			—	—	—	壷	甕	N-20°-E	0	III~IV	650	148	—	
9	大石地区	K	195	○				○			—	甕	N-29°-E	0	IV	650	148	—	
9	大石地区	K	196				○	○			鉢	甕	N-25°-E	64	III~IV	650	148	—	
9	大石地区	K	197	—	—	—	—	○			—	壷	N-55°-W	43	III~IV	650	148	—	
9	大石地区	K	198	○				○			—	壷	N-28°-W	—	III~IV	650	148	—	
9	大石地区	K	199	○				—	—	—	—	甕	N-90°-E	—	—	650	148	—	
9	大石地区	K	200	○						○	—	甕	N-63°-E	0	III	650	149	—	
9	大石地区	K	201		○					○	鉢	甕	N-48°-W	0	III	650	149	—	
9	大石地区	K	202	○						○	—	甕	N-25°-E	0	III~IV	650	149	—	
9	大石地区	K	203		○				○		甕	甕	N-50°-E	27	I	580	104	—	
9	大石地区	M	1										N-57°-E		II	461	94	95~101	青銅武器は本報告
9	大石地区	M	2										N-70°-E		—	650	153	—	
9	大石地区	M	3										N-50°-E		—	650	153	—	
9	大石地区	M	4										N-43°-E		II	461	102	103~104	副葬小壷
9	大石地区	M	5										N-34°-W		II	461	105	109~110	青銅武器
9	大石地区	M	6										N-46°-W		II	461	111	114	副葬小壷
9	大石地区	M	7										N-77°-E		—	650	153	—	
9	大石地区	M	8										N-75°-E		—	650	153	—	
9	大石地区	I	1										N-40°-E		—	650	154	—	土壙墓
9	大石地区	I	2										N-82°-E		—	650	154	—	土壙墓
9	大石地区	I	3										N-90°-E		—	650	155	—	土壙墓
9	大石地区	I	4										N-69°-W		—	650	155	—	土壙墓
9	大石地区	I	5										N-63°-E		—	650	155	—	土壙墓
9	大石地区	I	6										N-9°-E		—	650	156	—	土壙墓
9	大石地区	I	7										N-19°-E		—	650	156	—	土壙墓
9	大石地区	I	8										N-9°-E		—	650	157	—	土壙墓
9	大石地区	I	9										N-88°-W		—	650	157	—	土壙墓
9	大石地区	I	10										N-82°-E		—	650	157	—	土壙墓
9	大石地区	I	11										N-40°-E		—	650	158	—	土壙墓
9	大石地区	I	12										N-58°-E		—	650	158	—	土壙墓
9	2号支線道路	K	1		○			○			鉢	甕	N-88°-W	25	IV	650	84	—	
9	2号支線道路	K	2		○					○	鉢	甕	N-56°-E	6	IV	650	84	—	
9	2号支線道路	K	3		○					○	甕	甕	N-67°-W	6	III	650	84	85	
9	2号支線道路	K	4		○			○			甕	甕	N-21°-E	18	IV	650	86	—	
9	2号支線道路	K	5		○					○	鉢	甕	N-85°-E	9	III	650	86	87	
9	2号支線道路	K	6		○				○		甕	甕	N-67°-E	3	III	650	88	89	
9	2号支線道路	K	7		○				○		甕	甕	N-59°-E	3	III	650	88	91	
9	2号支線道路	K	8	○						○	—	甕	N-87°-E	8	IV	650	90	91	
9	2号支線道路	K	9	○				○			—	壷	N-58°-E	4	IV	650	92	—	
9	2号支線道路	K	10		○					○	甕	甕	N-19°-E	1	III	650	92	93	
9	2号支線道路	K	11		○					○	鉢	甕	N-12°-E	11	IV	650	94	95	
9	2号支線道路	K	12	○				○			—	壷	N-58°-W	42	IV	650	94	—	
9	2号支線道路	K	13		○					○	鉢	甕	N-87°-W	2	III	650	96	97	
9	2号支線道路	K	14		○					○	甕	甕	N-72°-E	3	III	650	98	99	
9	2号支線道路	K	15	○						○	—	甕	N-82°-W	22	III	650	100	101	
9	2号支線道路	K	16		○				○		甕	甕	N-84°-E	1	III	650	102	103	
9	2号支線道路	K	17	○				○			—	甕	—	1	—	650	102	—	
9	2号支線道路	K	18		○			○			高杯	甕	N-9°-W	20	IV	650	104	105	
9	2号支線道路	K	19	○				—	—	—	—	甕	N-65°-E	5	—	650	104	—	
9	2号支線道路	K	20	○				○			—	甕	N-30°-E	11	—	650	104	—	
9	2号支線道路	K	21		○			○			甕	甕	N-52°-E	9	III	650	106	107	
9	2号支線道路	K	22		○			○			壷	甕	N-74°-E	5	III	650	106	107	
9	2号支線道路	K	23		○			—	—	—	—	甕	N-37°-E		—	650	106	—	
9	2号支線道路	K	24	○				○			—	甕	N-85°-E	19	—	650	106	—	
9	2号支線道路	K	25		○			○			鉢	甕	N-20°-E	4	III	650	108	109	
9	2号支線道路	K	26	○				○			—	甕	N-22°-E	7	IV	650	108	109	
9	2号支線道路	K	27		○			○			壷	壷	N-72°-E	1	IV	650	108	109	
9	2号支線道路	K	28		○					○	甕	甕	N-83°-W	4	IV	650	110	111・112	鉄剣・鏃
9	2号支線道路	K	29		○					○	甕	甕	N-86°-W	6	IV	650	113	114	
9	2号支線道路	K	30		○			—	—	—	—	—	—	—	—	650	119	120	祭祀遺構
9	2号支線道路	K	31		○					○	鉢	甕	N-74°-W	3	III	650	115	116	
9	2号支線道路	K	32		○			○			甕	甕	N-71°-E	10	IV	650	115	—	
9	2号支線道路	K	33			○				○	甕	甕	N-1°-E	4	IV	650	117	—	
9	2号支線道路	K	34	○					○		—	甕	N-16°-E	9	III	650	117	118	
9	2号支線道路	K	35		○			○			甕	甕	N-31°-E	1	III	650	117	—	
9	2号支線道路	K	36		○				○		甕	甕	N-74°-W	6	III	650	117	—	

弥生時代の生活遺構

吉武遺跡群の１次から９次にかけての生活遺構について、次数ごとの一覧を以下にしめす。一覧の目的は、これまで刊行された報告書のインデックスとして利用に供するためである。生活遺構は祭祀土坑（ＳＡ)、住居跡（ＳＣ)、井戸（ＳＥ)、土坑（ＳＫ)、性格不明遺構（ＳＸ)、掘建柱建物（ＳＢ)、溝（ＳＤ）に分類し、遺構の法量はＳＡからＳＸまでは長辺と短辺、ＳＢは桁と梁の間数、ＳＤは溝の最大幅を表示した。時期は墓地と同様Ⅰ～Ⅴ期の分類で、Tab. ３に相当する。

Tab. ５　弥生時代生活遺構一覧表

１次	区／地区	祭祀土坑 ＳＡ 住居 ＳＣ 井戸 ＳＥ 土坑 ＳＫ 不明遺構 ＳＸ 掘立柱建物 ＳＢ 溝 ＳＤ	遺構番号	長辺 桁 幅	短辺 梁 (m)	形状 断面形	整形	時期	報告書 集	全体遺構図 Fig	個別遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
1	1	ＳＢ	０１	2	1			Ⅱ～Ⅳ	437	9	10		
1	2	ＳＢ	０２	2	1			Ⅲ	437	9	11		
1	2	ＳＢ	０３	1	1			—	437	9	11		
1	2	ＳＢ	０４	1	1			Ⅱ～Ⅳ	437	9	11	52	
1	2	ＳＢ	０５	1	1			Ⅳ	437	9	12	52	
1	2	ＳＢ	０６	2	1			Ⅲ	437	9	12	52	
1	2	ＳＢ	０７	2	2			Ⅱ～Ⅳ	437	9	13	52	
1	2	ＳＢ	０８	2	1			Ⅳ	437	9	13		
1	2	ＳＢ	０９	3	2			Ⅳ	437	9	14	52	総柱建物
1	2	ＳＢ	１０	2	1			Ⅲ	437	9	15	52	
1	2	ＳＢ	１１	2	1			Ⅳ	437	9	15		
1	2	ＳＢ	１２	3	2			Ⅲ	437	9	16		
1	2	ＳＢ	１３	2	1			Ⅲ	437	9	16	52	
1	2	ＳＢ	１４	2	2			Ⅱ～Ⅳ	437	9	17	52	
1	2	ＳＢ	１５	2	1			Ⅳ	437	9	17		
1	2	ＳＢ	１６	4	2			Ⅴ	437	9	18	52	
1	2	ＳＢ	１７	2	1			Ⅲ	437	9	18	53	
1	2	ＳＢ	１８	2	1			Ⅳ	437	9	19		
1	2	ＳＢ	１９	3	2			Ⅱ	437	9	19	53	総柱建物
1	2	ＳＢ	２０	1	1			Ⅱ	437	9	20		
1	2	ＳＢ	２１	2	1			Ⅱ	437	9	20	53	
1	2	ＳＢ	２２	3	1			Ⅳ	437	9	21		
1	2	ＳＢ	２３	2	1			Ⅳ	437	9	21		
1	2	ＳＢ	２４	2	1			Ⅱ	437	9	21	53	
1	2	ＳＢ	２５	3	2			Ⅲ	437	9	22	53	総柱建物
1	2	ＳＢ	２６	3	1			Ⅲ	437	9	23		
1	2	ＳＢ	２７	1	1			Ⅳ	437	9	23		
1	2	ＳＢ	２８	2	2			Ⅴ	437	9	24	53	
1	2	ＳＢ	２９	1	1			Ⅴ	437	9	24		
1	2	ＳＢ	３０	1	1			Ⅴ	437	9	25	53	
1	2	ＳＢ	３１	2	2			Ⅴ	437	9	25	53	
1	2	ＳＢ	３２	2	1			Ⅴ	437	9	26		
1	2	ＳＢ	３３	1	1			Ⅴ	437	9	26		
1	2	ＳＢ	３４	3	2			Ⅴ	437	9	26		
1	4	ＳＢ	３５	3	1			Ⅰ	437	28	29		
1	4	ＳＢ	３６	1	1			Ⅰ	437	28	29		
1	4	ＳＢ	３７	1	1			Ⅰ	437	28	30		
1	4	ＳＢ	３８	2	1			Ⅰ	437	28	30		
1	4	ＳＢ	３９	2	1			Ⅰ	437	28	30		
1	4	ＳＢ	４０	2	1			Ⅱ～Ⅳ	437	28	31		
1	4	ＳＢ	４１	1	1			Ⅱ～Ⅳ	437	28	31		
1	2	ＳＣ	０１	—	—	円形		Ⅱ	514	6・7・17			
1	2	ＳＣ	０２	3.0＋α	2.40	不明		Ⅱ	514	6・7・17	8		
1	2	ＳＣ	０３	—	—			Ⅱ					
1	2	ＳＣ	０４	—	—	不明		Ⅰ	514	6・7・17	13	25	
1	2	ＳＣ	０５	3.70	1.50	円形		Ⅰ	514	6・7・17	8・14	26	
1	2	ＳＣ	０６	—	—	円形		—	514	6・7・17			
1	2	ＳＣ	０７	—	—	円形		Ⅰ	514	6・7・17			
1	2	ＳＣ	０８	—	—	円形		Ⅱ	514	6・7・17			
1	2	ＳＣ	０９	—	—	円形		—	514	6・7・17			
1	2	ＳＣ	１０	—	—	円形		—	514	6・7・17			
1	2	ＳＣ	１１	—	—	円形		—	514	6・7・17			
1	2	ＳＣ	１２					—	—	—			欠番
1	2	ＳＣ	１３	6.50	6.50	円形		—	514	6・7・17			
1	2	ＳＣ	１４	7.50	—	円形		—	514	6・7・17			
1	2	ＳＣ	１５	5.75	—	円形		—	514	6・7・17			
1	2	ＳＣ	１６	8.62	7.40	隅丸長方形		Ⅱ	514	6・7・17	8・10	24	
1	2	ＳＣ	１７	8.20	7.90	円形		Ⅲ	514	6・7・17	8・9	24	
1	2	ＳＣ	１８	6.90	6.85	円形		Ⅱ	514	6・7・17	8・11・12	23	
1	2	ＳＣ	１９	9.00	8.20	円形		Ⅲ	514	6・7・17	8・11・13	24・25	
1	2	ＳＣ	２０	7.80	—	円形		Ⅳ	514	6・7・17	8・14	25・26	
1	2	ＳＣ	２１	6.50	—	円形		Ⅳ	514	6・7・17	8・15	27	
1	2	ＳＣ	２２	8.20	—	円形		Ⅱ	514	6・7・17	8・15		
1	2	ＳＣ	２３	4.70	—	円形		Ⅲ	514	6・7・17	8・15	26・27	
1	2	ＳＣ	２４	5.10	—	円形		Ⅱ	514	6・7・17	8・16	24	
1	2	ＳＣ	２５	5.80	5.14	円形		Ⅲ	514	6・7・17	18	27	
1	2	ＳＣ	２６	4.93	4.80	円形		Ⅱ	514	6・7・17	19	28	
1	2	ＳＣ	２７	8.52	8.16	円形		Ⅲ	514	6・7・17	18		

1次	区／地区	竪穴住居 SA 住居 SC 井戸 SE 土坑 SK 不明遺構 SX 掘立柱建物 SB 溝 SD	遺構番号	長辺 (m)	短辺 (m)	形状	整形	時期	報告書	全体遺構図	個別遺構図	遺物図	備考
				桁	梁								
				幅	(m)	断面形			集	Fig.	Fig.	Fig.	
1	2	SC	28	—	—		—		514				欠番
1	2	SC	29	—	—		不整形	II	514	5・7・17	20		
1	2	SC	30	3.40	2.90	長方形		I	514	5・7・17	18		
1	2	SC	31	—	—			V	514	5・7・17		28	
1	2	SC	32	4.50	4.50	正方形		—	514	5・7・17	18	23	
1	2	SC	33	—	—	正方形？		—	514	5・7・17			
1	2	SC	34	3.73	3.42	正方形		V	514	5・7・17	21	28	
1	2	SC	35	4.00	3.00	長方形		II	514	5・7・17	21	28	
1	2	SC	36	6.64	4＋α	不明		V	514	5・7・17	21	23	
1	2	SC	37	5.00	5.1＋α	不明		V	514	5・7・17	20		
1	2	SC	38	3.20	4.20	長方形		III	514	6・7・17	18		
1	2	SC	39	—	—	不明		I	514	6・7・17	19		
1	2	SC	40	4.20	1.80	長方形		I	514	6・7・17	19		
1	2	SC	41	3.40	3.10	長方形		V	514	6・6・17		27	
1	2	SC	42	3.90	1.72	長方形		I	514	6・7・17	19		
1	2	SC	43	4.95	3.00	長方形		V	514	6・7・17	20		
1	2	SC	44	—	—	正方形？		V	514	6・6・17	8		
1	2	SC	45	—	—	正方形？		V	514	6・6・17	8		
1	2	SC	46	—	—	不明		V	514	6・7・17	21	27・48	
1	2	SC	47	—	—	平井		II	514	6・6・17	11・13		現代の井戸
1	2	SC	48	5.50	3.20	隅丸長方形		I	514	6・7・17			
1	2	SC	49	—	—	不明		—	514	6・7・17	19		
1	4	SC	50	3.0＋α	2.80	長方形？		II～III	514	3B～40	47	59・62	
1	4	SC	51	4.03	3.10	長方形		II	514	3B～40	48		
1	4	SC	52	3.12	3.10	正方形		—	514	3B～40	48		
1	4	SC	53	6.53	5.40	長方形		II	514	3B～40	48	42・54・55・62	
1	4	SC	54	3.00	2.72	長方形？		—	514	3B～40	48		
1	4	SC	55	4.10	3.08	長方形		—	514	3B～40	48		
1	4	SC	56	3.25	3.20	正方形		—	514	3B～40	48		
1	4	SC	57	3.6＋α	3.4＋α	正方形		—	514	3B～40	48		
1	4	SC	58	—	—	不明		—	514	3B～40			
1	4	SC	59	5.00	3.60	台形		—	514	3B～40	45		
1	4	SC	60	4.00	4＋α	長方形		—	514	3B～40	45		
1	4	SC	61	3.00	5＋α	長方形	不整形	II～III	514	3B～40	45・46	58	
1	4	SC	62	3.13＋α	2.5＋α	長方形？		III	514	3B～40	47	58	
1	4	SC	63	4.0＋α	3.00	長方形		—	514	3B～40	47		
1	4	SC	64	—	—	不明		—	514	3B～40	—		
1	4	SC	65	4.85	3.23	長方形		II	514	3B～40	41	41・58・67	
1	4	SC	66	6.84	5.36	楕円形		—	514	3B～40	47		
1	4	SC	67	6.20	—	円形		II	514	3B～40	45	54・66	
1	4	SC	68	7.04	—	円形		II	514	3B～40	44	58	
1	4	SC	69	6.90	6.68	円形		—	514	3B～40	43・46		
1	4	SC	70	6.00	—		不整形	II	514	3B～40	46	57・58	
1	4	SC	71	8.35	—	円形		I	514	3B～40	44	58	
1	4	SC	72	6.60	—			II	514	3B～40	48	58	
1	4	SC	73			不明		II	514	3B～40	45	58	
1	4	SE	01	2.60	2.20	楕円形	不整形	IV	514	3B～40	50		
1	4	SE	02	1.80	1.40	楕円形		II	514	3B～40	50		
1	2	SK	02					—	514	6	22	29	
1	2	SK	07	1.37	0.73	隅丸長方形		—	514	6	22		
1	2	SK	17	1.47	0.80	長方形		—	514	6	22		
1	2	SK	26	1.90	0.85	長方形		—	514	6	22		
1	4	SK	01	—	—			III	514	3B		61	
1	4	SK	02	—	—	長方形		II	514	3B		61	
1	4	SK	03	—	—			III	514	3B		61	
1	4	SK	07	—	—	長方形		IV	514	3B		61	
1	2	SD	01	1.65		逆台形		—	514	5・17	22	29	
1	2	SD	02	—		—		—	514	5	—	—	
1	3	SD	01	6～10				—	514	3B	36・37	36	
1	4	SD	01	—				—	514	3B			
1	4	SD	02	2.50		U字		V	514	3B	53	61	
1	4	SD	03	2.60				III～IV	514	3B	53	61	
1	4	SD	04					—	514	3B	53		
1	4	SX	54	—	—			IV	514	3B		59	
1	4	SX	55	2.28	2.16	円形	不整形	III～IV	514	3B	49	59・60	焼土遺構
1	4	SX	56	1.55	1.32	正方形		III～IV	514	3B	51	60	
1	4	SX	57	1.78	1.45	楕円		III～IV	514	3B	51	60	
1	4	SX	58	—	—			IV	514	3B		60	
1	4	SX	59	—	—			III	514	3B		60	
1	4	SX	60	—	—			III	514	3B		60	
1	4	SX	61	—	—			II	514	3B		60	
1	4	SX	100	—	—			II	514	3B		60	
1	4	SX	101	—	—			IV	514	3B		60	
1	4	SX	200	1.57	0.95		不整形	III	514	3B	51		
1	1	SA	01	—	—				437	9	10		焼土遺構

2次	区／地区	祭祀土坑 SA 住居 SC 井戸 SE 土坑 SK 不明遺構 SX 掘立柱建物 SB 溝 SD	遺構番号	長辺 桁 幅	短辺 梁 (m)	形 状 断面形	整 形	時 期	報告書 集	全体遺構図 Fig	個別遺構図 Fig	遺物図 Fig	備 考
2	9	SB	01	3	1+α				437	32	33		
2	9	SB	02	3	1				437	32	33		
2	9	SB	03	2	1				437	32	34		
2	9	SB	04	1	1				437	32	34		
2	9	SB	05	3	1				437	32	34	54	
2	9	SB	06	2	2				437	32	35	54	総柱建物
2	9	SB	07	1	1				437	32	35	54	
2	9	SB	08	2	2				437	32	36		
2	9	SB	09	2	2				437	32	36	54	総柱建物
2	9	SB	10	2	1				437	32	36		
2	9	SB	11	1	1				437	32	37		
2	9	SB	12	1	1				437	32	37	54	
2	9	SB	13	2	2				437	32	37		総柱建物
2	9	SB	14	1	1				437	32	38		
2	9	SB	15	2	2				437	32	38	54	総柱建物
2	9	SB	16	2	1				437	32	39		
2	9	SB	17	2	1				437	32	39		
2	9	SB	18	2	1				437	32	40	54	
2	9	SB	19	2	2				437	32	40		総柱建物
2	9	SB	20	1	1				437	32	41		
2	9	SB	21	2	1				437	32	41		
2	9	SB	22	2	1				437	32	41		
2	9	SB	23	2	1				437	32	42		
2	9	SB	24	2	1				437	32	42		
2	9	SB	25	2	2				437	32	43		
2	9	SB	26	1	1				437	32	43		
2	9	SB	27	1	1				437	32	43		
2	9	SB	28	2	2				437	32	44		
2	9	SB	29	1	1				437	32	44		
2	9	SB	30	1	1				437	32	44		
2	9	SB	31	3	1				437	32	45	54	
2	9	SB	32	2	2				437	32	46	54	総柱建物
2	9	SB	33	1	1				437	32	46		
2	9	SB	34	1	1				437	32	46		
2	9	SB	35	2	2				437	32	47		総柱建物
2	9	SB	36	2	2				437	32	47		総柱建物
2	9	SB	37	2	2				437	32	47		
2	9	SB	38	1	1				437	32	48	54	
2	9	SB	39	2	2				437	32	48		
2	9	SB	40	1	1				437	32	48		
2	5・6	SB	41	2	2				437	49	51		
2	7	SB	42	2	2				437	50	51		
2	7	SB	43	1	1				437	50	51		
2	9	SC	73	4.42	4.38	円形		Ⅳ	514	76	78・79	97・100～102	
2	9	SC	74	5.40+α	5.10	円形			514	76	77・79		
2	9	SC	75	5.25	—	半円			514	76	79	102	
2	9	SD	01	12～20	—				514	80			
2	9	SD	02	14～21	—				514	80			
2	9	SD	03	2.40	—				514	80・81		83・98	
2	9	SD	04	3.50	—				514	80・81			
2	9	SD	05	2.5～5	—			Ⅴ	514	80・82	84	97・102	
2	9	SD	06	1.4～2.8	—				514	80・82	84	98・101	
2	9	SD	07	—	—				514	80・82	84	101・102	
2	9	SD	08	—	—				514	80			
2	5・6	SD	10	3.00	—	3			514	66～68	69	92・93・100・103	
2	5・6	SD	11	1.90	—	1.8			514	66～68	69	87～91・100	
2	5・6	SD	12	2.50	—	1.4～1.6			514	66～68	69	94	
2	5・6	SD	13	0.80	—				514	66・67	69		
2	5	SD	14	0.90	—			Ⅳ	514	66～68		86	
2	7	SD	14	2.60	—	逆台形		Ⅳ～Ⅴ	514	70・71	72・74	95	
2	7	SD	15	4～8	—				514	70・71	74・75	95・96・100・103	
2	7	SD	16	複数の溝の為不明	—				514	70・71	72・73	95・100・103	
2	7	SD	18	—	—				514			100	
2	7	SD	22	—	—				514	80			
2	7	SD	24	—	—				514	80・81		98	
2	7	SD	30	—	—				514	80		98	不良
2	7	SD	31	—	—				514	81			
2	7	SD	33	—	—				514	80			
2	7	SD	34	2.00	—				514	80・81		98	
2	7	SD	41	—	—				514			98	
2	9	SX	05	1.98	1.12	楕円形		Ⅴ	514	80～82	85	99	
2	9	SX	21	—	—				514			102	
2	9	SX	25	—	—				514	80～82			
2	9	SX	26	—	—				514	80～82			
2	9	SX	28	—	—				514	80～82			
2	9	SX	29	2.00	1.00	長方形			514	80～82	85	100～102	
2	9	SX	30	—	—				514			100	
2	9	SX	31	—	—	楕円形			514	80～82	85	99	

2次 3次	区／地区	段階土坑 住居 井戸 土坑 不明遺構 掘立柱建物 溝	S A S C S E S K S X S B S D	遺構番号	長辺 桁 幅	短辺 梁 (m)	形 状 断面形	整 形	時 期	報告書 第	全体 遺構図	個別 遺構図	遺物図	備 考
											Fig	Fig	Fig	
2	9	S X		3 7	3.30	1.70		不整形		514	80～82	85	99～102	
2	9	S X		4 1	—	—	不明			514	80～82	85	99・100・102	
2	9	S X		4 2	—	—				514	80～82			
3	E II	SB		0 1	2	2				127		14	42	掘立柱建物
3	E I	SB		0 2	2	1				127		14		
3	E II	SB		0 3	2	1				127		14		
3	E II	SB		0 4	1	1				127		14		
3	E II	SB		0 5	2	1				127		14	42	
3	E II	SB		0 6	1	1				127		14		
3	E I	SB		0 7	2	2				127		15	42	掘立柱建物
3	F I	SB		0 8	2	2				127		15		
3	F II	SB		0 9	2	2				127		15		
3	F II	SB		1 0	1	1				127		15		
3	E II	SB		1 1	3	2				127		15		
3	B II	SB		1 2	2	2				127		15		掘立柱建物
3	B II	SB		1 3	2	1				127		16		
3	B II	SB		1 4	2	1				127		16		
3	B II	SB		1 5	2	?				127		16		
3	F I	SE		0 1	1.87	1.40	楕円形	不整形		127		12		
3	F II	SE		0 5	2.50	2.20	隅丸方形			127		12	38	
3	EC	SD		0 2	14～19	—				127		17・18	43～49	
3	D	SD		0 3	3.10	—				127		19・21	50	
3	D	SD		0 4	0.4～0.5	—				127		18		
3	E	SD		0 5	2.4～2.8	—				127		20・21	53	
3	E II	SD		0 6	0.8～1.6	—				127		20・21		
3	E II	SD		0 7	0.4～0.75	—				127		20	58	
3	E II	SD		0 8	0.20	—				127		22		
3	E II	SD		0 9	0.25～0.62	—				127		22		
3	E	SD		1 0	0.2～0.3	—				127		22		
3	E	SD		1 1	0.3～0.6	—				127		22		
3	C II	SD		1 2	1.6～1.76	—				127		19・21		
3	C II	SD		1 3	0.36	—				127		19		
3	F II	SD		1 4	0.2～0.3	—				127		23		
3	B I	SD		1 5	0.5～0.9	—				127		24		
3	AB	SD		1 6	3～4	—				127		26	59	SD16と重複
3	AB	SD		1 7	2.50	—				127		26	59	
3	A	SD		1 8	0.7～1.5	—				127		25		
3	A	SD		1 9	1.1～2.1	—				127		25		
3	E I	SX		0 1	1.70	0.83	隅丸長方形			127		4		土坑
3	E I	SX		0 2	1.06	0.83	隅丸長方形			127		4		
3	E II	SX		0 3	0.97	0.94	隅丸方形			127				
3	E II	SX		0 4	3.30	1.90	楕円形	不整形		127		4	28	
3	E II	SX		0 5	1.85	1.40	楕円形			127		4		
3	E II	SX		0 6	3.32	1.42	楕円形	不整形		127		5	28	
3	E II	SX		0 7	1.25	1.23	円形			127		4	28	
3	E II	SX		0 8	1.93	1.73	円形	不整形		127		5	28	
3	E II	SX		0 9	2.90	2.35	隅丸長方形	不整形		127		5	29	
3	E I	SX		1 0	1.12	1.06	円形	不整形		127		5	29	
3	—	SX		1 1	3.65	2.06	長方形	不整形		127		—		
		SX		1 2										欠番
3	E I	SX		1 3	1.00	0.78	隅丸長方形			127		6		
3	E II	SX		1 4	5.58	1.05	隅丸長方形			127		6	29	
3	E II	SX		1 5	1.44	0.85	隅丸長方形			127		6	29	
3	E II	SX		1 6	1.83	1.13	楕円形	不整形		127		6	31	
3	E II	SX		1 7	3.50	2.50	楕円形	不整形		127		6	31	
3	E II	SX		1 8	3.30	2.73	隅丸長方形			127		7		
3	E II	SX		1 9	2.42	1.95	方形	不整形		127		7	32	
3	E II	SX		2 0	4.23	2.90	隅丸三角形			127		7	31	
3	E II	SX		2 1	2.10	1.60	隅丸長方形			127		7	33	
3	E II	SX		2 2	2.47	1.68	隅丸長方形			127		7	33	
3	E II	SX		2 3	1.20	1.10	隅丸方形			127		8	34	
3	E II	SX		2 4	1.55	0.59	隅丸長方形			127		8		
3	E II	SX		2 5						127		—	34	
3	E II	SX		2 6	0.83	0.83	隅丸方形			127		—	34	
3	E II	SX		2 7	1.94	1.34	隅丸方形			127		7		
3	E II	SX		2 8	3.65	3.40	隅丸長方形			127		8	34	
		SX		2 9								—		欠番
3	F I	SX		3 0	20.60	1.38	楕円形			127		9	34	
				3 1										井戸
3	F I	SX		3 2	1.00	1.00	円形	不整形		127		9	38	
3	F I	SX		3 3	0.90	0.75	隅丸長方形			127				
3	F II	SX		3 4	1.48	0.80	隅丸長方形			127		9		
				3 5										井戸
3	F II	SX		3 6	3.00	2.33	楕円形	不整形		127		9	35	
3	F II	SX		3 7	1.44	1.30	円形	不整形		127		9		
3	F II	SX		3 8	2.30	0.95	隅丸長方形			127		9	38	
3	F II	SX		3 9	0.90	0.80	方形	不整形		127		—	38	

3次	区／地区	竪穴土坑 S A 住居 S C 井戸 S E 土坑 S K 不明遺構 S X 掘立柱建物 S B 溝 S D	遺構番号	長辺 短辺 径 幅	短辺 奥 (m)	形状	整形	時期	報告書 掲載	全体 遺構図	個別 遺構図	遺物図	備考
3	F II	SX	4 0	1.80	0.85	隅丸長方形			127		10	38	
3	F I	SX	4 1	0.85	0.83	隅丸長方形			127		10		
3	D II	SX	4 2	2.13	1.83	楕円形			127		10		
3	B I	SX	4 3	1.37	1.10	楕円形			127		10		
3	B I	SX	4 4	0.98	0.86	隅丸方形			127		—		
3	B I	SX	4 5	0.95	0.53	隅丸長方形			127		10		
3	B I	SX	4 6	6.14	3.65	隅丸方形			127		11	39	
3	B I	SX	4 7	2.40	2.30	楕円形	不整形		127		11	39	
3	B I	SX	4 8	2.10	1.77	楕円形			127		11	39	
3	B I	SX	4 9	1.44	0.87	楕円形			127		10		
3	A I	SX	5 0	1.80	1.48	円形	不整形		127		11	40	

4次	区／地区	竪穴土坑 S A 住居 S C 井戸 S E 土坑 S K 不明遺構 S X 掘立柱建物 S B 溝 S D	遺構番号	長辺 短辺 径 幅	短辺 奥 (m)	形状	整形	時期	報告書 掲載	全体 遺構図	個別 遺構図	遺物図	備考
4	8号支線道路調査区	S C	0 1	4.80	2.60	不明		V	514	103	116	117	
4	F－10・11	S K	5 9	—	—		不整形	IV	514	103	116	117	焼土壁
4	F－10・11	S K	6 8	1.25	1.20	楕円形		III	514	103	116	117	
4	F－10・11	S K	7 2	3.00	2.60	円形		II	514	103	116	117・118	
4	F－10・11	S K	7 7	—	—	不明		V	514	103	116	117・118	
4	F－11	S K	7 8	2.02	2.70		不整形	II	514	103		117	
4	F－10・11	S K	7 9	2.05	1.20			—	514	103	116		
4	F－10・11	S K	8 0	1.02	0.82			—	514	103	116		
4	F－10・11	S K	8 1	1.50	0.85			—	514	103	116		
4	F－10・11	S K	8 2	2.20	0.58	長楕円形		I	514	103		117	
4	F－10・11	S K	8 5					—	514	103	116		
4	L－8・9	S D	0 1	4.00	—			V	514	103		107・118	
4	L－8・9	S D	0 2	3.20	—	逆台形		V	514	103	108	108・109	
4	5号水路調査区	S D	0 1	—	—			V	514	105・110		111・118	02と同一
4	5号水路調査区	S D	0 2	—	—			V	514	105・110		111・118	
4	8号支線道路調査区	S D	0 1	—	—			V	514	105		117	
4	8号支線道路調査区	S D	0 2	—	—			IV	514	105		117	
4	F－10・11	S D	1 0	1.50	—	V 字形		V	514	105	112	113	1 2と連続
4	F－10・11	S D	1 2	2.90	—	逆台形		V	514	105	112	113・114	

5次	A2～D2	SD	0 1	2	—				194		付図	59	

6次	区／地区	竪穴土坑 S A 住居 S C 井戸 S E 土坑 S K 不明遺構 S X 掘立柱建物 S B 溝 S D	遺構番号	長辺 短辺 径 幅	短辺 奥 (m)	形状	整形	時期	報告書 掲載	全体 遺構図	個別 遺構図	遺物図	備考
6	1	S B	0 1	2	1			II	437	55	56・57	81	
6	1	S B	0 2	5	4			IV	437	55		81	
6	1	S B	0 3	2	1			II～IV	437	55	56		
6	1	S B	0 4	2	1			II	437	55	58	81	
6	1	S B	0 5	2	1			III	437	55	58	81	
6	1	S B	0 6	5	2			IV	437	55	59	81	
6	1	S B	0 7	1	1			IV	437	55	60	81	
6	1	S B	0 8	1	1			IV	437	55	60	81	
6	1	S B	0 9	2	1			IV	437	55	61	81	
6	1	S B	1 0	2	1			III	437	55	61	81	
6	1	S B	1 1	2	1			IV	437	55	62	82	
6	1	S B	1 2	2	1			IV	437	55	62	82	
6	1	S B	1 3	1	1			III	437	55	63	82	
6	2①	S B	1 4	2	1			III	437	64	63		
6	2①	S B	1 5	2	1			IV	437	64	65	82	
6	2①	S B	1 6	2	1			III	437	64	65	82	
6	2①	S B	1 7	2	1			II	437	64	66	82	
6	2①	S B	1 9	2	1			II	437	64	66	82	
6	2①	S B	1 9	2	1			IV	437	64	67	82	
6	2①	S B	2 0	2	1			III	437	64	67	82	
6	2①	S B	2 1	5	3			IV	437	64	68	82	
6	2①	S B	2 2	2	1			II	437	64	69	82	
6	2①	S B	2 3	3	3			IV	437	64	69	82	
6	2①	S B	2 4	1	1			III	437	64	70	82	
6	2①	S B	2 5	2	1			IV	437	64	70	82	
6	2①	S B	2 6	3	1			IV	437	64	71	82	
6	2①	S B	2 7	2	1			II	437	64	71	82・83	
6	2①	S B	2 8	2	1			II	437	64	72	83	
6	2①	S B	2 9	2	1			IV	437	64	72	83	
6	2①	S B	3 0	2	1			III	437	64	73	83	

6次	区／地区	祭祀土坑 ＳＡ 住居 ＳＣ 井戸 ＳＥ 土坑 ＳＫ 不明遺構 ＳＸ 掘立柱建物 ＳＢ 溝 ＳＤ	遺構番号	長辺 桁 幅	短辺 梁 (m)	形状 断面形	整形	時期	報告書 集	全体遺構図 Fig	個別遺構図 Fig	遺物図 Fig	備考
6	2	ＳＫ	54	1.64	0.60	円形	不整形	Ⅱ	514	129	130	138	
6	2①	ＳＢ	31	2	1			Ⅳ	437	64	73	83	
6	2①	ＳＢ	32	2	1			Ⅱ	437	64	74	83	
6	2①	ＳＢ	33	2	1			Ⅲ	437	64	74	83	
6	2①	ＳＢ	34	2	1			Ⅴ	437	64	75	83	
6	2①	ＳＢ	35	2	1			Ⅱ	437	64	75	83	
6	2②	ＳＢ	36	2	1			Ⅳ	437	64	76	83	
6	2②	ＳＢ	37	2	1			Ⅲ	437	64	76	83	
6	2②	ＳＢ	38	2	1			Ⅳ	437	64	77	83	
6	2②	ＳＢ	39	2	1			Ⅴ	437	64	77	83	
6	2②	ＳＢ	40	2	1			Ⅳ	437	64	78	83	
6	2②	ＳＢ	41	2	1			Ⅴ	437	64	78	83	
6	2②	ＳＢ	42	2	1			Ⅱ～Ⅳ	437	64	79	83	
6	2②	ＳＢ	43	2	1			Ⅲ	437	64	79	83	
6	2②	ＳＢ	44	2	1			Ⅳ	437	64	80	83	
6	1	ＳＣ	01	6.40	—	方形		Ⅴ	514	120	124		
6	1	ＳＣ	02	8.10	—	円形		Ⅱ～Ⅲ	514	120	124		
6	1	ＳＣ	03	6.00	—	円形		Ⅴ	514	120	124		
6	1	ＳＣ	04	4.40	—	方形		Ⅳ	514	120	124		
6	2	ＳＣ	05	—	—	方形		Ⅰ	514	129	135	142	
6	2	ＳＣ	06	3.36	2.90	方形		Ⅱ～Ⅲ	514	129	135		
6	2	ＳＣ	07	2.30	2.25	方形？		Ⅳ	514	129	135	142	
6	2	ＳＣ	08	6.40	5.00	円形	不整形	Ⅱ～Ⅲ	514	132	135	142	
6	2	ＳＣ	09	7.40	6.40	長方形		Ⅴ	514	132	135		
6	2	ＳＣ	10	4.70	4.55	方形		Ⅴ	514	132	135	142	
6	2	ＳＣ	11	—	—	方形		Ⅴ	514	132	135		
6	1	ＳＫ	01	3.20	2.00		不整形	Ⅳ	514	120	121	126	
6	1	ＳＫ	02	1.90	1.74		不整形	Ⅳ	514	120	121	126	
6	1	ＳＫ	03	3.30	0.29		不整形	Ⅳ	514	120	121	126	
6	1	ＳＫ	04	—	—		不整形	—	514	120	121		
6	1	ＳＫ	05	—	—	長方形		—	514	120	121		
6	1	ＳＫ	06	5.16	1.80	長楕円形		Ⅳ	514	120	123	126	
6	1	ＳＫ	07	5.70	3.62		不整形	Ⅱ	514	120	123	126	
6	1	ＳＫ	08	4.16	3.40	長方形		Ⅴ	514	120	121	126・128	
6	1	ＳＫ	09	1.66	1.32	円形		Ⅳ	514	120	122	126	
6	1	ＳＫ	10	2.54	1.97	楕円形		Ⅲ	514	120	122	126	
6	1	ＳＫ	11	2.24	1.80	楕円形		Ⅳ	514	120	122	126	
6	1	ＳＫ	12	1.09	1.10	方形	不整形	Ⅱ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	13	3.88	1.10		不整形	Ⅱ	514	120	122		
6	1	ＳＫ	14	3.90	3.34	方形	不整形	Ⅱ	514	120	121	127	
6	1	ＳＫ	15	2.04	1.14	長方形	不整形	Ⅳ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	16	0.81	0.79	方形		Ⅲ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	17	3.84	1.69		不整形	Ⅳ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	18	1.86	0.95	楕円形		Ⅳ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	19	1.13	0.60		不整形	Ⅳ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	20	1.09	0.81		不整形	Ⅱ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	21	1.12	0.86	円形	不整形	Ⅳ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	22	3.90	2.12	円形	不整形	Ⅳ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	23	1.75	1.50	円形	不整形	Ⅱ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	24	1.86	1.19	円形	不整形	Ⅱ	514	120	122	127	
6	1	ＳＫ	25	1.40	1.32	円形	不整形	Ⅱ	514	120	123	127	
6	1	ＳＫ	26	1.48	1.20	円形	不整形	Ⅱ～Ⅳ	514	120	123		
6	1	ＳＫ	27	2.33	0.90		不整形	Ⅱ	514	120	123	127	
6	1	ＳＫ	28	2.64	1.17		不整形	Ⅳ	514	120	123	127	
6	1	ＳＫ	29	1.20	1.00	方形	不整形	Ⅴ	514	120	123		
6	1	ＳＫ	30	1.29	1.12	円形	不整形	Ⅲ	514	120	123	127	
6	1	ＳＫ	31	2.06	0.19	楕円形	不整形	Ⅳ	514	120	123	127	
6	2	ＳＫ	32	0.87	0.61	楕円形		Ⅱ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	33	1.04	0.78	長方形	不整形	Ⅱ	514	129	131	137	
6	2	ＳＫ	34	1.24	0.73		不整形	Ⅳ	514	129	131		
6	2	ＳＫ	35	0.84	0.76	円形	不整形	Ⅱ	514	129	131	137	
6	2	ＳＫ	36	1.31	0.87	楕円形		Ⅱ	514	129	131	137	
6	2	ＳＫ	37	1.04	0.78	長方形	不整形	Ⅳ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	38	1.24	1.10		不整形	Ⅳ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	39	1.90	1.86	方形	不整形	Ⅳ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	40	1.94	0.46	楕円形		—	514	129	130		
6	2	ＳＫ	41	1.84	0.78	方形	不整形	Ⅱ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	42	0.86	0.84		不整形	Ⅱ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	43	2.66	2.50	円形		Ⅱ～Ⅳ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	44	1.29	0.82		不整形	Ⅱ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	45	1.30	0.90	楕円形		Ⅳ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	46	2.16	0.77	隅丸方形	不整形	Ⅱ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	47	1.34	1.08	方形		Ⅱ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	48	0.53	0.44	方形		Ⅲ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	49	1.38	0.50	長方形		Ⅳ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	50	1.23	0.32	長方形		Ⅱ～Ⅳ	514	129	130		
6	2	ＳＫ	51	2.07	0.64	長方形	不整形	Ⅳ	514	129	130	137	
6	2	ＳＫ	52	1.62	1.07		不整形	Ⅱ	514	129	130	137	

区分	区／地区	竪穴土坑 SA 住居 SC 井戸 SE 土坑 SK 不明遺構 SX 掘立柱建物 SB 溝 SD	遺構番号	長辺 （m）	短辺 （m）	形状 断面形	整形	時期	報告書 掲載	全体 遺構図	個別 遺構図	遺物図	備考
6	2	SK	53	1.20	0.94	円形	不整形	Ⅳ	514	129	130	137	
6	2	SK	55	2.00	0.56	鉄釜		Ⅲ	514	129	130		
6	2	SK	56	1.12	1.02	円形	不整形	Ⅳ	514	129	130	138	
6	2	SK	57	2.16	1.12		不整形	Ⅱ	514	129	130	138	
6	2	SK	58	1.58	0.95	方形		Ⅳ	514	129	130	138	
6	2	SK	59	0.71	0.65			—	514	129	130		
6	2	SK	60	1.77	1.30	方形		Ⅱ	514	129	130	138	
6	2	SK	61	2.61	1.67	楕円形	不整形	Ⅱ	514	129	130	138	
6	2	SK	62	1.72	0.98	長方形	不整形	Ⅱ	514	129	130		
6	2	SK	63	1.18	1.02	方形	不整形	Ⅱ～Ⅳ	514	129	130	138・142	
6	2	SK	64	1.10	0.80	長方形	不整形	Ⅲ	514	129	131	138	
6	2	SK	65	1.43	0.98	楕円形	不整形	Ⅲ	514	129	131	138	
6	2	SK	66	0.99	0.90	長方形	不整形	Ⅱ	514	129	131	138	
6	2	SK	67	0.88	0.78		不整形	Ⅱ	514	129	131		
6	2	SK	68	1.16	1.07		不整形	Ⅱ～Ⅳ	514	129	131	138	
6	2	SK	69	1.40	0.53	長方形	不整形	Ⅱ～Ⅳ	514	129	131		
6	2	SK	70	1.10	1.05	方形	不整形	Ⅱ	514	129	131	138	
6	2	SK	71	2.10	0.68	長方形	不整形	—	514	129	131		
6	2	SK	72	1.95	0.89	方形	不整形	Ⅱ～Ⅳ	514	129	131		
6	2	SK	73	3.00	1.67	楕円形	不整形	Ⅱ	514	129	131	138	
6	2	SK	74	1.77	1.74	長方形	不整形	Ⅱ	514	129	131	139	
6	2	SK	75	1.90	0.83	長方形	不整形	Ⅱ	514	129	131	139	
6	2	SK	76	1.03	0.90	方形	不整形	Ⅲ	514	129	131		
6	2	SK	77	1.70	0.80	長方形	不整形	Ⅱ	514	129	131	139	
6	2	SK	78	1.18	0.70	長方形	不整形	Ⅱ～Ⅳ	514	129	133	139	
6	2	SK	79	1.10	1.00	長方形	不整形	Ⅱ	514	129	133	139	
6	2	SK	80	1.55	0.81	長方形	不整形	Ⅴ	514	129	133	139	
6	2	SK	81	1.54	0.79	楕円形	不整形	Ⅳ	514	129	133	139	
6	2	SK	82	1.40	0.94	隅丸長方形		Ⅱ	514	129	133	139	
6	2	SK	83	1.85	1.78		不整形	Ⅲ	514	129	133	139	
6	2	SK	84	0.46	0.43	方形		Ⅱ～Ⅳ	514	129	133	139	
6	2	SK	85	1.61	0.87	楕円形		Ⅳ	514	129	133	139	
6	2	SK	86	0.70	0.47		不整形	Ⅱ	514	129	133	139	
6	2	SK	87	0.92	0.90	方形		Ⅳ	514	129	133	139	
6	2	SK	88	0.81	0.80	長方形		Ⅱ	514	129	133	139	
6	2	SK	89	0.80	0.70	長方形		Ⅱ	514	129	133		
6	2	SK	90	0.84	0.82	方形		Ⅱ	514	129	133	139	
6	2	SK	91	7.00	1.14		不整形	—	514	129	133		
6	2	SK	92	1.72	1.21		不整形	Ⅲ	514	129	133	140	
6	2	SK	93	0.90	0.87	円形		Ⅱ	514	129	133		
6	2	SK	94	1.00	0.82		不整形	Ⅲ	514	129	133	140	
6	2	SK	95	2.47	1.56	長方形		Ⅱ	514	129	133	140	
6	2	SK	96	1.32	1.03	楕円形		Ⅱ～Ⅳ	514	129	133		
6	2	SK	97	1.12	1.12	方形		Ⅳ	514	129	133	140	
6	2	SK	98	1.17	0.92		不整形	Ⅳ	514	132	134	140	
6	2	SK	99	1.38	1.15		不整形	Ⅲ	514	132	134	140	
6	2	SK	100	5.61	5.10		不整形	Ⅳ	514	132	134	140・141	
6	2	SK	101	1.06	1.04	円形		Ⅱ～Ⅳ	514	132	134		
6	2	SK	102	1.35	1.16	円形		Ⅴ	514	132	134		
6	2	SK	103	1.38	0.80	長方形		Ⅳ	514	132	134	141	
6	2	SK	104	0.92	0.80	円形		Ⅳ	514	132	134	141	
6	2	SK	105	1.90	1.40	楕円形		Ⅳ	514	132	134	141	
6	2	SK	106	1.10	0.76		不整形	Ⅲ	514	132	134		
6	2	SK	107	1.98	0.80		不整形	Ⅴ	514	132	134		
6	2	SK	108	3.40	1.38	長方形		Ⅳ	514	132	134	141	
6	2	SK	109	2.50	1.68	楕円形		Ⅳ	514	132	134		
6	2	SK	110	2.34	0.73		不整形	Ⅳ	514	132	134	141	
6	2	SK	111	1.08	0.83	長方形		Ⅳ	514	132	134	141	
6	2	SK	112	1.46	0.65		不整形	Ⅳ	514	132	134	141	
6	2	SK	113	2.66	1.81	楕円形		Ⅳ	514	132	134	141	
6	2	SK	114	1.51	0.93	楕円形		Ⅳ	514	132	134	141	
6	2	SK	115	1.55	1.14		不整形	Ⅳ	514	132	134	141	
6	2	SK	116	1.07	0.97	長方形		Ⅳ	514	132	134	141	
6	3	SK	117	1.30	1.22	円形		Ⅴ	514	143	144	146	
6	3	SK	118	2.35	1.62	楕円形		Ⅱ～Ⅳ	514	143	144	146	
6	3	SK	119	1.43	0.86	長方形		—	514	143	144	146	
6	3	SK	120	1.20	0.84	楕円形		Ⅴ	514	143	144	146	
6	3	SK	121	2.41	1.54	楕円形		Ⅴ	514	143	144	146	
6	3	SK	122	1.66	0.76	楕円形		Ⅱ	514	143	144	146	
6	3	SK	123	1.15	1.09	円形		Ⅱ	514	143	144	146	
6	1	SK	124	2.66	2.66	方形		Ⅲ	514	120	123		
6	1	SK	125	2.76	1.26	長方形		—	514	120	122		
6	1	SK	126	3.70	0.95		不整形	Ⅱ	514	120	122	127	
6	1	SK	127	1.92	1.83	方形	不整形	Ⅲ	514	120	123	127・128	
6	2	SK	128	0.73	0.48	長方形	不整形	Ⅱ	514	129	131	139	
6	2	SK	129	2.62	2.09	隅丸長方形	不整形	Ⅲ	514	129	131	139	
6	2	SK	130	1.36	0.90	円形	不整形	Ⅳ	514	129	131	140	
6	2	SK	131	1.03	0.78	円形	不整形	Ⅲ	514	129	131	140	

6次	区／地区	祭祀土坑 SA 住居 SC 井戸 SE 土坑 SK 不明遺構 SX 掘立柱建物 SB 溝 SD	遺構番号	長辺 桁 幅	短辺 梁 (m)	形 状 断面形	整 形	時 期	報告書 集	全体 遺構図 Fig	個別 遺構図 Fig	遺物図 Fig	備 考
6	2	SK	132	2.18	1.36		不整形	Ⅳ	514	129	131	140	
6	2	SK	133	0.83	0.83	方形		Ⅳ	514	129	131	137	
6	2	SK	134	0.98	0.82		不整形	Ⅱ	514	129	131		
6	2	SK	135	1.74	1.73	隅丸長方形	不整形	Ⅱ	514	129	131	138・142	
6	2	SK	136	1.12	1.00	円形		Ⅲ	514	129	133	139	
6	2	SK	137	1.43	0.69		不整形	Ⅲ	514	129	133	139	
6	2	SK	138	3.73	1.95	長方形		Ⅲ	514	129	133	139・140・142	
6	1	SD	01	0.42	—			Ⅱ	514	120	125		
6	1	SD	02	2.02	—			Ⅳ	514	120	125		
6	1	SD	03	0.93	—			Ⅰ	514	120	125		
6	1	SD	04	1.34	—			Ⅳ	514	120	125		
6	2	SD	05	0.28	—			Ⅱ～Ⅳ	514	129	136	142	
6	2	SD	06	0.30	—			Ⅱ	514	129	136	142	
6	2	SD	07	0.80	—			Ⅱ	514	129	136	142	
6	2	SD	08	0.36	—			Ⅱ	514	129	136		
6	1	SD	09	0.74	—			Ⅱ～Ⅳ	514	120	125		
6	1	SD	10	0.82	—			Ⅳ	514	120	125		
6	2	SD	11	1.35	—			Ⅱ～Ⅲ	514	129	136	141・142	
6	3	SD	12	10.50				Ⅳ	514	143	145	146	
6	3	SX	01	2.60	0.61	長方形		Ⅴ	514	143	144	146	土坑
6	3	SX	02	—	—	円形		Ⅱ～Ⅳ	514	143	—	146	

9次	区／地区	祭祀土坑 SA 住居 SC 井戸 SE 土坑 SK 不明遺構 SX 掘立柱建物 SB 溝 SD	遺構番号	長辺 桁 幅	短辺 梁 (m)	形 状 断面形	整 形	時 期	報告書 集	全体 遺構図 Fig	個別 遺構図 Fig	遺物図 Fig	備 考
9		SC	71	5.20	4.90	円形		Ⅱ	514	147	148		
9		SC	104A	6	—	円形			831		115	118	
9		SC	105A	13	—	円形			831		117	116	
9		SK	21	1.45	1.35	円形		Ⅱ	1018	20			
9		SK	113	2.50	1.30	長方形		Ⅱ	1018	20		39	
9		SK	125	1.90	1.20	円形		Ⅱ	1018	20			
9		SK	126	2.50	2.20	方形		Ⅱ	1018	20			
9		SK	129	3.60	1.30	楕円形		Ⅱ	1018	20		40	
9		SK	144	1.32	1.03	円形		Ⅱ～Ⅲ	1018	20			
9		SK	150	1.90	1.15	方形		Ⅱ	1018	20		41	
9		SK	153	2.15	1.45	円形		Ⅱ	1018	20		42	
9		SK	154	4.10	1.15	隅丸長方形		Ⅱ	1018	20			
9		SK	155	2.25	1.65	方形		Ⅱ	1018	20		43	
9		SK	172	1.60	1.20	円形		Ⅱ	1018	20			
9		SK	174	2.45	0.72	長方形		Ⅰ	1018	20			
9		SK	178	2.80	1.50	隅丸長方形		Ⅰ～Ⅱ	1018	20			
9		SK	180	2.00	1.00	楕円形		Ⅱ	1018	20		44	
9		SK	186	5+α	5.75	方形		Ⅱ	1018	20			SCの可能性がたかい
9		SK	187	2.15+α	1.75	—	不整形	—	1018	20			
9		SK	188	7.40	3+α	円形		Ⅰ～Ⅱ	1018	20			SCの可能性がたかい
9		SK	194	2.60	1.15	楕円形		Ⅰ～Ⅱ	1018	20			
9		SK	195	2.5+α	0.80	溝状		Ⅰ	1018	20			
9		SK	199	5.90	3.00	方形		Ⅰ～Ⅱ	1018	20			SCの可能性がたかい
9		SK	205	1.75	1.60	方形		Ⅱ	1018	20			
9		SK	209	3.70	2.20	方形		Ⅱ	1018	20			SCの可能性がたかい
9		SK	210	5.00	5.50	円形		Ⅱ	1018	20			SCの可能性がたかい
9		SK	212	—		—		Ⅱ	1018	20			
9		SK	213	4.4+α	5.5+α	—		Ⅱ	1018	20			
9		SK	215	1.75+α	1.35	円形		Ⅱ	1018	20			
9		SK	216	9.85+α	5.3+α	—		Ⅱ	1018	20			SCの可能性がたかい
9		SK	218	5.10	3.2+α	—		Ⅱ	1018	20			
9		SK	249	1.95	1.55			Ⅳ	1018	20			
9		SK	250	1.70	1.05			Ⅳ	1018	20			
9		SK	270	1.35+α	1.15	隅丸方形		Ⅳ	1018	20		45	
9		SK	273	1.5+α	1.25	円形		Ⅱ	1018	20			
9		SK	274	5.4+α	3.10	円形		Ⅱ	1018	20			SCの可能性がたかい
9		SK	275	1.95	1.35	方形		Ⅰ	1018	20			
9	2排2区	SK	1				不整形	Ⅴ	1018	20		34	
9		SK	2			長方形		Ⅱ	1018	20		36	
9		SK	3				不整形	Ⅲ	1018	20			
9		SK	6			楕円形		Ⅳ	1018	20			
9	太田地区	SD	50			逆台形		Ⅴ	514	149	150	151	
9		SA	1	0.69	0.58	円形		Ⅳ	1018－650		150	1018－29	
9		SA	2	—	—	不明瞭		Ⅳ	1018－650		150	1018－30	
9		SA	3	195	1.55		不整形	Ⅳ	1018－650		150	1018－31	SK249
9		SA	4	1.7	1.05	楕円形	不整形	Ⅳ	1018－650		150	1018－32	SK250
9	2排2区	SA	5					Ⅴ	1018			35	甕を埋置

2．古墳時代のまとめ

古墳時代の吉武遺跡群では、遺跡群の南半部にあたる第９次調査で竪穴住居跡を主とする集落遺構がまとまって見つかっているが、北半部での集落分布はやや希薄であると考えられる。

しかし、未調査区の多い中、遺跡群周縁部にも分布が見られることから単位集落は全域に及んでいたと思われる。

集落の時期は、前期末から後期にわたり、中期後半～後期中頃を前後する時期が最盛期と考えられ、５世紀前半から６世紀後半にあたる。

集落には住居跡に伴って倉庫と想定される掘立柱建物群、廃棄穴と考えられる不定型な土坑群、溝状遺構などが伴う。また、遺跡群の原地形は南西から北東方向に傾斜することからこの方向に走る自然流路も数多くみられ、集落もこれによって規制された立地をとるものと思われる。また、集落遺構に伴う土器類からみると、集落は南側へ従い、時期が下る傾向にある。

また、集落に伴う墓地は、その周辺部に偏在して分布していると考えられる。

古墳群（Ｆig.21）は、ＦＧ－10～12地区の一群であるＳ１号墳（樋渡前方後円墳）・２号墳（方墳）・Ｓ22・23号墳（円墳）、Ｅ～Ｇ－16・17地区を中心に群集するＳ16～21号墳（円墳）それにＬ～Ｎ－14～17地区の一群であるＳ3～15・23～29号墳（円墳）の29基である。

また、遺跡群南西部の円墳群の分布に重複するＬ・Ｍ－１６・１７地区では、土壙墓、甕棺墓、石棺墓からなる墳墓が主軸をほぼ北に向け散発的に分布しており、円墳群とともに該期の奥津城を形成している。時期的には６世紀中頃を中心に一部は５世紀後半に遡るものと想定される。

また、生活遺構や古墳からの副葬品・供献品にも特徴的な出土品が知られる。

生活遺構のうち、自然流路からは大量の初期須恵器・韓半島南部から招来された陶質土器類とともに又鍬・平鍬・鋤・エブリなどの農具類、各種の槽・木製鞍・鐙などの馬具、準構造船のミニチュア、木錘などが数多く見られる。また、不定形土坑では、土師器・初期須恵器などの土器類とともに陶質土器や韓半島に多い算盤玉形の紡錘車などが出土し、韓半島とつながりの深い集落の様相を感じさせる。

次に、南西部のMN地区に分布する古墳群からの出土品である。５世紀後半から６世紀後半までの円墳群で、奥壁が小口よりやや開きバチ形をなす石室を主体とする。石室の腰石は小形であり、通常の横穴式石室とは形状が異なるようで、壁面の立ちあがりが想定できない。

副葬された遺物の中、土器には、陶邑窯産須恵器が多く、他に福岡県甘木市小隈窯産・福岡市早良重留窯産が混じり、一部に韓半島南部の洛東江流域の陶質土器も見られる。

また、鉄器ではＳ８号・Ｓ９号・Ｓ11・Ｓ27号墳で韓半島南部からの流入と考えられる鋳造鉄斧や鍛造袋状鉄斧を伴っており、それぞれ大小の製品をセットとして重ねて副葬品としている。Ｓ９号墳出土の金銅製龍文太刀は、環頭に対向する２匹の龍を両面に彫り、またはばきに頭部が交差する２匹の龍文を切先側に向けて装着する。

このような韓半島や国内地域からの文物の流通状況は、早良平野の歴史的風土としてこの吉武遺跡群で開花し、以後も継続的に受け継がれていったものと考えられる。

Tab. 6　古墳一覧表

古墳番号	地点	時期	規模（m） 全長×後円部径×前方部幅×墳高	墳形	主な出土遺物	備考	報告書番号	挿図番号	図版番号
S1	GF－10・11	古墳中期	51.5×31.5×9.5×3	前方後円	円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪 須恵器(蓋杯、有蓋高杯、ハソウ、甕)、土師器(甕 ・高杯・甑・丸底壺)	帆立貝式 石室不明	731	8～33・41 44～47・50	1～17・21～25・27・28
S2	F－10	古墳中期	南辺長17m		円筒埴輪、朝顔形埴輪 須恵器(横瓶・甕・高杯・ハソウ)	石室不明	731	9・34～41・48～50	2・18～20・25～27
S3	MN－16	古墳後期	周溝径17×16m規模		須恵器(蓋杯・高杯・ハソウ・提瓶・大型器台) 土師器甕、碧玉管玉、袋状鉄斧、不明鉄器	横穴式石室 (3.3×1.8m規模)	775	6～11	2・42・43
S4	M－16	古墳後期	周溝径20m規模	方形	須恵器大甕、土師器小形丸底壺、不明鉄器	石室不明	775	12～15	40
S5	MN－17	古墳後期	周溝径22.5×30m規模	円形	須恵器(蓋杯、無蓋高杯、ハソウ、中型甕、大型甕) 土師器高杯、鉄鏃	横穴式石室 (3.7×2.3m規模)	775	16～19	3・41
S6	M－17	古墳後期	周溝径20m規模	円形	須恵器(蓋杯、ハソウ、無蓋高杯)	横穴式石室		20～26	4・41～43
S7	ML－17	古墳後期	不明	円形	土師器碧玉管玉、凝灰岩管玉、鋳造鉄斧、鉄矛 須恵器(杯蓋・小形高杯・小形ハソウ)	(長不明×1.45m) 横穴式石室？	775	27～29	5
S8	MN－17	古墳後期	周溝径16.7×17.5m規模	円形	須恵器(蓋杯・高杯・ハソウ・坩・甕・提瓶) 土師器(甕・高杯・小形丸底壺) 鉄器(鉄鏃・鉄刀・弓金具？・鑿・袋状鉄斧・刀子 ・ヤリカンナ・鎌・鉄滓) 玉(凝灰岩管玉・ガラス小玉)	横穴式石室 (4.65×2.2m規模) 石障	775	30～38	6～9・42～44
S9	N－17	古墳後期	周溝径14.8×15.4m規模	円形	須恵器(蓋杯・坩・ハソウ・脚台ハソウ・有蓋高杯・ 有蓋脚台付壺・ジョッキ形・大形甕・器台) 土師器(小形高杯・大形高杯)、陶質土器 鉄器(鉄鏃・環状鏡板付き轡・鍛造袋状鉄斧・鎌・ 鋳造鉄斧・鉄刀・金銅製龍文素環頭太刀) 玉類(碧玉製管玉・ガラス小玉・翡翠製勾玉)、耳環	横穴式石室 (4.2×1.9m規模)	775	39～50	10～19・45～47
S10	N－17	古墳後期	周溝径14m規模か	円形	須恵器(杯蓋・ハソウ・器台・大甕) 土師器(マリ) 鉄器(鉄鏃・刀子・鉄刀・鎌・不明鉄器) 玉類(碧玉製管玉・ガラス小玉)	横穴式石室 (2.8×1.8m規模)	775	51～57	20・47
S11	M－17	古墳後期	周溝径19.5×21.5m規模か	円形	須恵器(蓋杯・無蓋高杯・有蓋高杯・ハソウ・甕・ 横瓶・提瓶・大型器台 土師器(マリ) 鉄器(鉄鏃・鉄刀・鎌・不明棒状鉄器・小型鋳造鉄斧 ・鍛造袋状鉄斧) 玉類(凝灰岩・碧玉製管玉・ガラス小玉)	横穴式石室	775	58～67	20・21・48・49

古墳番号	地点	時期	規模（m） 全長×後円部径×前方部幅×墳高	墳形	主な出土遺物	備考	報告書番号	挿図番号	図版番号
S12	M－17	古墳後期	周溝不明	不明	須恵器蓋杯、土師器(マリ・甕)	小石室か	775	68～71	22・50
S13	L－16	古墳後期	周溝径8m規模か	不明	須恵器(短頸壺・小形提瓶) 鉄器(鉄鏃・鉄刀)、耳環	横穴式石室	775	72～76	23・50
S14	L－16	古墳後期	周溝不明	円形？	須恵器蓋杯、鉄器(主頭斧箭式鉄鏃・袋状鉄斧)	横穴式石室 (2×1.4m以上)	775	72・ 76～78	
S15	LM－15	古墳後期	周溝径16m規模か	円形	須恵器(蓋杯・横瓶・高台椀・器台・甕) 土師器甕、鉄器(鋳造鉄斧・厳造袋状鉄斧)	横穴式石室 (2×5m規模)	775	79～83	23・50・ 51
S16	G－17	古墳後期	周溝径17×17.5m規模	円形	須恵器杯蓋	横穴式石室か	775	113～115	
S17	G－17	古墳後期	周溝不明	円形？	須恵器(ハソウ・甕・樽形ハソウ) 土師器(マリ・甕)	石室 (2.4×1m)	775	116～119	24・25・ 51
S18	G－16	古墳後期	周溝不明	円形？	須恵器蓋杯	石棺か	775	120～122	52
S19	G－16	古墳後期	周溝一部残存	円形	土師器高坏	不明	775	123・124	52
S20	G－16	古墳後期	周溝一部残存	円形	須恵器(ハソウ・高坏)	不明	775	125・126	52
S21	G－16	古墳後期	周溝一部残存	円形	須恵器大甕	不明	775	127～129	
S22	G－12	古墳後期	周溝径18×17.5m	円形	須恵器(杯蓋・無蓋高坏・鉢)	横穴式石室か	775	131・132	25・52
S23	F－11	古墳中期	周溝径15m	円形	土師器(高坏・丸底壺)	不明	775	133・134	26・52
S24	M－16	古墳中期	周溝不明	円形？	須恵器(蓋杯・瓶)、土師器甕	横穴式石室	775	84～86	26・53
S25	N－16	古墳後期	周溝径13×13.5m	円形	須恵器(蓋杯・高坏・ハソウ・坩・甕)、ガラス小玉	不明	775	87～89	27・53
S26	N－16	古墳後期	周溝径9×9.5m	円形	須恵器ジョッキ型、土師器(高坏・甕・甑)	不明	775	90・91	27・54
S27	M－14	古墳後期	周溝径11m	円形	須恵器(蓋杯・ジョッキ型・中壁壺・横瓶・大甕・ 無蓋高坏・大型器台) 土師器(高坏・甕) 鉄器(鉄鎌・刀子・鋳造鉄斧・鉄鏃) 玉類(水晶製算盤玉・碧玉製管玉・ガラス小玉)	横穴式石室？	775	92～105	34・35・ 37・38
S28	M－14	古墳後期	周溝径11m規模	円形	須恵器(杯蓋・甕大型器台・有蓋高坏) 土師器(丸底鉢・甕)	横穴式石室	775	108～111	39
S29	N－14	古墳後期	周溝径10m規模	円形					

古墳番号	地点	時期	規模（m）全長×後円部径×前方部幅×墳高	墳形	主な出土遺物	備考	報告書番号	挿図番号	図版番号
SX01	N－16	古墳後期	1.86×0.75×0.15m	長方形	鉄刀子、玉類(碧玉製勾玉・碧玉製管玉・ガラス小玉・滑石製小玉	土壙墓	775	136～139	28
SX02	N－16	古墳後期	2.62×0.53×0.18m	長方形	滑石製玉(勾玉・ペンダント・小玉)	土壙墓	775	140～142	29
SX04	N－16	古墳後期	3.65×0.82×0.4m	長方形	土師器(壺・甕破片)		775	143	30
SX05	N－16	古墳後期	2.25×0.7×0.2m	長方形	人骨破片	木棺墓？	775	144	
SX06	M－16	古墳後期	0.95×0.57×0.55m	長方形	須恵器・土師器破片		775	145	30
SX07	M－16	古墳後期	1.37×0.5×0.5m	長方形	須恵器(甕・壺・ハソウ)破片、土師器破片	土壙墓？	775	146	
SX08	M－16	古墳後期	2×1×0.85m	長方形			775	147	
SX09	N－16	古墳後期	2.04×0.6×0.35m	長方形	なし	棺台あり	775	148	
SX10	N－16	古墳後期	2.34×0.7×0.4m	長方形	須恵器・土師器破片	土壙墓	775	149	31
SX12	N－17	古墳後期	1.5×0.85m	長方形	須恵器破片	箱式石棺墓	775	150・151	31
SX13	N－17	古墳後期	0.7×0.45×0.25m	長方形	須恵器坩	箱式石棺墓	775	152・153	32・57
SX14	N－16	古墳後期			土師器甕	合口甕棺墓	775	154・155	57
SX15	M－17	古墳後期			土師器甕	合口甕棺墓	775	156・157	32・57
SX16	M－17	古墳後期			土師器甕	合口甕棺墓	775	158・159	58
SX17	M－17	古墳後期			土師器甕	合口甕棺墓	775	160・161	33・58
SX18	N－17	古墳後期			土師器甕・須恵器ハソウ	合口甕棺墓	775	162・163	33・58
SX19	M－16	古墳後期			土師器甕	甕棺	775	164・165	59
SX22	L－16	古墳後期			土師器甕、須恵器(蓋杯・無蓋高杯)	甕棺墓	775	166・167	59
SX23	FG－16・17	古墳後期			須恵器蓋杯破片		775	168	

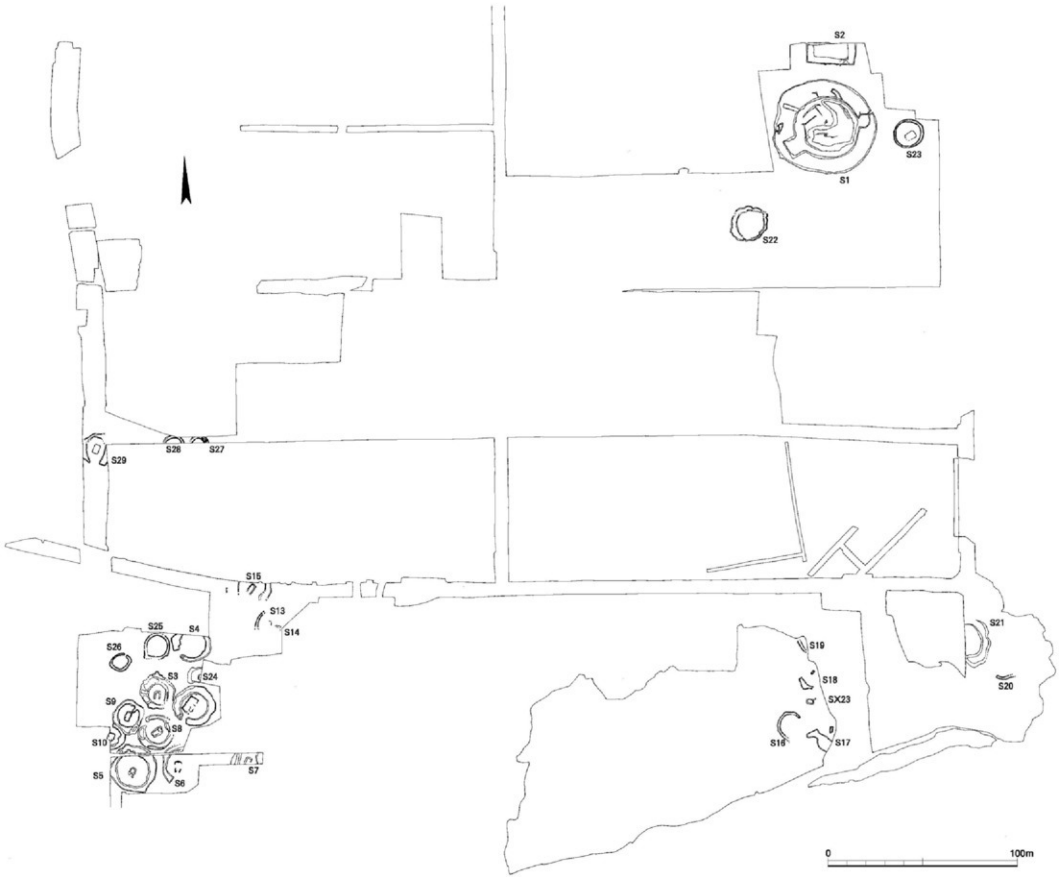


Fig.21　古墳群全体図（1/2000）

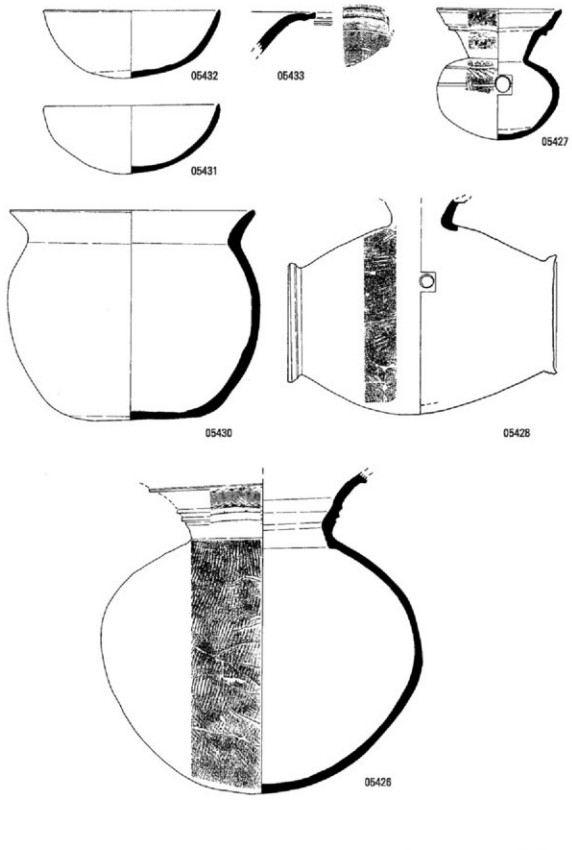


Fig.22　古墳出土須恵器実測図(1/3)(S群17号墳)

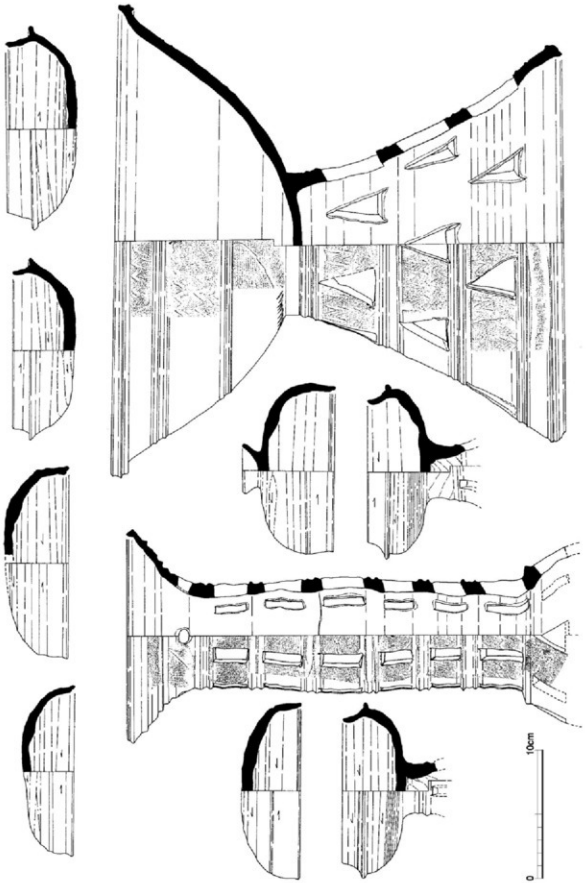


Fig.23　古墳出土須恵器実測図(1/3)(S群27号墳)

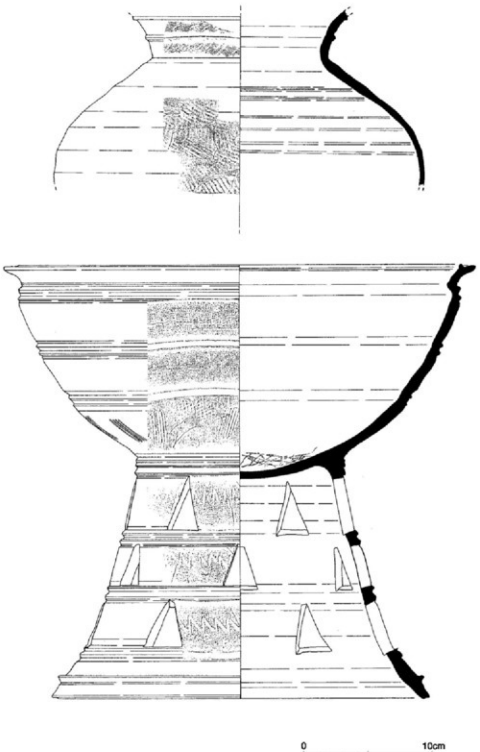


Fig.24　古墳出土須恵器実測図(1/3)(S群28号墳)

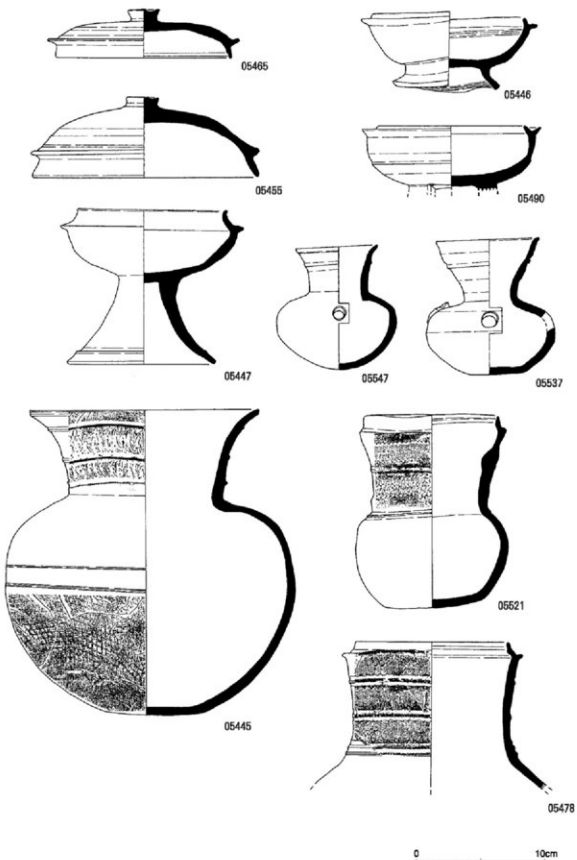


Fig.25　出土須恵器実測図(1/3)(MN－16・17地区試掘)

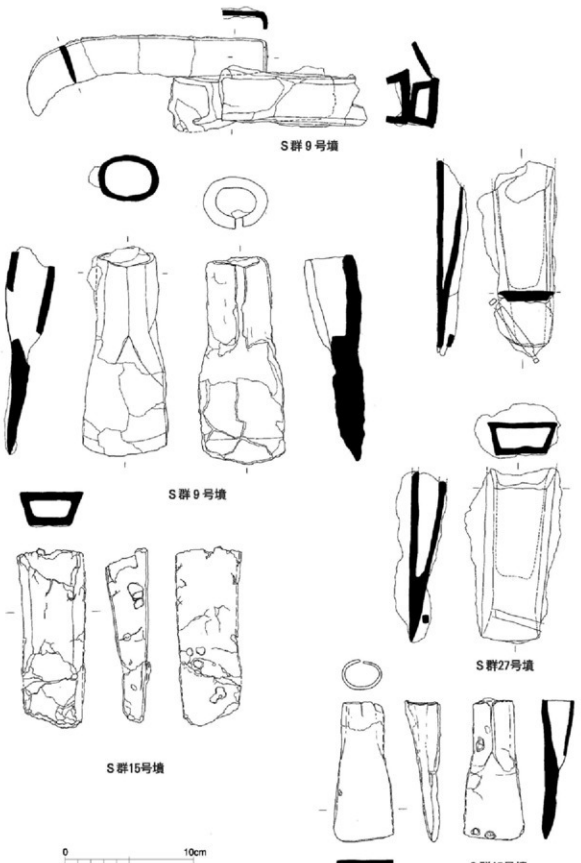


Fig.26　古墳出土鉄斧実測図(1/3)(S群9・15・27号墳)

第三章　調査資料の補遺

1．弥生時代

①　９次調査出土副葬品など

吉武遺跡群の甕棺墓や木棺墓出土の青銅器や装身具については主に461集で報告を行なってきた。このうちサンプリングした土壌の精査によって新たに見つかった遺物と遺存状況が最く適切な事実報告ができなかった資料について記述する。

甕棺墓出土（Fig. 27）

管玉（1～5）

弥生中期初頭の大石の埋葬遺構は高木地区と同数の青銅武器が確認されたが、鋒部を欠く銅矛や欠損の著しい銅戈が含まれていた。さらに石剣の先端部など被葬者の体内に遺存したと推定される事例が認められた。また高木の中核を構成する１～３号木棺墓や110・111・117号甕棺墓に勾玉、碧玉製管玉、銅釧などの装身具が集中的に分布しているのに対して、大石では51号甕棺墓の管玉11点が唯一の装身具であった。51号甕棺墓は細形銅剣を副葬し、甕棺の上部に一抱えほどの礫を標石としていた。今回土壌の洗浄によって碧玉製管玉５点が新たに確認された。これまで報告した51号の管玉は全長が4.2～6.5mm であり、今回の５点もその範囲におさまるサイズである。いずれも両面穿孔。

不明鉄器（6）

大石45号甕棺墓では複数の青銅武器、銅剣・銅矛各１口が出土した。報告（461集）では青銅器が検出された方を下甕としているが、断面図から判断すると上下は逆転する可能性がある。鉄製品は、青銅器を伴わないほうの埋土から検出された。現存長約７cm の彎曲する平面形で、断面では幅約２cm の下端が刃部とのようにみえる。Ⅱ期初頭の甕棺墓に鉄製品が副葬された事例はなく、甕棺も上部が大きく削平をうけていたため混入かもしれない。参考資料。

投弾（7）

600集に報告したとおり134号甕棺は、鉢形土器を蓋にしたⅢ期の甕棺墓である。土製の投弾は下甕の埋土中より検出された。甕棺墓は削平をうけていなかったが、投弾の出土状況は調査時に確認できたものではない。参考資料。

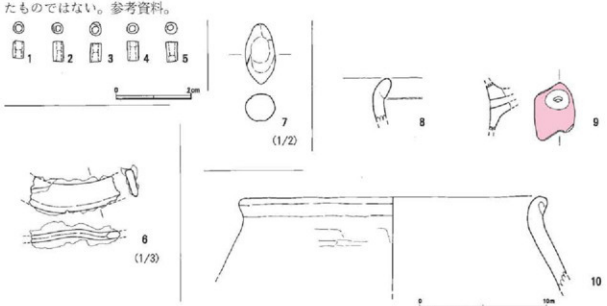


Fig.27　K45・51・134甕棺・その他出土遺物実測図(1/1・1/2・1/3)

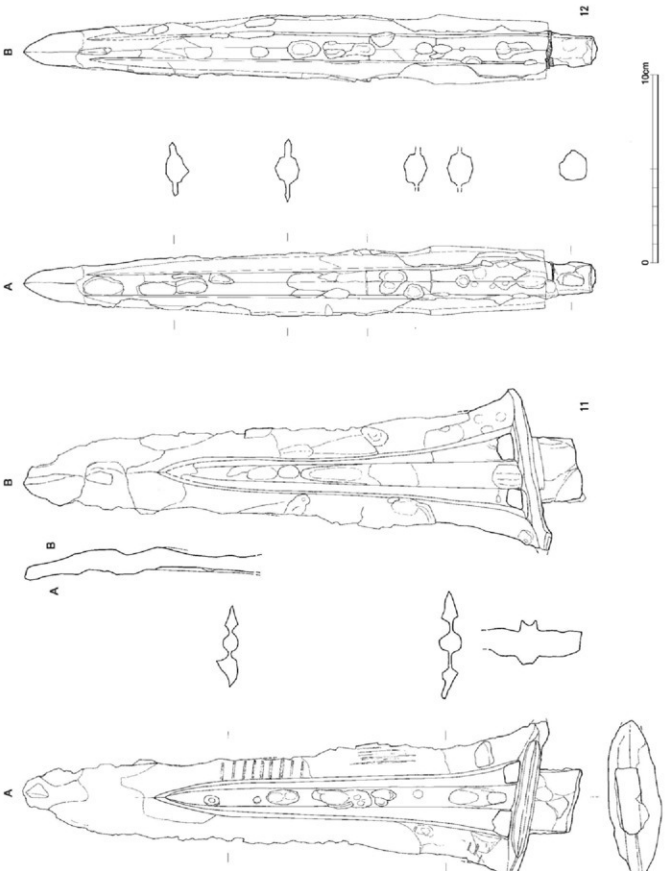


Fig.28　吉武大石１号木棺墓出土青銅器(1/2)

土器（Fig.27　8～10）

8・10は、無文土器の口縁部。9次調査では80号甕棺墓の上甕に無文土器の特徴である粘土紐をめぐらした事例が確認されている。8は採集資料。10はSD－3に伴う。

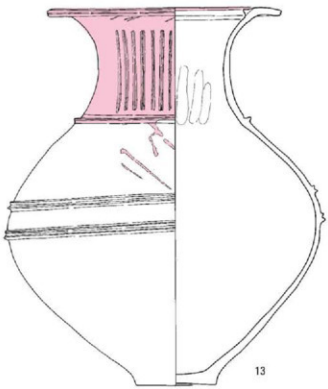


Fig.29　SA-01祭祀土坑出土土器実測図(1/3)

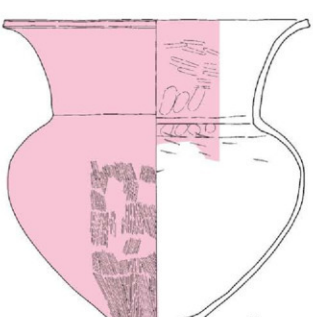


Fig.30　SA-02祭祀土坑出土土器実測図(1/3)

9はSB－20の柱穴で検出された注口土器の注口部分である。外面に丹を塗布する。

青銅武器（Fig.28　11～12）

9次調査大石地区1号木棺墓出土の銅戈・銅剣は、遺存状況が不安定なため周囲の土ごととりあげた経緯がある。このため実測図において断面形を示すことができなかった。また平面形の作図にも限界があった。1号木棺墓の2点について再調査を行なったので紹介する。

銅戈（11）

銅戈は被葬者の頭部に鋒部を向けて出土した。床面から5cmほど浮いたレベルで検出され、この状態で着柄していたとすると鋭角となることから、棺蓋上に置かれていたかどうかはともかく、遺構が埋まる過程で原位置を動いたとみられる。

銅戈は、鋒の端部を欠き、現存長29.5cm、幅は樋の先端から3.8cmの箇所で4.3cmをはかる。A面は出土時に下を向いていたほうで、前回の報告で観察できなかった面である。

胡は両端を欠くが現状で8.6cm、鎬と交叉する角度は81.0°である。幅3.2cmの広く厚手の内を有する。鋒はA面に湾曲し、樋の合わさる先端部分と鋒部は明瞭な段をなす。刃部は厚く、脊は丸みをおびた断面形で、鎬は援の部分では観察されない。穿は、隅丸台形で、樋にかけて文様は認められない。

錆化がすすんでいる一方で、A面の援は白銅色の質感をとどめており、鎬にたいして幅1.5～2.0mmの斜方向の研ぎが観察される。また援の一部には木質の付着がみられる。

銅剣（12）

細形銅剣は、被葬者の右側で、鋒を足元

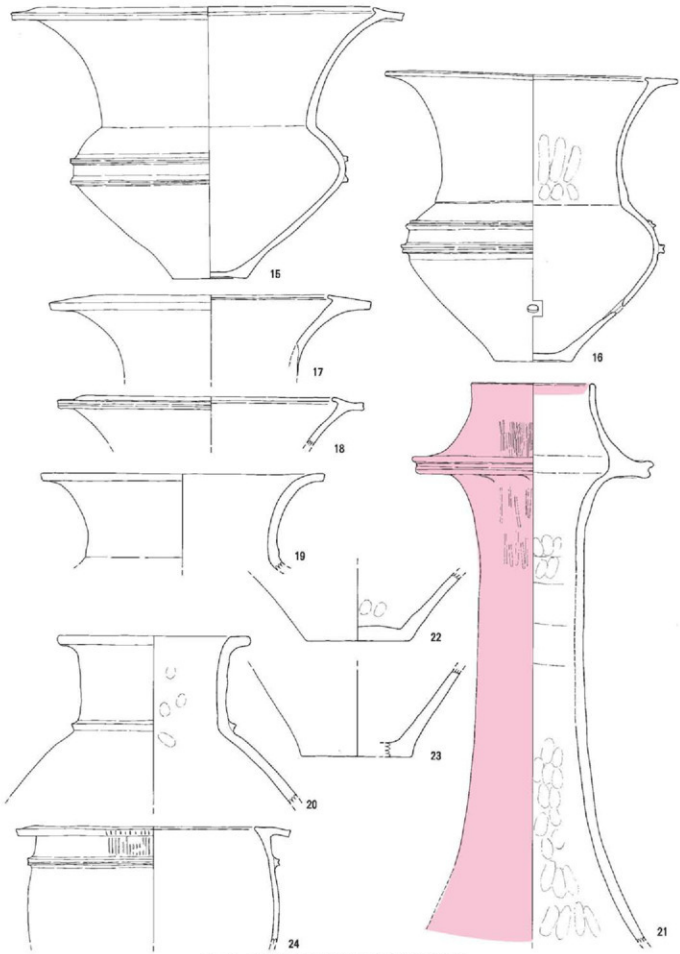


Fig.31　SA-03祭祀土坑出土土器実測図(1/3)

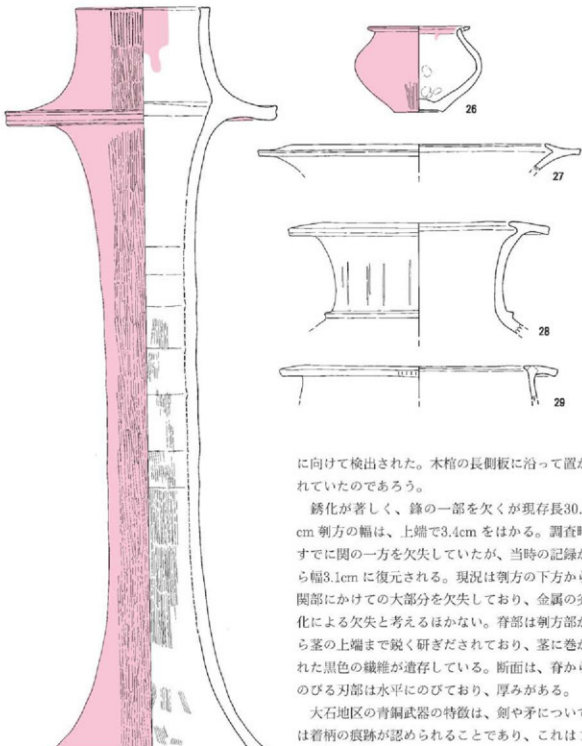


Fig.32　SA-04祭祀土坑出土土器実測図(1/3)

に向けて検出された。木棺の長側板に沿って置かれていたのであろう。

銹化が著しく、鋒の一部を欠くが現存長30.1cm 剌方の幅は、上端で3.4cm をはかる。調査時すでに関の一方を欠失していたが、当時の記録から幅3.1cm に復元される。現況は剌方の下方から関部にかけての大部分を欠失しており、金属の劣化による欠失と考えるほかない。脊部は剌方部から茎の上端まで鋭く研ぎだされており、茎に巻かれた黒色の繊維が遺存している。断面は、脊からのびる刃部は水平にのびており、厚みがある。

大石地区の青銅武器の特徴は、剣や矛については着柄の痕跡が認められることであり、これは1号木棺についてもあてはまる。銅剣の型式分類は、剌り方から茎にかけての研ぎ、すなわち鎬の有無がひとつの目安とされてきた。しかし研ぎはそれぞれの銅剣の来歴次第でかわりうる。たとえば吉武高木遺跡の４号木棺墓の銅剣は、作られた当初と長さも幅も違っていたようだ。茎の付根の部分が折損したままになっており、その両側に刃が付いていた痕跡がみられる。このように細形銅剣のなかには戦闘などで折れてしまって研ぎ直した結果、モデルチェンジを余儀なくされたものが含まれている。

近年柳田康雄氏による銅剣の断面形による型式分類は、研ぎによる影響をうけにくい個所の観察所

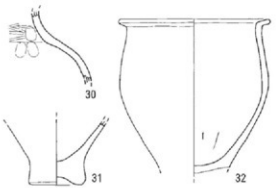


Fig.33　2号土壙墓出土土器実測図(1/3)

Fig.34　2号排水路2区SK-01出土土器実測図(1/3)

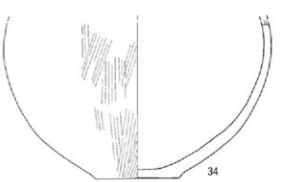


Fig.35　2号排水路2区SA-05出土土器実測図(1/3)

見によるもので、どういう銅剣を意図して鋳造したかという視点で青銅器を分類することをめざしたものである。

柳田康雄2005「青銅武器型式分類序論」『國學院大學考古学資料館紀要』21

② 9次調査出土の弥生土器

SA－01（Fig.29　13）

祭祀土坑にともなう壺形土器。平坦な口縁部をもち、内側に断面三角形の粘土帯を付す。頸部に縦方向の暗文をめぐらしている。器高39.9cmで、口縁部から頸部にかけて丹塗をおこなう。Ⅳ期。

SA－02（Fig.30　14）

祭祀土坑にともなう広口壺。口縁部上半から内側にかけて研磨を加え、胴部下半にハケ目をのこす。およそ2分の1を遺存する。器高32.7 cmで、口縁部内面から外面にかけて丹塗をおこなう。Ⅳ期。

SA－03（Fig.31　15～24）

祭祀土坑にともなう土器群。鋤先口縁とラッパ状に外反する広口壺を主体とする。筒形器台は、裾部を欠くが現状で59cmをはかる。肩部がなで気味の壺形土器は、直立する口縁部を持ち、短く外反して平坦な面をつくる。底部の2点はいずれも壺形土器のものであろう。Ⅲ期を主体とする。

SA－04（Fig.32　25～29）

祭祀土坑にともなう土器群。鋤先口縁の広口壺と短頸壺、甕形土器、筒形器台よりなる。筒形器台は、

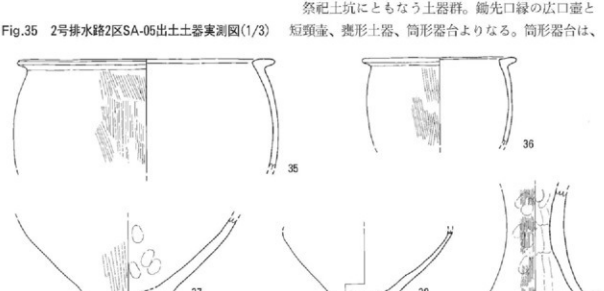


Fig.36　2号排水路2区SK-02出土土器実測図(1/3)

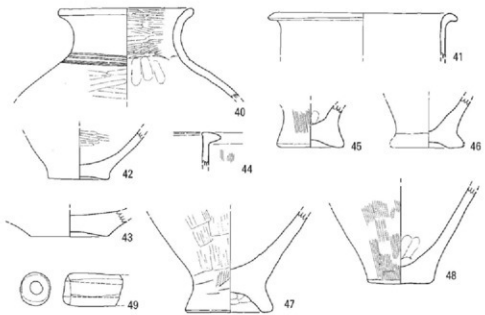


Fig.37　SK-21出土土器実測図(1/3)

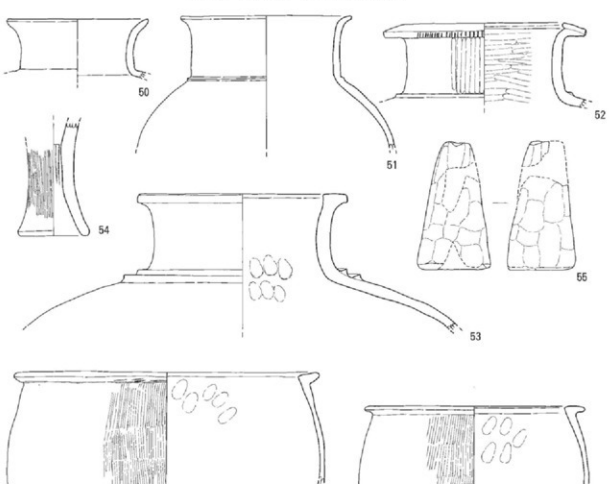


Fig.38　SK-125出土土器実測図(1/3)

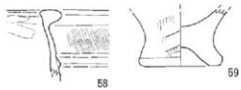


Fig.39　SK-113出土土器実測図(1/3)

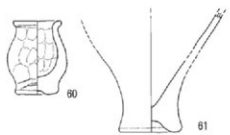


Fig.40　SK-129出土土器実測図(1/3)

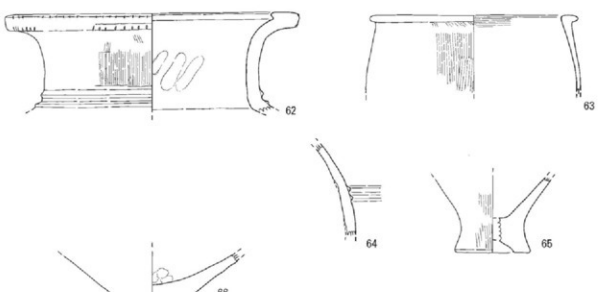


Fig.41　SK-150出土土器実測図(1/3)

裾部を欠くが現状で80cmをはかる。SA－03の器台よりも器高はたかいタイプで、セットとはならない。Ⅲ期。

２号土壙墓（Fig.33　30～32）

土壙内で検出された土器。壷形土器と甕形土器はⅠ期後半～末の特徴がある。底部は、上底で、Ⅰ期～Ⅱ期にかけての甕にみられる。

SK-01（２号排水路）（Fig.34　33）

甕形土器の底部。立ち上がりのラインは直線的で、底面にハケ目が観察される。凸レンズ状に移行する特徴が伺える。Ⅴ期に相当する。

SK-05（２号排水路）（Fig.35　34）

遺構検出の際に埋置された状態で検出されたⅤ期前半の壷の胴部であろう。

SK-02（２号排水路）（Fig.36　35～39）

甕の口縁部は逆Ｌ字状を呈する。底部は壷か鉢であろう。筒状の器台は中期前半以後にみられる。Ⅱ期。

SK-21（Fig.37　40～49）

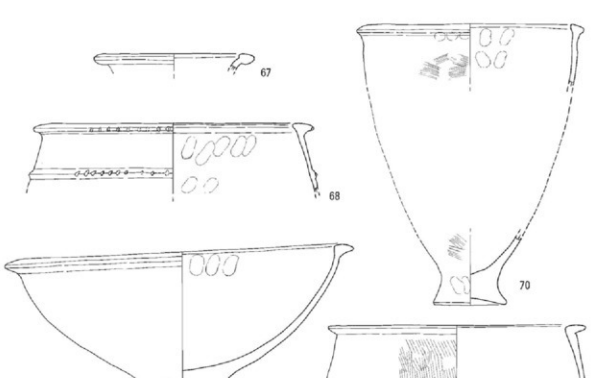


Fig.42　SK-153出土土器実測図(1/3)

壷・甕などからなる土坑の資料。壷は頸部と胴部の境を沈線で画している。甕の底部は上底と平底の二種がある。左下の筒状の遺物は土錘である。Ⅰ期後半～Ⅱ期にかけての特徴をもつ。

SK-125（Fig.38　50～57）

壷・甕などからなる土坑の資料。Ⅱ期～Ⅲ期にかけての時期幅が見込まれる。右下は支脚状の土製品で、頂部がわずかにくぼんでいる。

SK-113（Fig.39　58～59）

甕からなる土坑の資料。甕の口縁部は逆Ｌ字状を呈し、底部は上底である。Ⅱ期に相当する。

SK-129（Fig.40　60～61）

ミニチュアの小壷と甕を図示する。小壷は手づくねだが外反する口縁部や胴部の張りなど、Ⅰ期～Ⅱ期にかけての特徴を表している。甕の底部は上底である。

SK-150（Fig.41　62～66）

壷・甕などからなる土坑の資料。壷は肩が張る大型の器種でⅡ期の典型である。甕の口縁部は逆Ｌ字状を呈し、底部は上底である。いずれもⅡ期に相当する。

SK-153（Fig.42　67～71）)

壷・甕・鉢からなる土坑の資料。壺はⅡ期にみられる肩が張る器種である。甕は、刻目突帯文系と逆Ｌ字状口縁をもつ両器種がある。鉢形土器とのセット関係をしめす資料である。

SK-155（Fig.43　72・73）

逆Ｌ字状を呈する口縁をもつ甕形土器で、口縁下に突帯をめぐらす器種とのセットである。Ⅱ期に相当する。

SK-180（Fig.44　74～76）

広口壷と逆Ｌ字状を呈する口縁をもつ甕形土器のセットである。壷は丁寧な研磨を施している。Ⅱ期後半に比定される。

SK-270（Fig.45　77）

壷は肩が張る大型の器種で、外傾する頸部にSK-150の資料よりも後出する特徴を見いだせる。Ⅱ期後半に比定できる。

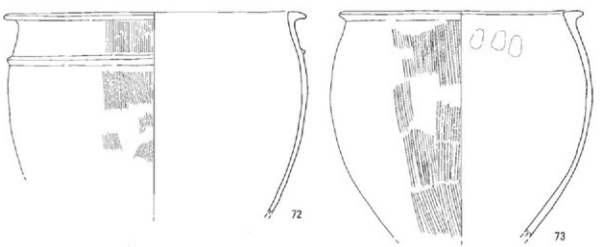


Fig.43　SK-155出土土器実測図(1/3)

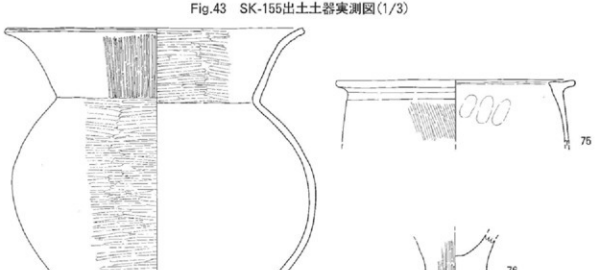


Fig.44　SK-180出土土器実測図(1/3)

Fig.45　SK-270出土土器実測図(1/3)

2．古墳時代

①　9次調査出土の古墳時代の土器（Fig.46　78～81）

半島系の陶質土器で、78はS群27号墳周溝出土の高坏形器台。775集 Fig.101-13で報告済みであったが、脚部片が所在不明であった。昨年度報告整理中に古代の遺構分に紛れ込んで確認されたため、加筆・改訂した。口径33㎝、全体的に器壁は薄く、端正な造作で、端部に沈線を施し短く屈曲する口縁部に深い体部が連なる。「コ」字突帯下の3段の間に櫛描波状文を施し、最下段にはヘラ書きの複線鋸歯文を施す。脚部は2段分が残存し、小さな突帯間にそれぞれ4箇所に台形透かしと、透かし間に平行する2本のタテヘラ描き沈線を施す。色調は明灰～暗灰色。断面暗紫褐色。伽耶系。79は地点不明のジョッキ形土器で、口径12.2㎝器高11.7㎝を測る。内外に回転ナデを施し外面下位は手持ちヘラケズリ。口縁下に低い複合突帯を施し、ここに把手を貼付するが欠損する。胎土精良で灰色を呈する。伽耶系。80はNO5-SP2079出土の壺蓋で、最大径11.4㎝器高4.2㎝を測る。摘みが大きく立ち上がり高い。天井部の2段の複線沈線間にヘラ描きの細かな斜格子文と櫛歯文を施す。胎土に石英粒をやや多く含み暗灰色を呈す。伽耶系。81は古代混入の算盤玉形の紡錘車で径4.4厚1.9㎝口径0.9㎝を測る。全面をヘラで整形し、胎土は精良で暗灰色を呈する。

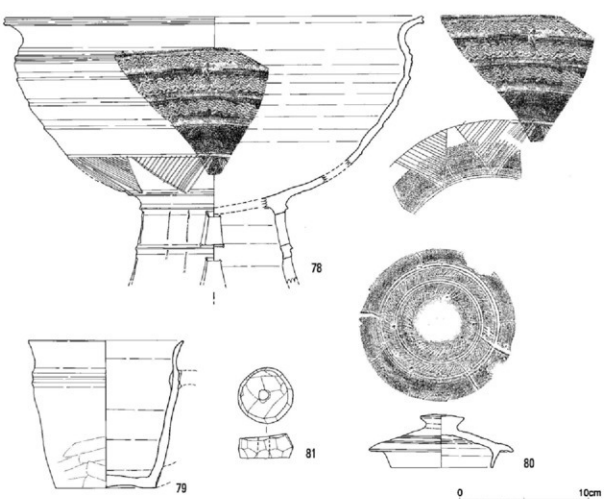


Fig.46　9次調査出土古墳時代遺物実測図(1/3)

② 金武・吉武 S-9号墳出土環頭大刀の保存科学的調査

比佐陽一郎（福岡市埋蔵文化財センター）

金武・吉武 S-9号墳出土の環頭大刀について、特に装飾部分を中心に材質や製作技法の推定を目的とした調査を行った。調査には透過X線、実体顕微鏡といった観察用機器と、蛍光X線分析装置の保存処理用事前調査機器を用いた。

まず資料の概要と肉眼観察の所見であるが、今回調査を行った資料は、鉄製の刀身と鞘口を飾る装飾を施した金具、それらから遊離した環頭から構成される。それ以外の装飾は現状では見られない。

環頭部分の寸法は、最大長65.7mm、環部分は縦方向で33.5mm、横方向（幅）は50.5mm、厚さは部分的に若干のばらつきが見られ、8～10mmの幅がある。環の断面形状はかまぼこ形で、環の内面が平となっているが、下部には幅18.5mmの範囲が1mmに満たない高さで段差が設けられ低くなっている。また、環頭環の下側には環頭金具を挟むように木質らしき有機物が付着。環頭茎の側面は、3面共に茎を挟んだ部材の合わせ目や、部材が左右（前後）でずれた様な段差が見られる。下端は折れたように破断面状に凸凹している。これら茎を挟む部材は現状では黒褐色～茶色を呈している。

環の外面には龍文や規則的な刻み目が半肉彫りで表現されているが、茎を挟み込む部材が接する部分までで文様は止まっている。腐蝕の進行により本来の表面加飾はほとんどが失われているものの、文様の「地」部分（凹んだ部分）には、加飾の痕跡である淡い金色や白緑色の被膜が覆っている。しかし、文様の突出した部分はそれらが剥落し、黒褐色となっている。一見すると金色の加飾が文様上に設けられた線彫り部分にのみ残存している様子などから、あたかも象嵌による加飾を想起させる外観となっているが、よくよく観察し、更に実体顕微鏡を覗けば、実際には、本来全面を覆っていた金色の加飾が、腐蝕などによって失われたものであることは明らかである。

鞘口の装飾金具は、環頭と同じく腐蝕が著しい。薄手の金属板で作られており、上端の縁は広く欠損している。寸法は残存部分で見ると最大長41.3mm、横幅（刀身の上下方向）は35.5mm、厚さ（刀身の左右方向）は22.5mm程度で、断面形状は卵形になる。部材の金属板の厚さは、ダイヤルキャリパーなどの計測機器を当てられる部分がなかったり破損を招く危険があるため数値は得られないが、見た目から推測すると0.3mm程度であろうか。

やはり文様の凹み部分に金色の塗膜状物質が残存し、凸部分はそれらが剥落し黒褐色や緑色の地金が露出している。鞘口を上に、切っ先方向を下にして、刀を真上に向けて鞘口金具を見ると、刃のラインの延長から5mmほど右にずれて、縦方向の凹線が認められる。装飾板を巻いた際のつなぎ目などの可能性が考えられる。

装飾付大刀に関する過去の研究を概観すると、当然のことながら考古学側からアプローチした型式学的な研究が多数を占めており、自然科学や金工技術の立場から製作技法について検討を加えたものは、大刀の型式や出土数に比すれば非常に少ないようである。それでも、それらを見ると、肉厚の単龍や単鳳環頭は環頭部分を青銅で鋳造成形し、その後、鏨などで仕上げ、それよりも新しい型式の大型で板状になった双龍等の環頭装飾は、銅板を鍛造によって成形し、それらを組み合わせるといった作り方が示されている（大谷2006・依田ほか2001）。つまり、大きくは鋳造か鍛造かということになる。

金武・吉武S-9号墳例の場合、表面観察からは、金色の加飾が施され、それが非常に薄いことから鍍金が施されたものと考えられ、とするならば、環頭や鞘口の基盤となる金属は銅や銅合金である

ことは容易に推測される。そのことは腐蝕生成物からも明らかである。しかし可視光線による観察ではここまでが限界であり、細かい成分や内部の構造などは機器分析に頼らざるを得ない。

材質の調査は微小領域用の蛍光X線分析装置を用いた（エダックス社製：Eagle μ probe／対陰極：モリブデン(Mo)／検出器：半導体検出器／印加電圧：40kV・電流値：20～60μA／測定雰囲気：真空／測定範囲0.3mmφ／測定時間120秒）。この装置では分析範囲が非常に小さいため、特徴的な箇所を選択してその部分の組成を知ることができる。その結果、表面の加飾が剥離して下地の金属が露出した部分では、銅のピークのみが強く表れ、他は金や銀と見られる微弱なピークが存在する程度であった。銀や金は加蝕の痕跡から来るものであろうか。これが鋳造品であれば通常は青銅が用いられ、錫や鉛が存在するはずであるが、それらのピークは全く認められない。金の残存する部分では、下地からの影響と見られる銅と、金、そして水銀のピークが見られることから、鍍金によって加飾していることが想定される。ただし、これが金と水銀を混和したペーストを塗布したものか、箔を水銀で貼り付けたのかは、電子顕微鏡などによる微細組織の観察を行っておらず不明である。また、鞘口金具について、下地の金属が露出した部分と金の加飾が残る部分を調べたが、検出されるピークからは、同様に銅を基盤として金（と水銀）で加飾したものと推測された。ごく僅かな銀の検出も、環頭部分と同じである。鞘口金具は別として、環頭は板状ではなく棒状の環であり、青銅の鋳造で成形されると考えるのが普通であるが、分析の結果はこれを覆すもので、理解に苦しむ。もちろん今回は非破壊の表面分析であり、埋蔵文化財調査の場合、腐蝕の影響で本来の組成が変化することは知られているものの、その場合でも多少の痕跡として微弱なピークは検出されるのが普通である。今後の精査の必要性を感じながらも、とりあえずは結果として提示するものである。ちなみに顕微鏡観察では、表面が腐蝕で抉れた部分に、金属の組織が表出したと見られる、まるで織物の様な痕跡が存在しており、これも、もしかしたら環の成形方法を知る手掛かりになるのかもしれない。またX線画像では特につなぎ目のような痕跡も見られない。

施文については、腐蝕が著しく金の残った以外の表層は失われており、加工痕などは見出せないが、銅であれば軟らかいので、鏨で切削したり、凹ませるなどしたことが考えられる。

環頭の茎部分は、現状では黒褐色や茶色など鉄錆の色を呈しており、分析でも小さな銅のピークとともに、非常に強い鉄のピークが認められる。透過X線を用いた観察では、肉眼観察で見る外形線とは異なり、環頭から真っ直ぐに伸びる整った長方形の茎が見られ、そこには表面からは見えない目釘用の孔も2箇所認められる。表面からの観察とも合わせると、やはり環頭の本来の茎を後から何らかの部材で挟んでいることは間違いない。表面には木質が全体に残り、分析では鉄が検出されていることから、柄の木質に刀身茎の鉄分が染みこんで、環頭茎周辺のみ残存した状況も想定されるが、破断したように見える下端面は、木質というよりは金属のようである。

調査の結果、金武・吉武S-9号墳出土の大刀装飾は、環頭、鞘口金具共に、銅で本体を成形し、それぞれ文様を鏨で彫り、金と水銀により加飾したものと推定される。今回の調査で注目されるのは、環頭の環が青銅ではなく純銅で作られていることが明らかになった点である。ただ、具体的な環の成形方法や施文について触れるには、理化学機器による精査や、金工の立場からの検討も不可欠である。ここでは事実の羅列と問題提起に止めて筆を置くことにする。

大谷晃二2006「龍鳳文環頭大刀研究の覚え書き」『財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館2004年度共同研究成果報告書』
依田香緒美・山田琢・伊藤哲也2001「かわらけ谷横穴墓出土品・金銅装双龍環頭大刀の刀装具について－刀装具から推測する金工技術と工具について考察する－」『かわらけ谷横穴墓群の研究』島根県埋蔵文化財調査センター・島根県古代文化センター

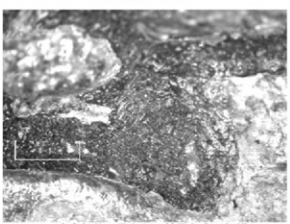
1. 環頭部分の外観

2. 同左　真上から

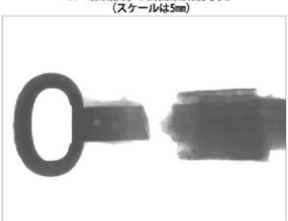
3. 鞘口金具の外観

4. 同左　下から

5. 環頭部分の表面顕微鏡写真
（スケールは5mm）



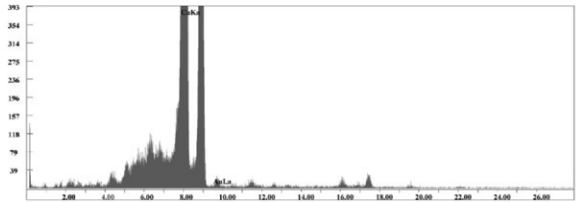
6. 腐食部分に見られる特異な金属組織
（スケールは1mm）



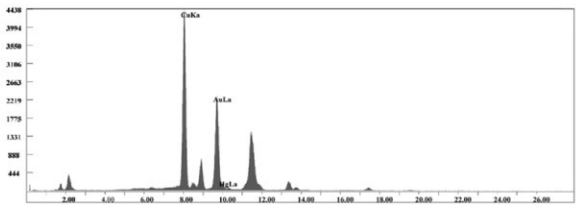
7. 透過X線画像

8. 同左　環頭部分を斜めから撮影

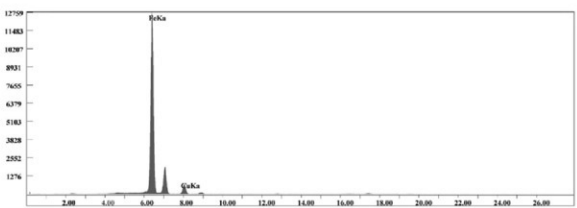
環頭大刀の写真図版



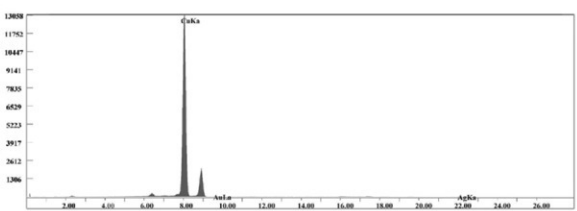
1. 環頭の加飾が剥離して地金が露出した部分（部分的に拡大して表示）



2. 環頭の加飾が残存している部分



3. 環頭茎部分



4. 鞘口金具の地板露出部分

環頭大刀装飾部品の蛍光X線分析結果

第四章　おわりに

1．発見と史跡指定までの道のり

－発　見－　吉武高木遺跡は、福岡市西郊の早良平野に位置し、昭和56から60年度にかけて施工された「飯盛吉武地区土地改良事業(圃場整備)」に伴い発掘調査が行われた。

発掘調査では、特に昭和58・59・60年度において青銅武器や銅鏡、玉類などを数多く副葬した甕棺墓・木棺墓からなる特定集団の墓地群や墳丘墓、大形建物などが相次いで発見された。このことから本遺跡が弥生時代の「クニ」の始まりや社会構造を考える上で非常に重要な遺跡であることが明らかとなり、新聞等による現場報道も盛んに行われた。

－史跡指定へ－　上述のように吉武高木遺跡では重要な発見があったことから、原因者である土地改良組合からも将来にわたって保存が必要な遺跡であるとの認識を得ることができた。このため工事施工にあたっては土地改良組合と設計変更の協議を継続的に行い、切り土部分を可能な限り盛り土工事に変更するなどして遺構の保存を図った。

平成４年度、文化庁より史跡指定のために早急に地権者の協力を得るよう指導があり、指定の同意を得ることの出来た対象地水田14筆(面積 25,104.26㎡)について同年９月に文部大臣に指定申請を行い、翌平成５年10月４日付けで指定告示がなされた。

また、その後指定同意を得た水田５筆(面積 12,074.87㎡)について平成６年２月に追加指定を申請し、平成12年９月21日付けで追加指定の告示がなされた。

さらに、水田１筆(面積 2,316.69㎡)・道路(面積 1,571.51㎡)・水路(面積 1,077.84㎡)について地権者及び管理者との同意、協議を経て、平成12年２月に追加指定を申請し、同年９月６日に追加指定の告示がなされた。これらから史跡指定面積は、全体で42,145.17㎡となった。

なお、吉武遺跡群から出土した銅剣・多鈕細文鏡など合計645点(附 甕棺など30点)の遺物が「筑前吉武遺跡出土品」として昭和62年６月６日付けで国重要文化財(考古資料)に指定された。

※「筑前吉武遺跡出土品」(保管：福岡市博物館－福岡市早良区百道浜三丁目一の一)

(樋渡地区出土品)

・重圏久不想見鏡１面、銅剣（把頭飾・鍔残欠一箇共）３口、鉄剣３口、素環頭太刀１口、鉄鏃１本、玉類（碧玉管玉16箇・水晶算盤玉２箇・ガラス小玉51箇）・附　甕棺（残欠共）６基分

(高木地区出土品)

・多鈕細文鏡１面、銅剣９口、銅戈１口、銅矛１口、銅釧２箇、玉類（硬玉勾玉４箇・碧玉管玉466箇・ガラス小玉１箇）、磨製石剣残欠１口、磨製石鏃２本、壺形土器（残欠共）７箇分・附　甕棺（残欠共）10基分　・附　石斧１箇

(大石地区出土品)

・銅剣５口、銅戈（残欠共）４口、銅矛２口、素環頭太刀１口、鉄剣残欠１口、碧玉管玉11口、加工碧玉細片39箇、磨製石剣残欠６箇、磨製石鏃１本、漆櫛残欠１箇　・附　甕棺（残欠共）13基分

－公有化－　指定地の公有化については、平成11～14年度までの４カ年計画で行った。

史跡地内は農地が大半であるため、農業振興地域農用地区域除外及び農地転用許可について、平成

11年10月に農業振興審議会に付議を行い、平成12年５月15日に農地転用の許可を受けた。

また、史跡公園として同時に都市計画決定が必要なため、平成11年12月に福岡市都市計画審議会に付議し、翌平成12年３月16日に決定告示された。以上の手続きを踏まえ、史跡地内の民有地（面積39,495.82㎡）について国の補助事業（文化庁 史跡等購入費補助金）により、平成11～14年度にかけて用地取得を行い、公有化を行った。

また、福岡市ではこの弥生時代の「吉武高木遺跡」の重要性を市民によく知って頂くために、平成５年度より５ヶ年間、西日本新聞社との共催で「文明のクロスロード・ふくおか」地域文化フォーラムを立ち上げ、各回のテーマに応じて弥生文化の源流となる中国・東南アジア・朝鮮半島に調査団を派遣し、その成果をもとに市内で市民を対象としたシンポジウムを開催し、多くの参加者を得たところである。

それらは、第１回「弥生文化の源流をさぐる」（中国雲南省・タイ派遣）・第２回「かめ棺の源流をさぐる」（中国河南省・湖北省、ラオス派遣）、第３回「環濠集落の源流をさぐる」（中国湖北省陰湘城、ラオス派遣）、第４回「弥生文化の二つの道」（中国湖北省陰湘城・遼東地方、韓国）、第５回「長江にみる弥生の源流」（中国湖北省・長江流域派遣）などであった。

Fig.47　吉武高木遺跡指定区域図

２．整備の取り組み

吉武高木遺跡の整備については、平成５年10月５日付けの指定告示後、同月15日に遺跡の調査研究、保存整備事業を適正に実施する目的で樋口隆康（奈良県立柏原考古学研究所所長）を委員長とする「吉武高木遺跡調査研究指導委員会」（考古学・建築史・造園など16名）を設置し、平成11年度までに計７回の委員会を開催して、調査された弥生時代の遺構及び出土遺物の検討を行った。

その概要を記すと、遺跡概要・今後の調査研究課題・整備の全体構想の検討（第１回）、弥生時代掘立柱建物の検討（第２回）、早良王墓の検討・大型建物の設計（第３回）、甕棺ロード・大型建物の検討（第４回）、総合的検討（弥生時代の早良平野・「クニ」の位置づけ・大型建物）（第５回）、第１～５回指導委員会の検討結果について（第６回）、遺跡の環境整備状況・基本構想に向けての検討（第７回）などである。

また、平成12年度からは、委員会名称を「吉武高木遺跡整備指導委員会」とし、整備基本構想の策定についての検討を行っている。

その第２回では、基本構想骨子案の検討や史跡地内の確認調査について、また、平成14年度の第３回委員会では、整備スケジュール・整備基本方針・史跡地内の道路・水路の付け替え・エントランス位置について、平成15年度の第４回委員会では、今後の課題（スケジュール、エントランス・駐車場の位置）、整備基本構想案についての指導がなされた。

また、平成16年度の第５回では、「整備基本計画」策定スケジュール、計画の章立て、水路・道路の付け替え及び拠点施設の設置目的や規模・条件、今後の確認調査計画について提案がなされ、各分野からの指導がなされた。

平成17年度の第６回では、「整備基本計画」の策定スケジュール、章立て、基本構想に基づくゾーン・整備対象構成の確認・検討がなされた。

以上のような検討を踏まえて、平成15年度末にまとめられた（『 国史跡 吉武高木遺跡整備基本構想 』・『 国史跡 吉武高木遺跡整備基本構想－資料編－ 』 平成16年３月　福岡市教育委員会刊）では、整備の基本理念を「・・**吉武高木遺跡の整備にあたっては、対外交渉の拠点として発展を遂げてきた福岡市の歴史的遺産の象徴として、また我が国における弥生時代の社会構造を解明する貴重な遺跡として、後世まで永きにわたり、その文化的価値の保存を図る。また、市民や地域と連携した魅力ある運営や管理を行いながら、広く適切な公開に努めるとともに、歴史の正しい理解を深めるため、多面にわたる活用を推進する歴史公園を目指すものとする。本遺跡の弥生時代の「クニ」の形成段階や当時の「クニグニ」の世界を想起できるように、多数の副葬遺物を有する墓地の被葬者や早良平野を望む大型掘立柱建物、また飯盛山を借景とする周辺景観などの有する神聖なイメージを彷彿とさせる「聖なる弥生の丘」を整備テーマとした歴史的および自然的空間を創りだす。**」としている。

また、この基本構想を受けて平成17年度末で纏められた基本計画（『 国史跡 吉武高木遺跡整備基本計画 』2006福岡市教育委員会）では、１．全体計画として機能別配置計画（・外周部に環境を再現するゾーン、・「クニ」の始まりを示す遺構公開ゾーン、・「クニ」の成立後の様子を示す遺構公開ゾーン）と動線計画、２．遺構の保存と展示計画として遺構の保存計画と遺構の展示計画、３．遺跡環境の再現計画として景観・環境計画と周辺環境の保全計画、４．遺跡の活用・管理計画として拠点施設の計画（・拠点施設整備の目的と機能、・拠点施設の整備位置の条件、・位置・規模の決定、・拠点施設の規模と内容、・駐車場の必要面積台数）、解説・サイン施設の計画、管理・便益施設計画、企画・運営計画などを網羅した計画が策定された。

次に、平成18年度末には基本設計の一部を行った。(『 国史跡 吉武高木遺跡整備基本設計－その１－ 』2007　福岡市教育委員会)

『基本設計その１』では、Ⅰ. 史跡地外に切り替えが必要な水路及び道路の予備設計、Ⅱ. 指定地内基本設計（造成・雨水排水・植栽・施設・設備の各設計)、Ⅲ. 遺構覆屋基本設計（基礎資料・遺構（展示）覆屋の基本設計)、Ⅳ. 拠点施設（ガイダンス棟）および周辺基本設計について作業を進めた。現在、これ以外の整備要件について検討を進めるとともに、切り替えの必要のある水路・道路について地元及び関係部局と協議を進めているところである。

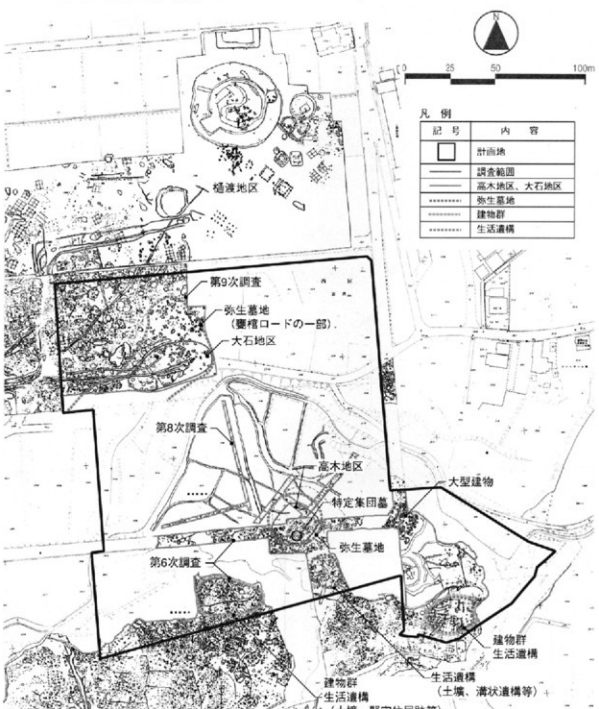


Fig.48　史跡整備計画地の遺構分布図

報告書抄録

ふりがな	よしたけいせきぐん
書名	吉武遺跡群
副書名	飯盛吉武地区圃場整備事業関係調査報告書 14 －総集編－
巻次	XX
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書第1018集
シリーズ番号	第14集
編著者名	横山邦継
編集機関	福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神一丁目８番１号
発行年月日	2008年３月17日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
吉武遺跡群 （よしたけいせきぐん）	福岡県福岡市西区大字飯盛・吉武地内 （ふくおかけんふくおかしにしくおおあざいいもり・よしたけ）	40132	8102・8234 8335・8416 8518・8535 8550・8752 8838	33° 32′ 27″	130° 19′ 13″	1981.11.01 1986.03.31	112,000	圃場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉武遺跡群	集落 墓地 官衙	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世	甕棺墓多数 竪穴住居跡 掘立柱建物 古墳群（円墳・前方後円墳） 土坑など	青銅器・玉類・鉄器、墳輪・須恵器・土師器・陶質土器・木製鍬、越州青磁・円面硯など	半島産青銅器を副葬する厚葬墓、陶質土器を共伴する古墳時代中期～後期の集落遺構

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1018集

吉武遺跡群ＸＸ

－飯盛吉武地区圃場整備事業関係調査報告書14－

発行　2008年３月17日
福岡市教育委員会
〒810-8621
福岡市中央区天神一丁目８番１号

印刷　松古堂印刷株式会社
福岡市西区周船寺１丁目７－64